



612.8

N964d

X

(M)

004710-000-3

612.8-N964d

大日本農功伝

農商務省農務局／編

M25

ACE-1391



秋田

鈴木與市君所贈

金子吉右門毛文

612.8
N 964d
x

農商務省藏版

大日本農功傳 全

發兌書肆 東京博文館

大日本農功傳序

皇朝以農肇國基。歷朝農功綦多矣。太古之世。既有五穀。牛馬蠶等。水陸分種。耕織之業以起焉。爰發金玉殖用材。居室器什稍具。而後經營國土。愛育人畜。療病有術。驅蟲有方。乃求沃壤。栽穀麻。通水利。架橋梁。墾原野。開池溝。興物產。以富鄉邑。著農書。以資實業。或設義倉備凶荒。或立林制。禁濫伐。勤儉率下。捐資導民。黜虛文務實用。撫綏郡民。周給食用。有義農枕苞麥而死者。有達人種樹而舉鴻益者。善講農政。以示開物成務之義。豫定分度。以行積小成大之法。凡耕耘培養種藝之事。飼牧繭絲茶藍之業。古

今農功不遑枚舉。而其功德顯著。長有列祀典之神。或生前有蒙榮賞者。或歿後有蒙追賞者。或有未露恩惠者。或有其功歸湮晦者。今索其傳記。載籍亦鮮矣。是此農功傳。積年協力所纂輯。而雖未完備。訂修以付印刷。冀足以發潛德之幽光也歟。覽者宜爲大日本農史列傳而參攷之。

明治二十五年六月 農務局員織田完之謹撰

大日本農功傳

緒言

農功事實ヲ編修スルノ創意ハ實ニ明治九年ニ在リ當時勸業頭松方正義意ヲ權助岩山敬義ニ傳ヘ農務課員織田完之ニ編修ノ事ヲ擔當セシム完之其ノ意ヲ受テ思フニ農功ノ事實ハ史乘ニ徵スルモノ甚タ少ナク是レ幾多ノ歲月ヲ積ミ倦マス怠ラス材料ヲ集輯スルノ後ニ非レハ成ス能ハサルノ業ナリト先ツ正史ニ就キ天祖以來ノ農政ヲ抄錄シ後一條天皇ニ至テ筆ヲ停ム

名ケテ農政垂統紀ト曰フ其ノ主旨ハ序跋凡例等ニ詳ナリ松方正義之ヲ内務卿大久保利通ニ進ム利通之ニ序シ開板シテ叢覽ニ供シ且之ヲ府縣ニ頒ツ而シテ農功事實ノ編修ニ於ケル完之ハ雇員木村安行根岸和五郎等ヲシテ淺草文庫及ヒ圖書館等ニ就キ群籍ヲ涉獵シテ事實ヲ鈔錄セシメ又修史館ノ藏書并ニ楓山文庫ノ秘書等ヲ探リ摘錄シテ之ヲ貯ヘ假ニ名ケテ農事有功傳ト云フ勸業寮廢セラレテ勸農局トナリ内務少輔品川彌二郎局長ヲ兼勤シ此ノ編修ヲ督ス又農務局ト改稱シ田中芳男局長タリ尋テ岩山敬義局長トナル數

年ヲ經ルノ間完之ハ同僚衣笠豪谷ニ專ラ此ノ材料蒐輯ノ事ヲ託シ拮据數年材料積テ十三冊署名凡一千人ニ及フ年所ヲ經ルノ間別ニ纂訂スル所ノ大日本農史去年七月之ヲ刊行スルニ當リ農務局長齋藤修一郎農事有功傳ヲモ撰修シテ印行センコトヲ欲ス内務大臣品川彌二郎モ亦頻ニ慇懃セリ因テ完之ハ溝口傳三ト之ニ從事シ先ツ十三冊中ノ事實及ヒ諸書ヲ檢閱シテ纂修ニ着手セリ而シテ材料ハ衆多ナルモ小傳ヲ立ツルニ足ル者少ナシ先ツ古今ノ沿革ヲ通觀シテ撰テ四冊ト爲シ名ケテ農功傳ト稱ス但シ古代ノ農功ニ於ケ

ルヤ載籍モ亦少ナクシテ精詳ヲ缺クモノ多シ他日ヲ
俟テ増修スル所アラントス

明治二十五年二月

織田完之識

大日本農功傳

凡例

一此ノ書ハ本邦ノ農政農業ニ關シ功績アル事實ノ小傳ヲ纂修スルモノニシテ其ノ令徳懿行ヲ天下後世ニ表章スルヲ旨トス
一夫レ農ハ建國ノ本體ニシテ振古以來農政農業ニ關スル事實ハ綦テ夥シク諸國至ル處之アラサルハナシ而シテ古來其ノ傳ヲ修メタルノ書ナク又史乘ニ載スルモノ最モ少ナシ是レ他ナシ陰徳ヲ積ムノ事業ハ固ヨリ聞達ヲ求メサルヲ以テ好事門ヲ出テサルノ類多シ是レ此ノ撰ノ無カル可カラサル所以ナリ

一堤防、溝洫、繕路、架橋、鹽田、漁獵蓄積、慈惠ノ類皆農政農業ニ關スルモノトナシ修メテ此ノ中ニ在リ
一勸業寮ノ頃ヨリ十數年廣ク群籍ニ涉リ旁ラ金石ニ徵シ材料十三卷ニ上リ署名凡一千人ニ過ク而シテ之カ小傳ヲ立ルニ足ルモノ一百六十餘名ヲ撰シ假ニ此ノ編ヲナス固ヨリ遺漏ノ多キ他日ヲ待テ補

足スル所アラントス

一考證チ明徵センカ爲メ引用書及ヒ出所チ挿註ス

一土地ノ口碑ニ傳フルモノハ故老傳說ト書シ或ハ異説アルモノハ其ノ本文ノ次ニ附記シテ参考ニ供ス

一編次ノ體裁ハ毎人凡ソ其ノ在世事蹟ノ年代ニ據テ編年ニ列叙ス但シ年代ノ詳ナラサルモノハ事業ノ順序ヲ以テ類似ノ條下ニ附記スルモノアリ

一事蹟中主眼トスル處ハ特ニ之ヲ欄上ニ標記シ之ヲ索引ニ使ス

一事實ノ明鬯チ期スルカ故ニ字句ハ務メテ平易チ旨トシ漢文ハ真片假名ニ改書ス但シ碑銘ノ類ハ原文ヲ存スルモノアリ

一將軍歴代ノ事實及ヒ各藩主ノ農功事實ハ聞見ノ及フ所之ヲ記スルノミ及ハサル所ハ他日ノ増補ニ讓ル

明治二十四年辛卯十二月

織田完之
溝口傳三

大日本農功傳卷之一

目次

保食神 神代五穀牛馬等ヲ生ス	一
素戔烏尊 五十猛命 太屋津姫命 神代	二
木種ヲ播殖ス	
大國主神 少彦名神 神代國土ヲ經營シ人	二
物ヲ愛惜ス	
天富命神武天皇ノ時穀麻ヲ弘ム	三
五十瓊敷入彦命垂仁天皇ノ時池溝灌溉ノ便	四
チ開ク	
道君首名 和銅養老ノ頃力ヲ民食ニ盡ス	五
行基天平ノ頃道路ヲ修メ橋梁ヲ架ス	六
和氣清麿 延暦ノ頃治水開墾ヲ謀ル	八

藤原繩主弘仁中水利ヲ開ク	九
藤原高房天長中隄防ヲ修築ス	十
道昌承和中水ヲ治ム	十
春枝王承和中廢田ヲ興ス	全
山田古嗣承和ノ頃灌溉ノ便ヲ開ク	十
平清盛久安承安年間舟楫ノ便ヲ開ク	全
妓王承安ノ頃水利ヲ開ク	十
勢多爲兼安貞中水ヲ治ム	全
發地太郎同與惣正安天正年間武藏野ヲ 開拓ス	一
武田信玄天文ノ頃水ヲ治ム	十
松浦宗案永祿中農政ヲ説キ農書ヲ著ス	十
大谷休泊天文永祿中水利ヲ開キ樹林ヲ殖ス	全
加藤清正慶長中水利ヲ開キ新田ヲ興ス	十八
吉田了以吉田玄之慶長中舟楫ノ利ヲ開ク	十四
黒田孝高黒田長政慶長中心ヲ民政ニ竭ス	三十
毛利高政慶長中農業ヲ勸課ス	三十二
伊奈忠次慶長中水利ヲ開ク	三十四
北館大學慶長水中利ヲ開ク	三十六
成富兵庫元和ノ頃水ヲ治ム	三十七
石川丈山元和ノ頃水ヲ治ム	三十八
古河重吉元和寛永ノ頃水利ヲ開ク	四十二
甲斐徳本元和寛永ノ頃葡萄ノ効用栽培ヲ示ス	四十七
平岡次郎右衛門寛永中水利ヲ開キ新田ヲ興ス	四十七

安松金右衛門 寛永ノ頃水利ヲ開ク 四十八丁
百姓十右衛門 百姓清右衛門 寛永中治
水開墾ニ力ヲ盡ス 五十丁

香西哲雲 寛永中水害ヲ除キ荒野ヲ開ク 全
松井儀長 寛永中水利ヲ開ク 五十一丁
島津久元 寛永ノ頃富國ヲ謀リ樹林ヲ殖ス 五十三丁
徳川頼宣 寛永慶安年間水利ヲ開キ田産ヲ興ス 五十四丁

大日本農功傳卷之二

目次

熊澤伯繼 正保明暦年間農政ヲ舉ケ水利ヲ興シ
山林ヲ殖ス 五十七丁

野中兼山 正保寛文年間藩政ヲ釐草シ物產ヲ興ス 六十二丁
今里傳兵衛 明暦ノ初メ資ヲ捐テ水利ヲ開ク 六十七丁
澤村勝爲慶安中水利ヲ開ク 六十八丁
永田茂右衛門 同圓水 同勘右衛門
同八郎兵衛 慶安中水利ヲ開キ水旱ノ患ヲ除ク 七十一丁
松平正之 萬治寛文ノ頃林制ヲ立テ漆蠟ヲ繁殖ス 七十五丁
山田次右衛門 寛文ノ頃旱害ヲ除ク 七十七丁
栗林次兵衛 木松平右衛門 山下助左
衛門 重富平左衛門 猪山作之丞 寛文
水利ヲ開キ良田ヲ増ス 全丁
橋本五郎右衛門 實文ノ頃蘭苗ヲ移植シ七島
篠ヲ創製ス 七十九丁
大庭源之丞 寛文ノ頃水利ヲ開ク 八十二丁
岡上景能 寛文ノ頃力ヲ水利開墾ニ竭ス 八十三丁

仙石久俊 寛文中水利ヲ開キ旱害ヲ除ク 八十五丁

田代重榮 附田代重仍 寛文、延寶ノ頃資ヲ捐
テ水利ヲ興ス 八十七丁

奥寺八左衛門 寛文延寶ノ頃力ヲ開墾ニ竭ス：八十八丁

河村瑞軒 寛文天和ノ頃海運ヲ開キ水害ヲ治ム：九十一丁

大梶七兵衛 寛文貞享年間開拓ニ力ヲ盡ス：九十六丁

澄田甚九郎 延寶ノ頃開拓ニ力ヲ盡ス：九十九丁

津輕信政 野口武左衛門 原田某 増
田某 天和、寶永年間大林ヲ造リ新田ヲ開ク 百

百姓與次右衛門 元祿ノ頃書ヲ著シ農家ニ益ス：百
百姓久五郎 同次郎左衛門 元祿ノ頃公
益ヲ謀ス 全

徳川光圀 元祿ノ頃心ヲ民政ニ用ヰ物產ヲ興ス：百
宮崎安貞 元祿中農書ヲ著シ實益ヲ助ク 百
百姓與次右衛門 元祿中荒蕪ヲ開キ田產ヲ興ス：百
百姓久五郎 同次郎左衛門 元祿ノ頃公
益ヲ謀ス 全

櫻井孫兵衛 元祿中心ヲ民政ニ盡シ水患ヲ除ク：百
山口官兵衛 元祿中水患ヲ除キ廢田ヲ興ス：百
種子島久基 元祿中始メテ甘藷ヲ移植ス：百十三丁

大瀬休左衛門 元祿中甘藷ヲ培殖ス 百十六丁

椋梨權左衛門 元祿中荒蕪ヲ開キ田產ヲ興ス：百十八丁

貝原篤信 元祿寶永頃多ク物產ノ書ヲ著ス 全

陶山庄左衛門 元祿寶永頃力ヲ農政ニ竭ス：百二十一丁

市川正好 寶永享保ノ頃林制ヲ改正ス 百二十六丁

佐藤信景 享保ノ頃農政物產ノ學ヲ開キ蝦夷開拓
ヲ謀ル 全

田中丘隅 享保中心ヲ農政ニ專ニシカニ治水ニ
竭ス 百三十二丁

大日本農功傳卷之三

目 次

德川吉宗 享保、延享年間、勤儉下ヲ率ヰ物産ヲ興ス：百三十五丁
井戸平左衛門 享保中甘藷ヲ移シ民食ヲ周給ス：百四十二丁
青木昆陽 享保中甘藷ヲ傳播ス：百四十三丁
百姓作兵衛 享保ノ大飢ニ包麥ヲ枕ニシテ義死ス：百四十五丁
高橋善藏 享保、延享ノ頃櫧樹ヲ植エ物產ヲ興ス：百四十七丁
田中善七 元文、延享ノ頃櫧樹ヲ植ウ：百四十八丁
百姓權四郎 延享ノ頃公益ヲ謀ル：百四十九丁
佐藤藤藏 佐藤四郎兵衛 佐藤安右衛門 佐藤惣四郎 三浦清七 菅原大仙
來生八十郎 服部外衛衛門 延享、寶曆ノ頃力ヲ殖林ニ盡ス：百五十一丁

井上惠助 寶曆中力ヲ殖樹ニ盡ス：百五十三丁
蒼戸九郎兵衛 寶曆、明和ノ頃藩主ヲ佐ケ農政
ヲ舉ク 細川齊慈 寶曆、享和ノ頃櫧蠟ヲ繁殖ス：百五十四丁
平賀源内 寶曆、安永年間開成ヲ主張シ事物ヲ發
明ス 木原才次 明和文化年間山林ヲ繁殖ス：百六十一丁
加藤九藏 明和、文化年間山林ヲ繁殖ス：百六十二丁
人見彌右衛門 水野千之右衛門 加藤
加六 安永、天明ノ頃水利ヲ開キ凶荒ヲ救フ：百六十四丁
上杉治憲 安永、寛政ノ頃士民ヲ安養シ產業ヲ興ス：百六十六丁
曾根原六藏 安永、享和年間力ヲ殖林ニ盡ス：百七十二丁
松平定信 天明、寛政ノ頃弊政ノ一洗シ士民ヲ安
養ス 百七十三丁

堀平太左衛門 寛政ノ頃弊政ヲ革メ農桑ヲ勸ム：百八十丁
黒井半四郎 寛政ノ頃國益ヲ謀リ水利ヲ開ク：百八十二丁
早川八郎 右衛門 寛政、享和ノ頃能ク民ヲ治ム：百八十六丁
近藤重藏 寛政中東蝦夷ニ新道ヲ開ク
高田屋嘉兵衛 寛政中公益ヲ謀リ擇捉ニ漁場
ヲ開ク：百八十八丁
向山周慶 寛政中製糖法ヲ改良ス：百九十二丁
砂糖元兵次郎 寛政ノ頃糖產ヲ興ス：百九十三丁
村本三五郎 寛政ノ頃綿ノ栽培法ヲ改良ス：百九十五丁
野中金右衛門 寛政、弘化年間杉樹ヲ繁殖ス：百九十六丁
名主半七 文化ノ頃資ヲ捐テ良田ヲ開ク：百九十八丁
藤本善右衛門 文化、文政ノ頃蠶業ヲ振興ス：百九十九丁
熊庄徳彌 文化、文政ノ頃糖業ヲ興ス：二百丁
中村源左衛門 文化、文政ノ頃水利ヲ開ク：二百二丁
栗田定之 文化、文政開間力ヲ殖林ニ竭ス：一百四丁
荒木彌一右衛門 文化、文政ノ頃資ヲ捐テ開墾ス：一百七丁
小塚藤十郎 文化、嘉永年間力ヲ殖林ニ竭ス：一百八丁
興野隆雄 文化、文久年間力ヲ殖林ニ竭ス：一百九丁
本多忠籌 文政ノ頃儉素自ラ持シテ凶年ニ備フ：一百十丁
小島蕉園 文政ノ頃能ク部民ヲ治ム：一百十一丁

大日本農功傳卷之四

目 次

佐藤信淵 文政、弘化年間農政物產ノ學ヲ大成ス：二百十五丁
二宮金二郎 文政、嘉永年間興國安民ノ法ヲ施ス：二百二十丁
野崎武右衛門 文政、嘉永年間米鹽ノ利ヲ興ス：二百三十一丁

賀藤清右衛門 文政、天保ノ頃森林ヲ繁殖ス……二百二十四丁
關口長左衛門 文政、安政年間梨ヲ植エ數村ヲ潤ス

安藤伊右衛門 同伊兵衛 同仁平文政、
安政年間水利ヲ開キ旱害ヲ除ク 二百三十八丁

大藏永常天保ノ頃農書ヲ著シ世益ヲ謀ル 二百四十二丁
徳川齊昭天保ノ頃驕奢ノ弊ヲ革メ常平倉ノ法ヲ修ム 二百四十三丁

久保木貞幸天保中窮民ヲ賑シ義倉ノ法ヲ修ム 二百四十九丁
佐藤卯兵衛天保中窮民ヲ賑ス 二百五十三丁

木原昌天保中凶荒ヲ救フ 二百五十四丁
栗谷川仁右衛門 同覺藏天保ノ頃山林ヲ繁殖ス 二百五十六丁

山内董正天保、嘉永年間能ク部民ヲ治ム 二百五十七丁

山元莊兵衛 同藤助 天保、嘉永年間林業ヲ興シ樟樹實植法ヲ發明ス 一百五十八丁

岡田佐平治天保、慶應年間公益ヲ謀ル 一百六十一丁
竹川竹齋天保、慶應年間資ヲ捐テ公益ヲ謀ル 一百六十五丁
安井與七右衛門弘化ノ頃水患ヲ除ク 一百六十八丁
新渡部傳安政、慶應年間力ヲ開墾ニ竭ス 一百七十七丁
伊藤小左衛門 安政、明治年間蘿茶ノ業ヲ興ス 一百七十四丁
中村直三安政、明治年間力ヲ稼穡ニ用ヰ稻種ヲ精撰ス 一百七十九丁
田島直之弘化、明治年間力ヲ植林興産ニ竭ス 一百八十一丁
阿部貞行安政、明治年間力ヲ救荒開墾ニ盡ス 一百八十四丁
高山長五郎文久、明治年間養蠶法ヲ發明ス 一百八十六丁
廣澤安任明治年間力ヲ開牧ニ竭ス 一百八十九丁
鈴木久太夫弘化、明治年間志ヲ農業ニ篤ウシ事

物ヲ發明シテ世ニ裨益ス………二百九十三丁

大日本農功傳卷之一

農務局纂訂

保食神

保食神

食物ノ原質
ヲ成シ五穀
及ヒ牛馬蠶
ヲ生セリ

メ天照大御神大八洲ノ國ニ保食神アリテ食物ヲ有テリト聞キ月讀尊ニ
詔シテ就テ候セシム尊因テ保食神ノ許コ到ル保食神首ヲ廻ラシテ國
ニ嚮ヘハ飯口ヨリ出テ海ニ嚮ヘハ魚類口ヨリ出テ山ニ嚮ヘハ獸類口
ヨリ出ツ其ノ出タル所ノモノヲ以テ尊ニ饗ス尊其ノ口ヨリ出タルヲ
以テ穢レタリト爲ラ大ニ怒テ保食神ヲ斬ル大御神ハ尊ノ殘忍ノ所爲
ヲ惡テ相見タマハス更ニ天熊人ヲシテ往テ看セシムルニ保食神己ニ
死シ其ノ神體ニ牛、馬、粟、稗、稻、麥、大豆、小豆及ヒ蠶生セリ天熊人コレヲ取

テ進獻ス大御神甚タ喜ヒタマヒテ曰ハク是ノ物ハ蒼生ノ食テ活ク可
キモノナリト乃チ栗稗、麥豆、以テ陸田種子ト爲シ稻ヲ以テ水田種子ト
爲ス是ニ於テ五穀、牛馬靈アリ宮雜例集 神代紀
保食神ハ豐受大神ニテ伊勢外宮ニ崇祀シ給フ所ナリ天熊人ノ事ヲ
按スルニ但馬ノ國養父郡養父市場村宮ノ谷ナル養父神社ハ祭神倉稻
魂ニシテ其ノ攝社ノ中ノ一社ハ祭神天熊人ナリト云フ人民養靈ノ
豐饒ナランコトヲ祈ル例祭アリ倉稻魂トハ食物ヲ幸ヒ給フ神ノ稱
ニシテ保食神ト云フニ同シ

素戔烏尊 五十猛命 大屋津姫命

素戔烏尊ハ天照大御神ノ御弟ナリ尊韓地ニ到リシ時金銀アルヲ見テ
之ヲ吾邦ニ致シ民ヲ利セントシテ以爲ラク之ヲ運輸セソニハ舟檻
無カルヘカラスト還リ來テ後スギ杉、檜、柏、楠ヲ化成シテ曰ハク杉ト楠トハ

殖ス

船材ニ檜ハ宮材ニ拔ハ棺材ニ用井ルヘシト又人民ノ食ヲヘキ菓木ノ
種子ヲ播殖シ以テ食用ニ供セリ其ノ子五十猛命大屋津姫命モ亦能ク
木種子ヲ分布ス或ハ云フ尊ノ子五十猛命天國ヨリ降ル時ニ木種子ヲ
齋シテ韓地ニ下レリ然レトモ彼ニ播サスシテ大八洲ノ國ニ來リ筑紫ヨ
リ始メテ全國ニ播殖シ是ヨリ枯山皆青山ト成リ民皆恩賴ヲ蒙フレリ
故ニ稱シテ有功ノ神ト云フ神代紀 一書古語拾

大國主神 少彦名神

大國主ノ神ハ素戔烏尊ノ六世ノ孫ナリ少彦名ノ神ト力ヲ戮セテ蘆菅ヲ全
國ノ海岸ニ植テ以テ浮泥ヲ固クシ又人民及ヒ畜類ノ爲メニ病ヲ療ス
ル方ヲ定メ又鳥獸昆蟲ノ災異ヲ攘ハシカ爲メニ禁厭アツヒノ法ヲ定メタマ
フ是ヨリ人民永ク此ノ二神ノ恩賴ヲ蒙フレリ神代紀 一書古語拾

天富ノ命

命ハ神武天皇ノ御世ニ穀麻^{カガ}_{アサ}ヲ殖ウルコトヲ弘ム是ヨリ先キ天日鷦^{アメニヒワシ}命ノ裔孫若干人アリテ皆能ク穀、麻ヲ作レリ是ニ至テ天富ノ命天皇ノ勅ム奉シ之ヲ率ヰテ阿波ニ至リ肥饒ノ地ヲ求メテ穀、麻ヲ殖ウ是ヲ阿波ノ齋部ト云ヒ其ノ地ヲ麻殖ト云フ天富ノ命更ニ沃壤^ヒ東方ニ求メ阿波ノ齋部ヲ分ケ率ヰテ東國ニ往キ穀、麻ヲ殖ウ好キ麻ノ生スル所ヲ總ノ國ト云ヒ好キ穀ノ生スル所ヲ結城ト云フ阿波ノ齋部ノ居ル所ヲ安房ト云フ天富ノ命乃チ其ノ地ニ太王^{アマタ}ノ命ノ社ヲ建テ、祀レリ古語拾遺

總ノ國ハ今ノ安房上總下總ノ地ヲ云フ

五十瓊敷入彦ノ命

命ハ垂仁天皇第二ノ皇子ナリ天皇ノ三十五年敕旨ヲ奉シテ河内ノ高萬民ノ爲メ石池^シ茅渟^{タヌ}池大和ノ狹城^{ナカキ}池迹見^ミ池ヲ作り大ニ灌漑ノ便ヲ開ク後遍ク諸

ニ灌漑ノ便

國ヲ巡歷シ萬民ノ爲メニ池ヲ鑿リ渠ヲ通ス薩摩國人ハ命ノ恩賴ヲ感戴シ祠ヲ鹿兒島郡ニ建テ之ヲ祀ル其ノ地ヲ伊敷ト云フ今尙土人此ノ神社ヲ稱シテ年之宮或ハ年之神ト云フ年穀ニ功アルヲ以テナリ日本本農政論

三代實錄ニ貞觀二年三月庚午薩摩國正六位上伊邇色神ニ從五位上ヲ授クトアリ而シテ正六位上ヲ授ケラレシハ何レノ世ナルヤ國史ニ洩レタリ又命ハ普ク諸國ヲ巡歷シ薩摩ニ至テ薨スト云フ說アレトモ御墓ハ諸陵式ニ宇度墓ト云ヒ和泉國日根郡ニアリ兆域東西三町南北三町戸烟ニ烟トアリ

道君首名

首名少キヨリ律令ヲ治メ吏職ヲ曉習ス和銅ノ末出テ筑後守ト爲リテ任ニ赴キ兼テ肥後國ヲ治ム專ラ人民ノ生業ヲ勸勵シ耕營ヲ教督シ頃道君首名

専ラ心ナ民
業ニ用非勸
謀懲到牧民
ノ職ニ稱フ

畝ニ菓菜チ種ウル法ヨリ鷄豚チ養フ事ニ至ルマテ皆章程アリテ具ニ
事宜ヲ曲盡セリ時々躬カラ按行シ教ニ遵ハサル者アレハ輒ナ之ヲ謹責
ス始メハ老少窮ニ之ヲ怨罵セシカ其ノ實チ收ムルニ及デ悅服セサル
者ナシ一兩年ノ間ニ國中皆之ニ化ス又陂池チ興築シ以テ廣ク灌漑ニ
便ス肥後味生^{アヂフ}池及ヒ筑後所在ノ陂池皆是ナリ是ニ由テ人其ノ利チ蒙
フリ温給スルコトハ皆首名ノ力ナリ故ニ吏事チ言フ者ハ咸以テ稱首
トナス養老二年正五位ニ進ミ年五十六ニシテ卒ス百姓之ヲ祠ル貞觀
中詔シテ其ノ政績ヲ追褒シ從四位下ヲ贈ラル元正紀、大本史

行 基

行基ハ藥師寺ノ僧俗姓ハ高志氏和泉國ノ人ナリ都鄙チ周遊シテ衆生
チ教化ス道俗化チ慕ヒ追從スルモノ動モスレハ千チ以テ數フ而シテ
行ク處行基來ルト聞ケハ巷ニ居人ナク爭ヒ來テ禮拜ス行基其ノ器ニ

道路ヲ修メ

橋梁ヲ架入
百姓其ノ賜
ヲ受ク

隨テ誘導シ咸ク善ニ趣カシム又親ラ弟子等チ諸ノ要害ノ處ニ率ヰ道
路ヲ修メ橋梁ヲ架ス聞見ノ及フ所咸ク來テ功ヲ加ヘ日ナラスシテ成
ル百姓其ノ賜ヲ受クル少ナカラス聖武天皇甚タ之ヲ敬重シ詔シテ大
僧正ノ任ヲ授ク天平勝寶元年二月遷化ス時ニ年八十本紀、續日

故老傳說ニ曰ハク養老年中行基甲斐ノ歛澤ニ來リ南山ヲ鑿開シテ
洪水ヲ導キ富士川ニ注ク民其ノ德ニ感シ祠ヲ建テ之ヲ祭リ稱シテ
決鑿明神ト云フ今モ小柳川ノ下畔ニ草祠アリ其ノ處ヲ禹ノ瀬ト名
タル巨石モ多ク存セリト又攝津郡談ニ攝津ノ國矢田部郡西代村ニ蓮
池磨^{カツカ}一說播アリ天平中行基ノ鑿開スル所ニシテ農業ニ旱魃ノ患ナカ
ラシメンカ爲メナリト云フ又地方落穂集ニ聖武天皇ノ御宇吉備眞
備僧行基僧泰澄ノ三人勅ヲ奉シテ天平七年ヨリ同十七年ニ至ル十
年間ニ諸國ノ郡郷邑里村巷ノ境ヲ定ム當時泰澄ハ東國ヲ制シ駿河

ヨリ中國迄ハ行基之ヲ奉シ中國ヨリ西國迄ハ異備之ヲ改正スト云
フ又此ノ三人勅ヲ奉シテ田畠ヲ分ナ六尺四方ヲ一步トシ三百六十
歩ヲ一段トシ十段ヲ一町トス地境ニ炭ヲ埋ムルハ異備等ノ三使國
郡ヲ改ムル時境ノ地ニ炭ヲ埋シト云フ炭ハ土中ニアリテ朽サル
故ナリ

和氣清麻呂

清麻呂ハ延暦中攝津大夫ト爲リ從四位上ニ叙シ民部大輔ヲ兼ヌ建言
シテ曰ハク河内攝津兩國ノ界ニ川ヲ鑿リ堤ヲ築キ荒陵ヨリ南河内川
水利ヲ開テ
堀闘ヲ計リ
地理ヲ案シ
テ公私ノ便
ヲ建議シ義
田ヲ興シテ
氣郡ニ隸ス方今郡治藤野郡ニ在リ大河アリテ雨水ニ遭フ毎ニ公私通

贈給ニ供ス

シ難シ河西屢々公務ヲ閼ク請フ河東ハ舊ニ依テ和氣郡ト爲シ河西ニ磐
梨郡ヲ建テ其ノ藤野郡ノ驛家ハ河西ニ置キ以テ水害ヲ避ケ兼テ勞逸
ヲ均クセント之ヲ許ス尋テ正四位下ニ進ム時ニ新都ヲ長岡ニ營ム十
歳未タ成ラス費ス所貲ラレス清麻呂密ニ奏請シ遊獵ニ托シ葛野ノ地
ヲ相シ以テ都ヲ遷ス延暦十五年從三位ニ進ム未タ幾ナラス骸骨ヲ乞
フ許サス功田二十町ヲ賜ヒ以テ子孫ニ傳ヘシム十八年薨ス年六十七
正三位ヲ贈ラル清麻呂通曉スル所多ク最モ故事ニ明カナリ民部省例
二十卷ヲ選ス又中宮ノ教ヲ奉シ和氏譜ヲ選シ之ヲ上ル帝甚タ之ヲ善
ス嘗テ田一百町ヲ備前ニ墾シ永ク賑給ノ資トス鄉民之ニ賴ル史列傳

藤原繩主

繩主ハ前大和守ナリ弘仁中紀伊守未等ト地理ヲ考ヘ大和ノ國元漢ノ直ノ
舊宅地ヲ掘リ池ヲ作ラハ旱魃ノ難ヲ免ルヘキヲ奏上シテ裁可ヲ得タ
水利ヲ開キ
旱魃ヲ除ク

リ因テ此ノ地ニ池ヲ作り灌漑ニ便ス之ヲ益田ノ池ト曰フ故日本紀畧、老傳說
因ニ云フ益田池ハ弘仁十四年ノ經營ニシテ新錢一百貫ヲ大和ノ國ニ
賜ヒテ鑿ラシム其ノ碑文ハ僧空海ノ撰并書スル所ニシテ其ノ文章
ハ彩絹ニ書シタルモノ高野山ニ傳フ集古十種中ニ臨摹シテ之ヲ掲
出セリ

藤原高房

高房ハ弘仁十三年右京少進タリ天長四年美濃ノ介ト爲ル其ノ任ニアル
堤防ヲ築キ
灌漑ヲ便ス

ヤ威恵兼施シ屬託行レス奸伏ヲ發摘シテ境ニ盜賊ナシ美濃ノ國安八郡
ニ陂渠アリ堤防決壩シテ水ヲ蓄フルチ得ス高房隄防ヲ修メント欲ス
土人傳ヘ言フ陂渠ニ神アリ水ヲ遏ムルヲ欲セス之ニ逆フ者ハ死ス故
ニ前代ノ國司廢シテ修ソスト高房曰ハク苟モ民ニ利アレハ死ストモ
恨ミスト遂ニ民ヲ驅リ隄ヲ築キ溉灌疏通ス民今ニ至ルマテ之ヲ稱ス

後ヲ備後、肥後、越前等ノ守ヲ歴テ所在善政アリ仁壽二年二月卒ス年五十
八寶文總
八寶錄

僧道昌

道昌ハ承和年中ノ人ナリ適大井川堰決ス詔令アリ道昌自躬ヲ率先其
ノ功業ヲ創ム衆人子來日ナラスシテ成ル故老感涙ヲ流シテ云ハク圓
ラサリキ今日復タ行基菩薩ノ迹ヲ觀ントハト文總
實錄

春枝王

春枝王ハ忍壁親王ノ後ニシテ左京ノ人ナリ父ハ仲嗣王少ウシテ嵯峨
天皇ニ仕フ人ト爲リ謙遜吏才アリ佛道ヲ敦崇ス承知ノ初メ越後ノ介ト
爲リ政績頗ル著ハル十年撰ハレテ能登ノ守ニ任せラレ從五位ニ叙ス其
ノ地田野荒廢百姓疲弊ス春枝王心ヲ悉クシテ經理シ職ニ蒞ムコト數

年民庶蘇息シ部内大ニ安シ齊衡年中從五位上ニ進ミ下總守ト爲ル病
チ以テ任ニ之カス隱居病ヲ養フ詔シテ節祿位祿ヲ給シニ見任ニ准
セシム三年卒ス年五十九文徳寛、日本史

山田古嗣

古嗣ハ右京ノ人廉謹ニシテ寡言ナリ幼歲母ヲ喪ヒ從母ニ敬事ス天性
水ヲ蓄ヘ旱篤厚承和十三年出テ阿波介トナル政績聲アリ阿波美馬兩郡常ニ旱災
害ヲ除ク

ニ罹ル古嗣殊ニ方畧ヲ廻ラシ陂ヲ築キ水ヲ蓄フ其ノ灌漑ニ賴リ人以
テ温給ス後相摸介トナル仁壽三年十二月病テ官ニ卒ス年五十六本史

平清盛

清盛ハ久安二年安藝ノ守ニ任ス嘗テ隱戸ヲ過キ出崎ノ山ニサヘラレ
舟楫ノ便チ

南ニ轉廻スル十里餘ナルヲ憤リ此ノ出崎ノ山ヲ開通シ舟ヲ一直線ニ

開ク

達スヘキヲ部下ニ命ス衆皆人力ノ及フ所ニアラアルヘント曰フ然レ
トモ清盛ノ下知ヤミガタク數萬人ノ力ヲ以テ陸路ニ連ル所ヲ斷ツコ
ト凡ソ十町遂ニ舟ヲ通ス又承安中大納言時忠ト議シ兵庫ニ經島ヲ築
キ良港ト爲ス今ノ輪田ノ泊是ナリ西遊記、兵庫築島傳

妓王

水利ヲ開ク
妓王ハ江州益須郡ノ產ナリ平ノ清盛ノ妾トナリテ寵アリ當時郷里ノ邊
灌漑ノ利乏シキヲ憂ヒ清盛ニ乞フテ池溝ヲ鑿チ益須川ヲ決シテ之ヲ
導キ凡ソ三里間ノ各村ヲ潤ホセリ其ノ灌漑ノ餘水ハ湖中ニ落ルナリ
地民之ヲ德トシ後其ノ邊リニ寺ヲ建テ妓王ヲ追善ス今尙耆老ノ如キ
ハ妓王ノ忌日ニ當レハ精進シテ其ノ追福ヲ祈ルモノアリト云フ小説軒

勢多爲兼

妓王勢多爲兼

治水ノ法ニ
精ク賀茂川
洪水ヲ治ム
溺死スル者多シ爲兼敕命ヲ奉シ家法ヲ以テ河水ヲ治ム
東海道名所圖繪

武藏野ヲ開
拓シ村落ヲ
創設ス

太郎ハ武藏ノ國高麗郡笠幡村ノ人ナリ此ノ地ハ往昔武藏野ト稱シ荒漠
タル曠原ニシテ空ク狐狸ノ巣窟ニ委セリ正安年中太郎信州ヨリ來リ
此ノ地四百八十町歩餘チ區畫シ茲ニ始メテ居トシ專ラ開墾種藝ニ
力ヲ竭シ爾來踵々續テ移住スル者日ニ月ニ增加シ遂ニ一村落ヲ爲シ
笠幡村ト號ス故ニ該地方ニ於テハ太郎ナ以テ山林創業ノ始祖ト稱ス
然レトモ當時培養ノ法未タ詳カナラサルナ以テ意ヲ其ノ蕃殖ニ注ク
モ其ノ功少ナク林相自ラ衰頽ニ至ル後裔與惣ナル者アリ性山林ヲ愛
惜ス天正年間其ノ衰頽ヲ歎キ百方回復ヲ考按ス而シテ在來ノ樹木中
大ナルモノハ既ニ枯色ヲ現シ小ナルモノハ生育力ヲ失ヒ到底荒廢ニ

屬セソコトヲ察シ斷然之ヲ洗伐シ更ニ稚苗數万本ヲ跡地ニ栽植シ加
フルニ數十町歩ノ原野ヲ新聞シ樹木ヲ増殖シ以テ村民ニ山林ノ貴重
ナルコトヲ諭シ利用厚生ノ道ヲ勸誘シ漸次ニ山林蕃殖ノ功ヲ奏スル
ニ至ル爾來其ノ子孫モ益荒蕪ヲ開キ樹藝ヲ力メ尙四十七町歩ノ地ヲ
購ヒ殖林ニ從事シ怠ラスト云フ明治十五年山林共進會ノ時其ノ功ヲ
賞シ三等賞ヲ賜フ十五年山林

武田信玄

信玄ハ甲斐ノ國主ナリ御詔川ノ川瀬彌高クナリテ水勢建瓴ヲ傾クル
カ如ク釜無川コレカ爲メニ東折シテ北筋中郡筋ノ卑地ニ向ヒ亂流極
リ無シ因テ信玄大ニ水役ヲ興シ下條南割村ニテ巖石ヲ鏟鑿スルコト
廣サ十八步上流駒場有野ニ石積出ヲ置キ駿流ヲ激シテ斜ニ東地ニ向

ハシム今ニ信玄堤ト云フ甲斐國志
山川之部

松浦宗案

宗案ハ諱ハ貞家通稱傳次入道シテ宗案ト稱ス伊豫國宇和郡立間ノ城農政ヲ舉ケ富強ヲ致スノ要ヲ説キ始メテ農書ヲ著ス

主土居式部大輔清良ノ配下ニ在テ有識ノ聞エアリ最モ心ナ經濟ニ留メ能ク農事ニ通曉ス永祿年中清良深ク國勢ノ衰弱スルヲ憂ヒ宗案ヲ召シテ國事ヲ諮詢ス宗案乃チ意見凡ソ十五卷ヲ筆シテ之ヲ獻ス清良之ヲ採納シ以テ領内ニ施行スト云フ大要皆農政ヲ舉ケ富強ヲ致スノ事ナリ其ノ六七八ノ三卷ハ親民鑑月集ト題シ懇切ニ農業ノ順序ヲ説キタルモノニシテ勸農訓民ノ法ヨリ農產品類ノ耕種方ニ説及ス土居記農政條

大谷休泊

休泊ハ天文中上野國平井ノ城主上杉憲政ニ事フ當時州内不毛地多ク

水利ヲ開キ新田ヲ興シ又森林ヲ増殖スシテ居民モ寡キナ憂ヒ水理ヲ按シ溝渠ヲ通シ以テ灌漑ヲ便ニス是ニ於テ水田數百町ヲ得タリ又土性ヲ相シ其ノ尤モ粗惡ニシテ穀菜ニ適セサルモノヲ籍シ以テ林ヲ殖ス而シテ州内松樹乏シ獨リ太田ノ金山松樹藩茂ス乃チ稱松數十萬株ヲ金山ニ抽キ之ヲ曠野ニ栽ウ永祿元年ニ叔メ二十年ヲ經テ荆棘ノ地化シテ茂林ト爲ル即チ今ノ大谷官林是ナリ今平井村ヲ過キテ其ノ城墟ヲ視レハ荒烟野草僅カニ廢濛ヲ認ム邑樂郡ニ到リ所謂大谷原ヲ經レハ喬松森立蒼翠數里ニ亘ル其ノ西ニ休泊渠ナルモノアリ渡瀬川ヲ引キ縱横分流播種ノ候毎ニ深湛汪漾トシテ數十村其ノ利ニ賴ル蓋シ憲政父祖ノ遺業ヲ襲クヨ方リ關東ノ管領ヲ以テ號令ス其ノ勢ヒ盛ナリト謂フヘシ然リ而シテ後世子孫湮滅ニ歸シ平井村ノ人民憲政ヲ稱説スル者ナシ休泊ノ如キハ當時ニ在テ封爵ノ記スヘキナシト雖ヘトモ數百年ノ下土人猶其ノ德ヲ懷フト云フ明治十五年農商務省山林共進會ヲ舉ケ帝シテ森林ニ功アル者ヲ錄上

セシム是ニ於テ休泊三等賞ニ膺リ金星銀盃ヲ裔孫熊倉某ニ賜ヒ以テ
其ノ功ヲ旌ス館林ノ地大谷原ニ接ス松林中ニ休泊ノ墳アリ土人相謀
リ之ヲ修メ且^ツ地ヲ躰躅岡コトス群馬縣令楫取素彦文ヲ撰ミ之ヲ石ニ
記シ以テ不朽ニ傳フ大谷休泊紀功之碑

加藤清正

清正ハ天正十六年肥後國ヲ分領シ慶長五年肥後一國ノ領主ト爲ル天
正以前同國ハ諸氏ノ分領スル所ニシテ戰爭屢々起リ加フルニ堤防溝洫
ノ設ケ完カラルカ爲メ年々水害ヲ被フル甚シク百姓其ノ堵ニ安ソ
セス往々四方ニ離散シテ田圃日ニ荒廢ニ屬ス清正始メテ此ノ地ヲ領
スルニ及テ專ラ心ヲ治水ニ用ヒ大ニ土功ヲ起シ隄防ヲ築キ溝洫ヲ通
シ又荒蕪ノ地ヲ新墾シテ民ニ產ヲ授ク其ノ國ヲ一統スルニ及テハ堅
城ヲ築キ要害ヲ固メ河川ヲ改鑿シテ漕運ヲ開キ池塘ヲ設ケテ灌漑ヲ

水利ヲ開キ

新田ヲ興ス

便ニス是ニ於テ積年ノ災害頓ニ除キ百姓皆其ノ堵ニ安ンシテ各業ヲ
樂メリ此ノ土功タル天正十七年正月ニ始マリ慶長十年十一月ニ竣ル
年ヲ閱スル十七、新村ヲ創設スル八、廢村ヲ興ス二十一、新田ヲ得ル凡ソ
二千餘町、草高凡ソ二萬餘石ヲ得ル後嗣忠廣モ亦父ノ遺業ヲ繼キ水利
ヲ開キ新田ヲ興ス少ナカラス遂ニ封内處トシテ稼穡セサルノ地ナキ
ニ至ルト云フ清正慶長十六年六月卒ス年五十清正ハ大閻秀吉ト閻里
ヲ同ウシ身ヲ農畝ヨリ起シ大小百餘戦未タ嘗テ創ヲ被ラス最モ築城
ノ術ニ精シク治水ニ心ヲ竭シ士民ヲ愛養ス人々其ノ用ヲ爲スヲ樂ム
後ヲ祠ヲ立テ之ヲ祀レリ藤公遺業記
十三朝紀聞

山内四郎左衛門

四郎左衛門ハ島津義久ノ臣ナリ義久國分新城ニ居ヲ移スヤ四郎左衛
門之ニ供奉シ上小川村字有下ニ住居ス慶長中唐土ヨリ長崎ニ煙草種
テ煙草ヲ獲

山内四郎左衛門

力ヲ栽培ニ
盡ス

チ齋ス者アリ四郎左近衛門之ヲ得テ宅地ニ栽培大寛文ノ頃國分煙草ノ
稱大ニ世ニ顯ルニ至リ益栽培ニ熱心シ焦心苦慮撰種施肥ノ方法ヲ研
究シ遂ニ菜種油粕ヲ用ヰ培養スルノ方法ヲ發明ス此ノ法収穫スル所
多量ニシテ且品位頗ル良好ナリ四郎左近衛門乃ナ各村ニ諭スニ此ノ培養
方法ヲ以テシ到ル處油粕ヲ以テ第一ノ肥料ト爲スニ至レリ米麥大豆
菜種煙草豆

品共進會出
者履歴

明治十五年米、麥、大豆、菜種、煙草共進會ヲ開設スルニ際シ四郎左近衛門
ノ後裔俊延ナルモノ寛永二年以降文化六年ニ至ル古葉九種ヲ出品
大量合計三十四匁枚數六十九、伊勢ヶ原、車田、龍王、砂走、武元、山元其ノ
產地タリ

服部左近衛門

左近衛門諱ハ宗重伊賀ノ國ノ產ナリ永祿年間織田信長ノ時ニ當リ世ノ

亂チ避ケ生國チ辭シテ薩摩ノ國ニ赴キ國守島津義久ニ賴テ奉仕ス義久
深ク之ヲ愛シ以テ近習ト爲ス左近衛門功アリ屢賞ヲ蒙フル義久居チ
國分新城ニ移スニ當テ左近衛門亦新城ノ傍ニト居ス左近衛門常ニ
煙草ヲ嗜ム新城近隣ノ地良葉ヲ產スト雖ヘトモ未タ之ヲ販賣セス左
近衛門漸ク自己ノ吸料數品ヲ得テ之ヲ吸喫スルニ風味誠ニ高ク極メ
テ良品タリ茲ニ於テ乎左近衛門其ノ地ノ煙草栽培ニ適スルヲ慮リ意
ヲ殖産ニ注キ其ノ產額ヲ盛ナラシメント欲シ栽培試作ノ事ヲ義久ニ
乞フ義久之ヲ許ス乃ナ自カラ未耜ヲ執リ國分字梅木ニ於テ一段餘步
ヲ耕耘シ爰ニ始メテ煙草ヲ栽培ス爾來奮勵研究ノ餘遂ニ他ニ比類ナ
キノ良品ヲ收穫スルヲ得タリ乃ナ之ヲ義久ニ獻ス義久感悅爲メニ賞
ヲ與フ時ニ慶長十一年ナリ爾來義久更ニ左近衛門ヲシテ煙草繁殖ノ
事ヲ掌ラシム左近衛門各地ヲ奔走シ種子ヲ分與シ自ラ師トナリテ其
ノ栽培方法ヲ教授シ以テ百姓ヲ勸奨ス諸國ノ人來テ傳習ヲ乞ヒ種子

チ需ル者陸續絶エス諸國到ル處栽培セサルナキニ至レリ繁殖ノ道遂ニ開ケ産出品モ亦上品チ占ム晩年ニ及ヒ尙ホ勸奨チ事トシテ止マス烟草ノ等級チ定メ其ノ名所チ指摘ス煙草栽培ノ業年ヲ追フテ益繁殖チ極メ諸國競フテ培養スルニ及ヒ薩摩ノ國分煙草ノ名稱始メテ天下ニ顯ハル年八十歳遂ニ歿ス米麥大豆菜種草豆共進會出品者履歷

左近衛門始メテ梅木ニ栽培セヨリ以來子孫其ノ業ヲ繼續シテ明治ニ及フ當主休五郎ニ至ル十有七代二百七十六年ヲ經過ス其ノ間良品チ產スル頗ル夥シク子孫左近衛門ノ遺志チ奉シ後世ノ参考ニ供センカ爲メ年々產出ノ新葉チ加ヘ香氣ノ逃散形體ノ毀損ヲ防キ以テ古葉チ保存シ明治十五年米、麥、大豆、菜種、烟草共進會ニ之チ出品ス慶長十一年ニ起リ文政八年ニ至ル四十一種梅木、伊勢ヶ屋敷、武元、車田、砂走、龍王、有下、砂ヶ町、常盤、氣色ノ森、山元、妻畠、草牟田之カ產地タリ

直川智

川智ハ大隅國大島大和濱方ノ人ナリ農チ以テ業ト爲ス慶長中琉球ニ航セント欲シ偶颶風ニ遭ヒ支那ニ漂流ス居ルコト歲餘甘蔗ノ栽培及ヒ製糖ノ術チ習得シ蔗苗チ郷里ニ携ヘ之チ栽培シ黒糖チ試製ス頗ル良品チ得タリ是レ實ニ該地甘蔗栽培ノ嚆矢ニシテ大島ヨリ喜界島、徳島等ニ及ヒ家トシテ製糖セサルモノナク三島農產物中ノ第一ニ位シ

始メテ蔗苗
チ傳ヘ製糖
チ弘ム

シ然レトモ四方ノ賈舶米穀及ヒ雜貨チ載來リ爭テ糖ニ換フルチ以テ乏キチ告ケス明治十三年春官川智ノ事蹟チ追賞シテ金幣一百圓チ賜フ是ニ於テ島士基俊良等川智ノ後裔嘉和誠ト議シ祠ヲ建テ、之チ舉祀シ開饒神社ト號ス愛媛縣勸業報告明治十

足立牛右衛門

半右衛門諱ハ重信伊豫松山城主加藤嘉明ノ家臣ナリ嘗テ主命ヲ奉シ灌漑ノ便ヲ今出川ノ水流ヲ轉換シ土堤ヲ築キ灌漑ニ便セリ因テ其ノ處ヲ重信ト開ク名ツク又左馬助殿堤ト云フアリ今上森松川ト云フ其ノ源ハ砥部十六谷ノ水流出シテ夏月モ涸ル、コトナシ愛媛乃面影、

吉田了以

了以姓ハ吉田其ノ先ハ近江源氏佐々木ノ支族ニシテ字多天皇ノ後ナリト云フ世近江ニ住シ五代ノ祖徳春山城ノ國嵯峨ニ來リ家ス其ノ居ル所ハ乃角倉ノ地ナリ昔シ京城ノ四隅ニ官倉アリ西ニ在ルチ角ノ藏ト曰フ事ハ沙門石夢窓ノ天龍寺圖記中ニアリ徳春ノ子宗林宗林ノ子宗忠皆克ク屋ヲ潤ホシ室町將軍ニ仕フ宗忠ノ子宗桂蘿髮シテ天龍寺ニ遊ヒ嘗テ醫術ヲ學フ一旦僧良策彦道等ニ從テ明國ニ赴ク既ニシテ本

邦ニ還リ其ノ業益進ム中村氏ヲ娶リ天文二十三年甲寅某月某日ヲ以テ了以ヲ生ム了以諱ハ光好小字ハ興一後名ナリ了以ト改ム性工役ヲ嗜ミ嘗テ筮仕ニ志シ徳川家康ノ世ヲ治ムルニ及テ初メテ出謁ス慶長九年甲辰了以美作ノ國和計河ニ往キ艤船ヲ見テ以爲ラク凡ソ百川皆以テ艤船ヲ通スヘシト乃チ嵯峨ニ歸リ大堰川ニ泝リ丹波ノ保津ニ至テ其ノ水路ヲ見テ自ラ謂ヘラク湍石多シト雖ヘトモ舟ヲ行ルヘシト翌年乙巳其ノ子玄之ヲ東武ニ遣ハシ以テ之ヲ請フ台命アリ曰ハク古ヘヨリ未タ舟ヲ通セサル所今通開セント欲ス是レ二國ノ幸ナリ宜ク早ク之ヲ爲スヘシト丙午ノ春三月了以初メテ大堰川ヲ浚ヘ其ノ有ル所ノ大石ハ轆轤索ヲ以テ之ヲ牽ク石水中ニ在ルモノハ鐵棒ノ頭ヲ銳シ長ナリ碎ク水面ニ出ルハ則チ烈火ニテ之ヲ燒碎ス河ノ廣クシテ淺キモノハ石ヲ帖シテ其ノ河ヲ狭クシ其ノ水ヲ深クス又深アル所ノモノハ其ノ

大ニ舟楫ノ
便ヲ開ク

吉田了以

上ヲ鑿テ下流ト之ヲ平準ニス秋八月ニ逮テ功成ル是ヨリ先キ筏ヲ編
テ纏ニ流ルゝノミ是ニ於テ丹波世喜邑ヨリ嵯峨ニ到ルマテ舟初テ通
シ五穀鹽鐵材石等ヲ多ク載漕ス民其ノ利ヲ得タリ因テ宅ヲ河邊ニ造
テ之ニ居ル立之嗣ク子嚴昭家ヲ受ク立之書ヲ能クシ且^イ儒風ヲ藤原惺
窩ニ問フコト年アリ一日惺窩ヲ招テ河上ニ遊遊ス奇石激湍甚多シ惺
窩ニ請フテ多ク舊號ヲ改ム其ノ白浪揚リテ花ヲ散スカ如キモノヲ浪
花隈ト號ス舊名八大瀬ナリ其ノ齊沮石ヲ環ラスモノヲ觀瀬盤陀ト號
大石アリ相距ルコト二十丈許猿子ヲ抱テ其ノ間ニ飛起スル如キモノ
ヲ叫猿缺ト號ス舊名ハ猿飛ナリ東ニ山巖高嶮アリ棲鶴ノ危巢アルモ
ノヲ鷹巣ト號ス石壁斗絕其ノ貌萬巒堆ノ如キモノヲ群書巖ト號ス舊
名ハ出合ナリ此ノ處石アリ門ニ似テ廣サ五丈高百餘尺ナル者ヲ石門
關ト號ス奔湍急流ニシテ船行クコト飛カ如キモノヲ烏船灘ト號ス舊
名ハ鵜川ナリ灘水尾ニ隣ス世ニ傳フ清和天皇嘗テ來テ魚ヲ此ニ觀タ

マヘリト岸ニ山アリ岩ノ高サ五十丈許其ノ下ノ水平衡ニシテ水ノ山
ヲ戴クカ如ク山下泉ヲ出ス蒙ノ義ニ取リ號シテ蒙山ト曰フ皆和歌ア
リ其ノ家集ニ載セリ惺窩ノ遊觀スル所此ニ止マル復^シ石アリ方三丈許
其ノ面鏡ノ如ク水蛭聳ユルモノヲ鏡石ト號ス又浮田神祠アリ世ニ傳
フ邃古ノ世丹波國皆湖ナリ其ノ水赤シ故ニ丹波ト曰フ大山昨ノ神浮田
ヲ穿テ其ノ湖ヲ決ス是ニ於テ丹波水枯レテ國土ト爲ルト乃^ナ祠ヲ建テ
之ヲ祭ル鋤ヲ以テ神ノ主ト爲ス此ノ神ハ即是レ松尾大神ナリ此ヲ
下レハ則^チ愛宕龜山左ニアリ嵐山右ニアリ其ノ勝區勝テ數フヘカラス
テ甲州ニ至ル山峽ノ民未^タ嘗テ舟ヲ見ス皆驚テ曰ハク魚ニ非スシテ水
ヲ走ル性イ哉ト胡人ノ舟ヲ知ラサルモノニ異ナラス此ノ川ノ嶮ナル
嵯峨ヨリモ甚シ然レトモ漕艇通行シテ州民大ニ悅フ十三年又丁以ニ
命シ試ニ信濃ノ諫訪ヨリ遠江ノ掛塚ニ到ル舟ヲ天龍河ニ通スヘキヤ

否ヤト了以言ハク漕渠ナルト雖ヘトモ大功ナシト故ニ今ニ至テ舟少ナシ是ノ時ニ方テ大佛殿ヲ京都ノ東ニ營ム大木巨材ヲ挽ク事ニ力ナス了以河ニ循ナ之ヲ運セント請フ乃ナ之ヲ聽ス是ニ於テ伏見ノ里ヨリ之ヲ河ニ浮ヘ泝リテ之ヲ擎カシム了以伏見ノ地大佛ノ殿基ヨリ卑キコト六丈許ナルヲ見テ即チ其ノ高キヲ壞チ堤ト爲シ卑處若クハ河ノ曲處ニ於テ引起シ復ダ水ニ浮フ水平ナルコト地ノ如シ是ヨリ先キ邪許チ呼フ者五丁モ之ヲ憂ヒ萬牛モ之ヲ難シス是ニ於テ水運シテ力ナ勞セス不日ニ材木悉ク達ス人皆ナ之ヲ奇トス十六年了以舟ヲ鴨河ニ行ランコトヲ請フ乃チ之ヲ聽サル因テ伏見河ヨリ艤船ヲ漕テ上流ニ遡リ二條ニ達ス今ニ至ルマテ數百艘アリ遂ニ家ヲ河傍ニ構ヘ立之ヲシテ之ニ居ラシム了以嘗テ菖蒲谷池ヲ作り爲メニ灌溉ヲ得ルモノ四十餘町民大ニ悅フ十九年富士川壅リテ舟ヲ行ル能ハス欽命了以ヲ召ス病アリ玄之代リ行テ水ヲ治ム又能ク船ヲ通ス三月役ヲ始メ七月之ヲ成

ス了以病急ナリト聞キ暇ヲ告ケテ歸ル玄之未タ京ニ入ラス之ニ先タツ二日了以歿ス實ニ慶長十九年秋七月十二日ナリ時ニ六十一歳是ヨリ先キ此ノ夏了以大悲閣ヲ嵐山ニ營ム山高キコト二十丈許壁立シテ谷深シ右ニ瀑布アリ前ニ龜山アリテ直ニ京中ヲ下シ瞰ルヘシ河水ハ龜山嵐山ノ際ニ流レ艤船ノ來去坐シテ見ルヘシ其ノ病革ナル時遺言シテ曰ハク須ク我カ肖像ヲ作り閣側ニ置キ巨綱ヲ捲テ坐ト爲シ石割ヲ杖ト爲セ且石ヲ建テ誌スヘシト玄之等其ノ遺教ニ從ヒ其ノ事ヲ錄シテ以テ林道春ニ寄セ之カ記ヲ請フ道春玄之ト交ヲ執ル久シ故ニ其ノ請ニ應シテ文ヲ撰ス銘ニ曰ハク排巨川舟楫通浮鵠水梁如虹矧復鑿富士河分有成功慕其錫玄圭兮笑彼化黃熊嵐山之上兮名不朽而無窮

吉田了以碑銘

因ニ曰ハク吉田了以ノ碑ハ嵯峨大悲閣ノ脇壇ニ在リ了以ハ俗稱角倉與一ヲ以テ知ラル與一或ハ與市ニ作ル了以モ亦了意ニ作ルモノ

吉田了以

アリ但シ角倉ハ代々與一ト稱セリ草茅危言ニ曰ハク角倉氏ノ建議ニテ加茂川チ分テ高瀬川チ通ス小渠ナカラモ常ニ水ヲ爰ニ引キ大雨潦ノ時モ水勢ヲ分ツ故其ノ害自ラ遠サカリシニヤ往古ハ京都加茂川ノ漲溢甚シク都人昏墾ノ害ヲ被フルコト舊記ニ多ク見エタリ今ニテハ都人適假橋ノ落ルチ患ルノミト甲斐國誌ニ曰ハク押切所ヨリ一里餘ニシテ鰍澤村ニ至ル此ヨリ下ハ兩山水チ東子略間斷ナク其ノ勢モ亦甚タ激湍ニシテ往昔ヨリ舟楫ヲ通セサリシニ慶長中與市台命ヲ奉シテ險チ平ケ漕道ヲ通シケレハ土人驚嘆シテ神功ト稱シタリ然レトモ石瀬惡道アリテ人ヲ溺スコト比年絶ヘス慶長六年與市富士川通船ヲ始ム備前國ヨリ舟人四人ヲ招テ業ヲ敷ヘシム旅客船賃等皆角倉氏ノ定ムル舊慣ニ仍ルト云フ

黒田 孝高

心チ民政ニ
竭シ屢々令
チ下シテ農
事ヲ勤課ス

孝高ハ黒田勘解由次官ト稱シ晩年如水ト號ス天正十五年七月豊前國六郡ニ封セラル、ヤ直ニ嚴令三條ヲ掲ケテ彝倫ヲ正シ盜賊ヲ戒メ隱田畠達ヒ等ヲ爲スヲ禁ス後封ヲ筑前ニ移シ老ヲ告ケテ太宰府ニ閑居ス然レトモ猶農民ノ事ヲ忘レス入國ノ明年農民ノ種麥ニ怠ルヲ見テ代官信讃ナル者ニ書ヲ與ヘ日ヲ期シテ悉ク播種セシム嗣子長政モ父ノ風ヲ紹キ士ヲ愛シ民ヲ撫シ徳川氏ヲ輔ケテ昇平ノ基ヲ成ス是ニ於テ筑前ノ守ト爲リ慶長五年十二月入國シ六年四月ヨリ土工ヲ起シ本支八城ヲ築キ田野ヲ墾開シ河渠ヲ修治ス七年諸臣ヲ分チ諸郡ノ田圃ヲ檢セシム時ニ長政郡民ノ檢吏ニ賄賂セシモノアリト聞キ林太郎右衛門直利ナル者ニ命シ捕ヘテ之ヲ懲罰セシム又農民ニ種麥ヲ勸メソカ爲メ代官母里與三兵衛正勝ニ命シ日ヲ限リテ之ヲ播種セシム其ノ限内播種スルモノハ賞スルニ造屋ノ木材ヲ以テス又長政闕國ニ齋業ヲ興サン

ト欲シ十五年令ヲ下シテ農民ノ高每一石ニ桑一本ヲ栽植セシメ後ヲ吏
チ派シテ之ヲ檢シ若シ其ノ石高ニ比シ木數足ラサル者ハ不足ノ數ニ
應シ更ニ土工ノ役ヲ課セシメ以テ之ヲ獎勵ス長政父子共ニ農事ニ心
チ用ヰル斯ノ如シ故ニ以テ臣下モ亦力ヲ爰ニ盡ス其ノ始メテ封内ノ
田圃ヲ檢セシ時ハ老臣栗山四郎右衛門利安、井上九郎右衛門之房ヲ始
メトシ諸士及ヒ陪臣ニ至ルマテ百餘人部分シテ各阡陌ヲ經廻奔走シ
纏ニ四箇月間ニ七百餘村ノ檢地ヲ終ヘタリト云フ官報筑前國農工商沿革誌

毛利高政

高政ハ豊後國佐伯城主ニシテ伊勢守ト稱シ養賢公ト云フ夙ニ心ヲ民政ニ
用ヰ令ヲ下シテ農事ヲ
ノ綻書ニ云ハク一ツ耕作仕付ノ時分ハ男ノ義ハ申スニ及ハス女モ有
リ次第罷出テ田畠ノ草ヲ採リ申スヘシ草ハ一番二番三番四番草マテ
勸課ス

採リ申スヘキ事一ツ田畠仕付ノ時分男ノ義ハ申スニ及ハス女モ内ニ
居ルハ曲事ナリ見付次第糺明セシムヘキ事一ツ耕作仕付ノ間ハ朝飯
モ晝飯モ夕飯モ女共耕作場ニ持出シ喰セ申スヘク宿ニ戻リ飯喰レハ
曲事タルヘキ事一ツ野原ニ牛馬繫ク事苦シカラス田畠近キ所ニムサ
ト牛馬ヲ放ツ事ハ曲事ナリ此ノ後サ牛馬ヲ放チ近キ田畠ノ立毛食ハセ
タルモノハ其ノ牛馬ノ主ヲ曲事ニ行フヘキ事一ツ道ヨリ外田畠ノ中
チ筋違ニ通ルハ曲事ナリ法度ノ旨堅ク郷中ニ相觸レ此ノ後通リタル
モノアラハ撈捕リ此方ヘ連來レハ褒美ヲ加フヘキナリ右ノ條々郷内
ノ庄屋共チシテ堅ク相觸レ若シ此ノ旨ニ相背クモノアレハ曲事ニ行
フヘキモノナリ又同月日ノ綻書ニ云ハク一ツ百姓ノ屋敷廻リ同在所廻
リニテ山椒ノ木柿ノ木梅ノ木梨子ノ木ナト材木ニモ薪木ニモ一切伐
ル間敷事一ツ在所廻リ百姓居屋敷廻リニテ竹木切ル事ハ總テ無用ナ
リ此ノ方用木ノ時ハ切手ヲ遣ハシ伐ラセ申スヘキ事右ノ條々其ノ意

チ得以テ相守ル可シ若シ此ノ旨ヲ背キ押テ伐ルモノアハ擒捕リ相
越ス可キモノナリトアリ鶴谷

伊奈忠次

忠次ハ任官シテ備前守ト稱ス慶長十五年忠次常陸國水戸ニ於テ新渠
新渠チ築チ
灌漑チ便ニ
ス
地ニ至リ分テ二派トシ一ハ谷田、六段田、栗崎、東前、大串、鹽崎、平戸諸村ノ
田地チ灌漑シテ島田ニ至リ涸沼ヒツマノ下流ニ合シ一ハ澁井、吉沼、上大野諸
村ノ地チ過キテ那珂川ニ合流ス之チ伊奈堀又ハ備前堀ト云フ東藩文
獻志、水
月紀年、水戸
領地理誌

北館大學

大學ハ最上義光ノ臣ヨシテ出羽國田川郡狩川、清川、立谷澤ノ諸邑チ領

水利チ開キ
旱害チ除ク

ス此ノ地水利乏ク天少シク旱スレハ田土龜裂シテ稻苗枯槁ス人民ノ
困難少ナカラス大學深ク之チ憂ヒ堰チ清川ノ山麓ニ設ケ立谷川チ引
テ灌漑ノ利チ起サント欲シ其ノ計畫チ定メ具狀シテ義光ニ請フ義光
工師若狭ト云ヘル者チシテ之チ實檢セシメ大學ニ命シテ事ニ從ハシ
ム乃慶長十七年三月五日始メテ土工チ起ス尋テ義光酒田ノ城主志村
伊豆大山ノ城主下次右衛門等チシテ大學ニ輔ケシム然ルニ伊豆ハ門
閥最モ高キチ恃ミ大學ニ降ルコトチ屑シトセス且ツ其ノ功チ妬ミテ恣
ニ約束チ易フル等ノ事アリ大學爲メニ事ノ成ラサルチ怒リ之チ義光
ニ訴ヘ且ツ曰ハク君已ニ臣カ請チ許シタレハ臣ニ假スニ全權チ以テセ
ヨ三歳ニシテ功チ奏セサレハ臣屠腹チ謝スル所アルヘシ希クハ監
吏チ臨檢チ請ント義光其ノ誠忠チ嘉シテ之チ聽チ監吏辨久莊兵衛、乙
坂六左衛門、大津藤右衛門チシテ命チ傳ヘシメテ曰ハク役夫工費幾十
萬チ要シ工事何十年チ經ルトモ一一之チ汝ニ委スト是ニ於テ大學大

ニ感激シ日夜工事ヲ董督シ三年ニシテ功ヲ成ス是ヨリ水利大ニ開ケ
居民始メテ飢寒ノ患ヲ免ル因テ義光書ヲ大學ニ與ヘテ其ノ功ヲ賞シ
且此ノ水利ニ由テ開興スル新田ハ其ノ數幾萬石ニ至ルモ悉ク大學ノ
采邑ニ編入シテ之ヲ領スルヲ許ス後^ナ居民大學ノ德ヲ仰キ碑ヲ狩川村
八幡社内ニ建テ歲時ニ祭ヲ致シテ怠ラズ大學ノ子孫ハ酒井氏ニ仕へ
其ノ後裔今猶鶴岡ニ存スト云フ^{農事有功傳}

成富兵庫

兵庫名ハ茂安肥前國佐賀藩主鍋島信濃守勝茂ノ家臣タリ曾テ力ヲ治
水ニ竭シ其ノ功績舉テ算シ難シ大坂ノ亂平ラクノ後殖產ノ急務ナル
チ察シ藩主ヲ勸メ領内ノ水損旱損ヲ救フノ法ヲ考ヘ新地ヲ拓キ水流
ヲ分派シ隄ヲ築キ水ヲ湛ヘ灌溉ノ用ニ供ス巨勢郡ノ荒野高峰^{タカヒコ}ヨリ尾
崎ニ至ル一里半萱茅生茂レリ茂安百姓ヲ集メ望ミニ任せ二町歩三町
患ヲ除ケ

歩ヲ割與シ上佐嘉ノ一ノ江ノ水筋ニ石ノ大堰ヲ作り灌溉ニ便シ洪水
ノ時ハ之ヲ高尾川へ落ス依テ巨勢郡ノ原野忽チ田畑ト爲ル又筑後川
ノ水ヲ治メ水除ノ荒籠ヲ工案ス又杵島郡ノ荒野ニ長島川ヲ引キテ千
石餘ノ新田ヲ起シ小城郡蘆ヶ里ノ水道ヲ堀リ河上川洪水ノ患ヲ除キ
タリ寛永十一年甲戌九月卒ス歲七十五^{成富家譜}

石川丈山

丈山名ハ重之始メ嘉右衛門ト稱シ後ニ左親衛ト改ム諱四字ハ丈山號
ヲ六々山人ト云フ三河國碧海郡泉村ノ人ナリ往昔ヨリ京都ノ鴨河數
暴漲シ都人昏墊ノ害ニ遭フ事ハ桓武天皇ノ平安草創以來天正ノ頃迄
千有餘年ノ久シキニ亘ル大患ニシテ歷代天皇モ之ヲ憂慮シ給フコト
屢々勅詔ニ見エ豊臣秀吉モ之カ爲メニ巨隄ヲ築キテ竹ヲ植ウル等大ニ
防水ニ苦慮セリ然ルニ元和年中石川丈山閑居シテ東山ノ麓一乘寺村

京都ノ水害
ヲ除ク

ニ在リ數々北山鴨河ノ水源ニ遊歴シテ水脈分疏ノ方法ヲ案檢シ之ヲ時
ノ京兆ノ尹ニ謀ル京兆ノ尹之ヲ角倉了意ニ示シ三人相謀議シテ其ノ
事成レリ是ヨリ以來京都水害ヲ免レ人々其ノ堵ニ安ノスト云フ丈山
少壯ヨリ徳川家康ニ仕ヘ頗ル軍功アリテ錄セラレス後官ヲ捨テ、一
乘寺村ニ閑居シ詩ヲ賦シ自ラ遣ル天資豪邁殊ニ水利ノ事ニ精シ寛文
壬子五月二十三日歿ス年九十它山石聘君石六々山人

墓誌銘故老傳說參取

古河重吉

重吉幼字菊千代父ハ小笠原九郎左衛門重成初メ信濃ノ國更級郡鹽崎ノ
城主タリシ時武田氏ニ屬ス武田氏亡ヒテ姓ヲ古河ト改メ上杉景勝ニ
仕フ菊千代夙ニ大志アリ其ノ主景勝ニ乞ヒ奥羽諸國ヲ巡歴シ其ノ地
理形勢ヲ視察シテ歸ル再ヒ發セントスルニ及ヒ重成死ス因テ其ノ家
ヲ嗣キ名ヲ重吉ト改メ善兵衛ト稱ス慶長三年正月景勝封ヲ會津ニ移

スニ及テ重吉信夫伊達二郡ノ代官ト爲リ居ヲ上倉ニ占メテ郡務ヲ掌
理ス同六年八月景勝再ヒ封ヲ米澤ニ轉ス而シテ信夫伊達ヲ領スル故
ノ如シ重吉常ニ民ヲ惑ミ能ク兩郡ヲ治ム伊達郡西根郷地勢山脚ニ沿
ヒ土壤肥沃ナリト雖ヘトモ水利乏シク僅ニ山間澇澤ノ水ヲ以テ灌溉
ニ充ツ故ニ耕田少ナクシテ原野多ク郷民之ヲ患フルコト久シ一日重
吉郡内ヲ巡回シ桑折村ニ到リ村長佐藤某ニ謂テ曰ハク聞ク西根郷古
來水利乏シキヲ以テ往昔佐藤庄司賴信郡主タリシ時鑿堰ノ業ヲ起セ
シモ工事至難ニシテ中廢シ其ノ後累代ノ郡主モ屢々開鑿ヲ試ムルモ竟
ニ功ヲ奏セスト余不肖ト雖ヘトモ代官ノ職ヲ奉ス苟モ民ニ利アラハ
忽諸ニ付ス可ラス今ヨリ實地ヲ覈察シ計畫ヲ爲サント佐藤某等ヲ率
ヰテ實地ニ臨ミ地勢ヲ察シ高低ヲ測リ築堰ノ位置ヲ定メテ上下ノ二
處トス而シテ上ハ先代郡主ノ失敗スル處即チ至難ノ地ナルヲ以テ未タ
完全ノ計畫ヲ得ス因テ先ツ下垣ヲ開鑿セントス會津

水利ヲ開キ
良田ヲ興ス

勝、重吉チ米澤ニ召シ其ノ治績ヲ賞シ與フルニ國宗ノ短刀ヲ以テス重吉感泣措ク所ヲ知ラス乃^チ請フテ曰ハク臣未タ寸功ヲ立テ大却テ重恩ヲ辱ウス素餐ノ責ヲ免レス臣統轄スル所ノ郡内水利ニ乏シク郡民之ヲ苦ム久シ殊ニ伊達郡西根郷最モ甚シ幸ニ開鑿ヲ許サルレハ荒蕪ヲ變シテ良田ト爲サント景勝之ヲ許シ信達ノ奉行平林藏人佐正恒ヲ以テ總裁ト爲シ重吉ヲ副總裁ト爲ス重吉直ニ郡ニ歸リ正恒ト謀リ各村ノ有志者數名ニ命シテ工事ヲ分擔セシメ自ラ之ヲ董督シ湯野村字八卦ヨリ開鑿シテ鹽野目、増田、牛澤、松原、成田、萬正寺、桑折、上郡、下郡、伊達崎、徳江ノ十餘村ニ至リ工ヲ峻ル此ノ工元和四年三月ニ起リ同年十二月ニ至テ成ル渠ノ長^サ三里十九町渠幅二間ニシテ左右ニ堤塘ヲ築ク是ニ於テ地民始メテ灌漑ノ便ヲ得タリ是ヨリ先キ重吉上堰ノ開鑿ヲ一難事ト爲シ特ニ意ナシ之ニ注キ其婿ノ多兵衛親戚清水喜兵衛等ヲシテ本地ノ測量ニ從事セシム下堰成ルニ及テ專ラ力ナ此ニ致シ衆人ヲ指揮シ

テ之カ工方ヲ求ムレトモ良法ヲ得ス衆皆悄然トシテ爲ス所ヲ知ラサルカ如シ重吉更ニ撓マス日夜開鑿ニ肝膽ヲ碎ク殆ト六年遂ニ一ノ良法ヲ案出ス因テ之ヲ具シ上裁ヲ仰カントス會景勝卒シ事遷延元和九年七月之ヲ定勝ニ稟ス定勝之ヲ藩廳ニ付シテ利害ヲ議セシム廳議工事ヲ難ソシ之ヲ否決ス重吉大ニ慨嘆シ私財ヲ以テ開鑿セント欲シ更ニ起工ノ允可ヲ請フ之ヲ許サル因テ任地ニ歸リ鍛冶ヲ慕リテ鎚鑽鋤鍊ノ類ヲ作ラシメ坑夫數千人ヲ募リテ十一隊ト爲シ郡中才幹アル者十人ヲ撰テ隊長ト爲シ清水喜兵衛ヲ以テ監督ト爲シ自ラ之ヲ統督シ湯野村宇穴原ニ堰口ヲ開ク時ニ寛永元年三月ナリ重吉能ク衆ヲ慰勵シ其ノ能ク力役スル者ハ特ニ金錢衣服ノ類ヲ與フ故ニ來テ役ニ就クモノ日ニ増加シ工事大ニ進ミ朞年ニテ工ヲ竣ル渠ノ長^サ凡ソ七里半山ヲ穿チ巖ヲ鑿ルコト七百間摺上ノ河水ヲ之ニ注入シテ三十村ノ耕田ヲ灌漑ス之ヲ上堰ト曰フ此ノ舉タル上主家ノ財ヲ費ザス下邑民

ノ力ヲ勞セス自ラ財ヲ散シテ傭夫ヲ使役ス蓋シ國家ノ恩ニ報セント
欲スルナリ是ヨリ本郷旱災ノ患ヲ免レ民皆農業ヲ樂ミ新田大ニ興ル
是ヨリ先キ重吉昇進シテ信夫伊達二郡ノ郡代ト爲ル是ニ至テ定勝重吉
ノ功ヲ賞シ祿五百石ヲ増與セントス重吉之ヲ固辭ス因テ月山丸ノ短
刀及ヒ具足一兩馬具一掛ヲ賜フト云フ十年六月重吉曩ニ工事ニ斡旋
セシ者ノ功ヲ傳ヘント欲シ多兵衛喜兵衛等ニ命シテ碑ヲ湯野村字穴
原ニ建テシム十四年十二月重吉故アリ屠腹シテ死ス行年六十一湯野
碑、故古河善兵衛行狀

甲斐徳本

徳本姓ハ長田氏知足齋ト號ス三河ノ國大濱村ノ產ナリ醫ナ出羽ノ人殊
夢ニ學ヒ後玉哲ナル者ニ從テ月湖道人ノ方訣ヲ受ク月湖ハ明ノ坑州
ノ人歸化シテ鎌倉ニ居レリ其ノ三傳ノ弟子ナリト云フ徳本人ト爲リ

葡萄ノ効用
栽培ヲ懇說
シ遂ニ重要
ノ一物産ト
ナス

豪邁不羈常ニ貧窶ヲ以テ意ト爲サス專ラ救世濟民ヲ以テ己レカ任ト
爲シ門ヲ出ルヤ青牛ニ踞シ頸ニ藥囊ヲ掛ク藥ヲ與フルヤ一貼價十八
文ニ過キス富貴ニ接シテ屈セス貧賤ニ對シテ侮ラス又縱ニ四方ニ周
遊シテ一處ニ留滞セス大永享祿ノ間甲斐ニ來リ醫ヲ以テ武田信虎ニ
客タリ而シテ甲斐ニ居ルノ日最モ多シ故ニ世呼テ甲斐徳本ト曰フ甲
斐ノ國文治中雨宮勘解由ナル者アリ葡萄ヲ發見シ各地ニ分栽シタリト
雖ヘトモ當時猶甚タ多カラス而シテ培養ノ術亦未タ精シカラス元和
ノ初メ徳本八代郡岩崎村ニ來リ屢々雨宮某ニ就テ葡萄ノ効用及ヒ培養
等ノ利害ヲ説キ且ツ曰ハク務メテ之カ培養ノ法ヲ精究シ大ニ繁殖ノ術
ヲ擴充セハ將來必ス有益ノ國產ヲ興スニ足ルヘシト更ニ其ノ損益ヲ
論シ遂ニ棚ヲ架シ蔓ヲ引キ以テ結果豐熟ノ一良法ヲ發明シ之ヲ地民
ニ傳フ地民皆其ノ言ニ從ヒ頓ニ栽培ノ面目ヲ改メ爲メニ便益ヲ得ル
コト多ク愈々其ノ方法ヲ信用スル者遠近年ニ逐フテ增加スルニ至ル是

ニ於テ地民ハ普ク架棚ノ高底ヲ被フリ篤ク功德ヲ信シ徳本ヲ欽慕スルコト恰モ兒子ノ父母ニ於ケルカ如レ然ルニ徳本ハ春秋既ニ百歳ヲ超エ尙壯健ニシテ東西ニ流寓シ家ヲ以テ家トナサス遂ニ信州諏訪地方ニ逍遙シテ復ダ還リ來ラス後十餘年ヲ過キ寛永七年二月十四日ヲ以テ鶴湖ノ邊リニ終ル時ニ享年百十八甲斐ノ人民之ヲ傳ヘ聞キ追悼スル者闊石葉ヲ休メ遙祭スルニ至ル尋テ雨宮某衆ニ議リ爲メニ紀念碑ヲ葡萄園中ニ建テ徳本ノ恩頼ヲ不朽ニ傳フト云フ葡萄栽培書、甲州徳本翁碑

因ニ記ス甲州葡萄ノ初メハ文治二年八代郡岩崎村ニ屬スル入會山中ニ字城ノ平ト稱スル地アリ往古ヨリ此ニ石尊宮ノ祠ヲ安ンシ毎年二月二十七日ヲ以テ之ヲ祭ルヲ例トシ遠近ノ里人群賽セリ時ニ兩宮勘解由ナル者此ノ歲此ニ來賽シ偶其ノ路傍ニ一種自生ノ蔓草アルヲ發見シ乃チ衆ニ示シテ曰ハク此ノ蔓草ハ山中ニ於テ未タ曾テ見サルモノニシテ其ノ莖蔓及ヒ皮葉ハ大ニ尋常ノ山葡萄ニ似テ一

種ノ變生ナリ若シ我カ思想ノ如クニシテ美果ヲ得ルコトアラハ即ナ石尊宮ノ賜ニシテ永ク祭資ニ供スルニ足ルヘシ故ニ今衆ト謀リ之ヲ我園中ニ移植シ以テ其ノ生長ヲ試ミントスト然ルニ衆皆之ヲ疑ヒ敢テ其ノ可否ヲ云フ者ナシ是ニ於テ勘解由ハ愛物ノ情已マサレハ之ヲ城正寺ノ家園ニ移植シ務メテ之ヲ培養シ五年ノ春秋ヲ經テ其ノ莖蔓繁茂シ遂ニ建久元年ノ四五月ニ迨ヒ始メテ三十餘穗ノ實ヲ結ヒタルヲ以テ衆疑ヲ解クヘキヲ喜ヒ更ニ愛護ヲ加ヘテ其ノ年八月ニ至リ果實悉ク熟シ味極メテ甘美ナリ里人等モ亦其ノ良品ナルヲ賞シ以テ之カ先見ニ感シ前ニ之ヲ疑フ者今ヤ之ヲ羨ム者多キニ至レリ爾來專ラ繁殖ノ方法ヲ講究シ同八年ニ至リ漸ク増殖シテ十三株トナレリ是歲鎌倉右大將賴朝信州善光寺ニ詣ルニ際シ其ノ善ク熟セルモノ三籠ヲ獻ス賴朝大ニ之ヲ賞ス實ニ同年九月十五日ナリト云フ其ノ後天文年中雨宮織部正ノ代ニ至リ領主武田信玄ニ

屢々葡萄ヲ獻シタリ因テ信玄モ亦大ニ之ニ嘉尙シ嘗テ酬ユルニ佩刀一口ナ以テセリ其ノ褒狀今尙存ス慶長六年徳川家康吏ニ命シテ甲州ノ田圃ヲ檢セシメタリシカ其ノ記錄ニ據レハ葡萄樹百六十四本ト記セリ當時初メテ之ヲ山梨郡勝沼村ニ分植セリ其ノ後百十六年ヲ經テ正徳六年松平甲斐守再ヒ其ノ地ヲ檢ス其ノ記錄ニ據レハ岩崎ノ葡萄畠段別五町四畝十六歩ナリ而シテ元和ノ初メ甲斐徳本岩崎村ニ來リ屢々雨宮某ニ葡萄ノ効用栽培等ヲ説キ架棚ノ法ヲ里人ニ示メセシヨリ頓ニ栽培ノ面目ヲ改ム其ノ後明和六年岩崎村ノ農雨宮榮吉ナル者故アリテ籍ヲ削ラレ去テ同郡市川大門村ニ徙リ雇夫トナリシカ同八年竊ニ一人ニ岩崎村ニ遣ハシ僅ニ葡萄苗四本ヲ得テ之ヲ其ノ村ニ移シ勉メテ其ノ栽培ニ從事シ遂ニ葡萄園ヲ大門村ニ開設セリ安永年間復其ノ苗若干ヲ携ヘテ巨摩郡羽黒村及ヒ山宮村ニ趨キ主人ニ授クルニ其ノ栽培方等ヲ以テセリ是ヨリ兩村モ其ノ

業ニ從事スル者漸次ニ増加セリ其ノ後羽黒、山宮ノ兩村ヨリ其ノ苗ヲ甲府長禪寺ノ山地ニ移植シ又該地ノ苗ヲ山梨郡横根村ニ移植セリ而シテ野生ノ質漸々進化シテ一種ノ美果トナリ同國諸郡ニ蕃殖シ今ハ重要ノ一物産トナレリ

平岡次郎右衛門。

次郎右衛門諱ハ和田甲府ノ郡代タリ寛永ノ頃渠ヲ鑿サ釜無川ノ水ヲ引キ龍王同新田、富竹新田、篠原等ノ諸村凡ソ二千石餘ノ田ニ灌ク其ノ餘水數派トナリテ二十七村高一万八千石餘ノ地ヲ潤セリ其ノ渠ヲ四箇村渠ト稱ス篠原村ニテ租川ト云フモ渠道ノ名ナリ又次郎右衛門富竹新田ヲ開墾シテ二百九十石餘ノ田額ヲ定メ三社明神ノ社地ニ於テ水道ヲ穿ツ廣サ一間長六六十間石碑ヲ渠口ニ建ツ其ノ文ニ曰ハク平岡次郎右衛門和田大翁玄廣居士穿此水道立富竹新田寛永十四年丁丑七

月日ト題シテ龍王穴水門碑ト云フ次郎右衛門同二十年九月十七日歿
ス年六十歳法諡玄廣居士ト曰フ嘗テ自カラ撰フ所ナリ甲斐國志

安松金右衛門

金右衛門ハ松平伊豆ノ守信綱ノ代官ナリ伊豆ノ守議スルニ領内武州野火
留ニ多摩川ノ水ヲ引クノ利害ヲ以テス金右衛門其ノ宜シク堀ルヘク
シテ費金三千兩ヲ要スヘキヲ答フ伊豆ノ守曰ハク我今此ノ地ノ領主タ
ルモ何ノ時カ他ニ移ラサルナキヲ保センヤ我今三千兩ノ黃金ヲ費シ
テ永ク此ノ地ノ利ヲ興サンコト誠ニ奉公ノ一端タルヘシト金右衛門
ニ命シテ溝渠ヲ鑿タシム長キ十六里許リ然ルニ多摩川ノ水之ニ注入
セサル一年餘伊豆ノ守乃チ金右衛門ヲ召シ問テ曰ハク如何ソ水ノ注カサ
ル久キヤト金右衛門曰ハク水ノ注クヘキ素ヨリ其ノ處ナリ但シ此ノ
地所謂武藏野ニシテ土地乾燥風アレハ忽チ塵埃ヲ飛ハス河越城下ノ

人家平素疊上澁紙ヲ敷キ客來レハ則チ之ヲ捲キ座ニ請スルモノ蓋シ之
カ爲メナリ然ルニ近年城下ノ塵埃昔日ノ如クナラス特ニ當年ノ豐饒
ナル近年其ノ比チ見サル所想フニ多摩川ノ水此ノ廣野ニ充到シ而シ
テ後チ此ノ渠モ亦水ヲ見ルニ至ルヘシト越テ明年水尙ホ來テス伊豆ノ守
金右衛門ヲ召シ責メテ曰ハク水ノ來ラサル汝地ノ高下ヲ詳ニセサル
故ナラント金右衛門顏色變セス其ノ言猶ホ舊ノ如シ斯クシテ三年ヲ
過ク秋大雨アリ多摩川ノ水溢レテ此ノ溝ニ注ク水聲雷ノ如ク十六里
ノ長程一朝ニシテ水滿溢洋々平地ヲ浸ス茲ニ於テ乎田地開拓セラレ
野火留二百石ノ地忽二千石ヲ產ス伊豆ノ守金右衛門ヲ召シテ曰ハク曩
ニ我主タルノ威ニ倚リ設ニ汝ヲ責ム汝自若トシテ動カ大溝渠爲ニ全
キヲ得タリ我誠ニ其ノ卓見ニ感スト祿一倍ヲ與ヘテ二百五十石ト爲
ス後屢々累遷ス日下部景衛聞書

原野ヲ開キ
溝渠ヲ鑿ツ

十右衛門清右衛門ハ共ニ甲斐ノ國上神取村ノ農ナリ寛永十六年二人力
チ數セ同國淺尾村ノ野ヲ墾闢シ江草村八卷ヨリ淺尾村小袖林マテ長
六千三百四十五間廣三尺ヨリ六尺ニ至ル渠ヲ鑿チ灌漑ヲ便ニス之ヲ
淺尾ノ渠ト稱ス甲斐國志

百姓十右衛門

水害ヲ除キ
荒野ヲ開ク

哲雲ハ甲州武田信玄ノ裔孫ニシテ寛永中ノ人治水ノ才アリ大坂府内
海邊ヨリ怒濤逆流シテ民家ノ患ヒ多シ哲雲上書シテ計策ヲ上リ官家
コレヲ許ス哲雲大ニ丁夫ヲ興シ砂洲ヲ水口ニ築キ怒濤ヲ防ク今ノ四
貫島衝シヤウ島是ナリ是ヨリ後府内民家咸ク水害ヲ免ル又泉州ニ於テ荒
野ヲ開發ス之ヲ哲雲隣ト云フ哲雲阿州ノ吏トナリ民ヲ御ス遂ニ江戸
ニ卒ス攝津名所圖會

香西哲雲

松井儀長

儀長ハ通稱五郎兵衛日向ノ國飫肥ノ藩士ナリ人ト爲リ才敏ニシテ氣健
常ニ力ヲ樹藝ニ用ヰ富國濟民ヲ以テ任トナス耶珂郡清武郷飫肥ヲ距
ル十里許其ノ屬村岩切兩南方兩北方兩恒久田吉等ヲ合セ田二百二十
二町二段七畝歩アリ水毎ニ足ラス雨ヲ待テ種ヲ播キ秧ヲ挿ムニ得七
八月ノ間小旱アレハ地甲拆シテ稻禾枯凋シ田ニ秋實ナク民ニ菜色ア
リ儀長深ク之ヲ憫ミ慨然南須田木山ヲ穿テ清武川ヲ引キ八村ノ田ニ
灌キ以テ民生ヲ救濟セント欲シ意匠經營シテ止マス或ハ山ニ登リテ
地形ヲ視或ハ海ニ沿フテ水理ヲ候フ北大淀川ヲ視レハ則チ潮ハ高松ノ
渡ニ上リ南清武川ヲ視レハ潮ハ木崎津ニ來ル此ニ於テ南北地勢昂低
ノ度測量定マル遂ニ建議シテ曰ハク臣顧フニ須田木山ヲ鑿テ清武川
ニ堰シテ此ノ水ヲ北ニ引キ以テ八村ノ田ニ灌ケハ則チ旱枯ノ虞ナクシ
水利ヲ開キ

旱患ヲ除キ
人民給リ戸
口殖ス

臣ニ委スルニ疏水ノ事ナ以テセヨト然ルニ藩廳以爲ラク北方ヘ地形
ハクシテ水流レ難ク山モ亦磐石鑿ツ可カラス或ハ半途ニシテ廢スレ
ス曰ハク倘シ事濟ラスシテ半途ニ廢スルコトアラハ臣身ナ以テ之チ
償ハンノミト是ニ於テ藩廳其ノ成算アルナ察シ輒之ナ聽ス儀長欣然
工チ起ス時ニ年七十實ニ寛永十六年十二月ナリ村民胥懼テ此ニ從事
シ亦他村ヨリ來テ役ナ助クル者多シ儀長躬カラ之チ獎勵督促シ相共
ニ晨夜力ナ展ヘ明年三月ニ至テ役竣ル而シテ水能ク八村ノ田ニ溉ク
村民野ニ沐シテ曰ハク今ヨリ五穀蕃熟復旱患アルコトナシ以テ飢寒
チ免レ妻子ナ保ソスルニ至ルハ皆翁ノ貽ナリ是ヨリ村民時ニ及テ播
種挿秧シ七八月ノ間旱スレトモ水潤レス稼禾油々トシテ復旱枯ノ虞
ナク八村相率テ荒蕪ナ聖シ新田ナ増シ竟ニ古田ナ并セテ四百四十五
二碑チ建テ功ナ勒シ以テ後世ニ傳フト云フ松井五郎兵

島津久元

町四段八畝步餘ノ多キニ至ル而シテ民人給リ戸口殖ス率ネ儀長ノ議
ノ如シ後ナ此ノ渠チ稱シテ新井手用水ト曰フ儀長年八十二シテ卒ス
寛延元年村民碑チ恒久村新渠ノ側ニ建テ以テ之チ祀ル明治二十年宮
崎縣其ノ遺功ナ追賞シ金十五圓ナ賜ヒ又二十四年有志者金ナ醵シ更
ニ碑チ建テ功ナ勒シ以テ後世ニ傳フト云フ松井五郎兵

疏水碑

富國ナ慮リ
樹林ナ殖シ
後世之ニ賴
テ利ナ得ル
モノ多シ

久元ハ圖書ト稱ス鹿兒島藩ノ家老ニシテ世宮之城ノ城主タリ久元戰
亂ノ後ナ承ケ深ク財政ノ困難ナルチ憂ヒ專ラ心ナ富國ノ策ニ委ス封
内金礦山アリ山鹿野ト曰フ久元創メテ之チ開キ以テ國用ナ資給ス而
シテ植林ハ經國ノ最要ナリトシ寛永年間大ニ樹種ナ諸國ニ採リ苗圃
チ設ケテ之チ試播シ或ハ衆庶ニ頗テ之チ培殖セシム又人別差杉法ナ
ルモノナ封内ニ施行シテ植杉ノ事ナ獎勵シ或ハ松樹ナ路傍ニ栽植シ

テ往來ニ便スル等用意到ラサル所ナシ是ヲ以テ林業大ニ興リ遂ニ該藩ノ富源ヲ致セルノミナラズ今ニ至ルマテ人民之ニ依テ以テ家屋チ營ミ器具ヲ製シ道路橋梁等凡百ノ需用ニ充テ尙其ノ有餘ヲ諸國ニ輸シテ利ヲ得ル者多シト云フ明治十五年東京山林共進會ノ舉アルニ方リ久元ノ功勞ヲ追賞シ二等賞ヲ賜フ十五年山林共進會報告

傳說ニ曰ハク久元文學アリ嘗テ島津世錄ヲ著シテ該家歴世ノ事實ヲ明ニスト又該藩ノ執政中戻ニ心ナ農政ニ注キ利用厚生ヲ謀リシモノハ久元及ヒ種子島久基トス故ニ該藩ノ殖產事業ハ此ノ二人ノ時ニ興ルモノ多シト云フ

德川賴宣

賴宣ハ和歌山ノ藩主ナリ寛永中紀伊國那賀郡ノ妙法壇ヨリ遠望シ安藤忠兵衛ニ命ジテ新田ヲ開カシム又慶安二年令シテ同郡北中村海上

水利ヲ興シ
新田ヲ開キ
豫備倉ヲ立
テ饑歲軍團ノ用ニ充ツ
池ヲ作ル其ノ費二千兩池田岩出兩莊ノ内高二千八百餘石ノ田ニ灌ク
又同郡北志野村ノ北ニ櫻池ヲ作ル谷ヲ堰キ池トナス堤長サ凡百五十
間水田高七千五百石ニ灌ク賴宣嘗テ豫備倉ヲ立テ饑歲軍團ノ用ニ充
ツ又國政ニ基盤積リト云フ法ヲ立テ其ノ圖ヲ座右コ掛け國用ノ出納
ヲ明確ニシ生齒ノ増殖ヲ謀ル紀伊國名所圖會、救荒便覽

大日本農功傳卷之一畢

大日本農功傳卷之二

農務局纂訂

熊澤伯繼

伯繼ハ次郎八ト稱シ後助右衛門ト改ム蕃山ト號シ又息遊軒ト號ス父ハ尾張ノ人野尻藤兵衛一利ト曰フ嘗テ加藤嘉明ニ仕ヘ後^子山崎家治ニ客タリ元和五年伯繼ヲ京都五條街ノ寓居ニ生ム伯繼外祖熊澤半右衛門守久ノ義子トナリ其ノ姓ヲ冒ス伯繼幼ニシテ岐嶽寛永十一年年十六備前岡山藩主池田光政ニ筮仕ス十四年島原ノ賊起ル時ニ藩主江戸ニ在リ明年討伐ノ命ヲ受ケ戰士ヲ選テ國ニ就ク藩律アリ未タ冠セサル者軍ニ從フヲ得ス伯繼乃自ラ冠シ追テ國ニ歸ル藩主其ノ律ヲ犯スヲ以テ之ヲ逐フ去テ近江桐原ニ往キ伊庭氏ニ寄リ父一利ニ從テ兵書

チ受ク日夜勤苦病チ得ルニ至ル十七年年二十二初メテ四書集註チ讀ミ深ク感發スル所アリ明年八月笈チ負ヒ京都ニ出テ良師チ求ムレトモ未タ其ノ人チ得ス偶近江中江藤樹ナル者曾テ道徳ヲ以テ馬夫ヲ化スルト聞キ乃ナ往テ業チ受ク後桐原ニ歸ル時ニ父一利仕チ求メ江戸ニ在リ伯繼妹七人ト母ニ事ヘテ孝順家甚ダ貧ク蔬食饅ニ充テ紙襖寒チ禦ク光政素ヨリ伯繼チ信ス京極主膳ニ由テ之チ聘ス正保元年復タ仕フ時ニ年二十六國ヲ去テヨリ是ニ至ル八年隊伍長ト爲リ祿三百石チ食ム是ヨリ專ラ心チ鍊ルチ以テ事ト爲シ讀書セサル三年人其ノ學アルチ知ルナシ後漸ク之チ知リ從テ學フ者アリ名聲日ニ顯ハレ讒毀隨テ至ル或ハ誣訴シテ之チ逐ハント請フ光政其ノ曲直チ糾通シ益伯繼ノ才德チ信ス恒ニ謂ラク王佐ノ才アリト三年伯繼年三十二擢ンセラレテ大夫ト爲リ國政ニ參シ祿三千石チ食ム伯繼人ト爲リ溫良寛仁威儀嚴正家人奴婢未タ嘗テ其ノ喜懼ノ色チ見ス家チ治ムル儉チ以テシ

藩主ヲ佐ケ
テ農政ヲ舉
ケ水利ヲ興
シ草葉ヲ植
シ山林ヲ殖
シ凶荒救フ

衣服飲食淡然好ム所ナシ土地陰陽五土ノ說ニ明ナリ吏ノオアル者十人チ還テ其ノ說ヲ授ケ封内ノ田チ檢シ貢法宜チ得毛見ノ法最モ其ノ精チ極ム頻年郊野槁旱伯繼以爲ク郊外山林寡ナシ故ニ雲雨應セスト大ニ役ヲ發シ松ヲ半田山及ヒ近郊ノ諸山ニ植ウ培養法ヲ得數年ヨシテ暢茂シ夏雨驟至ル是ヨリ槁旱ノ患ヲ免ル又大水毎ニ旭川城市ニ溢ル伯繼建議シテ城北ノ堤長百間ヲ卑フシ水勢ヲ殺キテ此ニ注ク而シム今ニ至テ城市水患ヲ免カル呼テ百間川ト曰フ屢々封内ヲ巡リ地形ヲ相シ水利ヲ治ムル馬上ヨリ指示ス後來ノ利害及ヒ聖ス可キ地先見ノ明驗アラサルコトナシ明暦元年大ニ饑ウ封内ノ民幾ト死セントスル者九万藩主大ニ憂ヒ執政ヲ會シテ救恤ヲ議ス議未ク決セス伯繼奮チ曰ハク會議日チ移サハ鐵莖路ニ職ス速ニ倉廩ヲ發キ賑給セソニハ若カスト乃チ發テ大ニ賑給ス藩主又伯繼ノ策ヲ用ヒ梶田清右衛門ヲ遣ハ

シ天樹夫人ニ由テ幕府ニ請ヒ四万金ヲ借りテ之ヲ救フ。伯繼藩主ノ旨
チ奉シ日夜躬ラ郡邑ヲ巡リ吏ヲ勤メテ賑恤シ其ノ費ヲ勘セス民大ニ
蘇息ス曾テ藩主ト邊備ヲ議シテ曰ハク古昔士私邑ニ居ル警備コレニ
若クハナシ今遂ニ之ヲ復スル難シ臣請フ先ツ之ヲ試ミント藩主之ニ從
フ乃チ士數千ヲ和氣郡ニ徒シ土着ト爲ス士各一槍一馬守禦ノ具甚ダ備
ハレリ伯繼藩主ニ從ヒ屢江戸ニユキ龍口前邸ニ居ル名聲籍甚公侯及
ヒ士庶人從テ學フ者多シ前邸門外輿馬幅湊猶執政家客ニ對スル日ノ
ゴトシト云フ二年和氣郡木谷村ニ獵シ艇ヨリ墜ナ手足ヲ傷フ因テ職
チ辭ス許サス是ニ於テ同列大夫ニ囁シ國老池田伊賀ニ由テ藩主ノ庶
子八之亟ニ家ヲ承ケシメソト請フ藩主其遯志ヲ止ント欲シ之ヲ許ス
三年伯繼年三十九固ク請フテ職ヲ辭ス遂ニ之ヲ許ス是ニ於テ家事ヲ
八之丞ニ譲リ免表ヲ食邑蕃山村ニ營ミ之ニ居ル伯繼在職凡八年其ノ
功績觀ルヘキモノ泡溝ヲ鑿ナ隄防ヲ築クノ數舉テ記ス可カラス凡ソ藩

主ノ善政美事伯繼與テ力アリ後地邦ニ遊歴シ遂ニ京師ニ寓居シ蕃山
了介ト稱ス門人益多シ時ニ牧野親成板倉重宗ニ代リ京尹タリ讒ヲ信
シ伯繼ヲ憎ム又其ノ才ヲ妬ム者アリ流言益行ハル寛文六年去テ芳野
ニ寓シ明年復ダ去テ山城ノ鹿背山ニ隱ル明石ノ城主松平信之大ニ伯
繼ヲ尊信ス九年伯繼ヲ其ノ封邑ニ延ク乃チ明石ニ徙リ大山寺ノ側ニ居
ル後信之封ヲ下總古河ニ移ス將軍綱吉將ニ伯繼ヲ召見セントス信之
ニ命シ伯繼ヲ古河ニ移サシム貞享四年八月伯繼古河ニ移ル是冬伯繼
封事ヲ上リ時政ノ得失ヲ陳ス大ニ幕旨ニ忤フ迺チ禁錮ニ就ク伯繼是
ヨリ口世事ヲ絶チ人ト語リ偶世事ニ及ヘハ默然答ヘス笙ヲ把テ之ヲ
弄ス元祿四年八月病ヲ以テ古河ニ歿ス享年七十三城主惣哭其ノ門人
親戚ヲ會シ儒禮ヲ用テ大堤村鯉延寺ニ葬ル伯繼天資雄傑聰明絕倫恒
ニ時處位ノ三者ヲ識ルヲ以テ先務ト爲ス而シテ其ノ政ノ要ヲ論スレ
ハ則米穀ヲ貴ヒテ金錢ヲ賤ミ上輕重ヲ制シ商賈ヲシテ貨權ヲ操ラシ

ムルナク兵ヲ農ニ寓シ以テ冗費ヲ省キ武力ヲ強ウシ制度ヲ定メ奢侈ヲ抑フ賦歛ノ制貢法ヲ以テ善ト爲シ學校ノ設ケ文武ヲ合セテ一ト爲ス諸此ノ如キノ類皆之ヲ漸ニ爲シ遂ニ人ノ視聽ヲ駭スチ欲セス而シテ德化ノ極致專ラ禮樂ノ妙用ニ歸ス嘗テ曰ハク神洲ノ萬國ニ秀絶スル所以ノモノ地靈ニシテ人傑ナルチ以テナリ昇平者ヲ成シ上政ヲ知ラス山林伐盡シテ川澤日ニ涸ル人ノ其ノ間ニ生ル稟氣自ラ轉シ黃金白銀ハ天地ノ精今妄リニ之ヲ采リ以テ海舶互市ニ供シ國土ノ膏潤ヲ竭シテ無用ノ玩物ニ易フ長策ニアラサルナリト著ス所集義和書集義外書大學或問等アリ世ニ行ハル墓贊錄、熊澤伯繼傳

野中兼山

兼山姓ハ野中名ハ止字ハ良繼小名ハ左八郎少長シテ傳右衛門ト稱ス後主計ト稱シ又伯耆ト改稱ス兼山ハ其ノ號ナリ土佐ノ國主山内土佐守

ノ執政ニシテ本山ノ領主タリ父ヲ勘解由ト云フ母ハ秋田氏元和元年乙卯播州姫路ニ生ル祖父權之進山内氏ヲ娶ル權之進卒ス山内氏再ヒ權之進ノ弟主計字ハ益繼ニ適ス益繼ノ子玄蕃字ハ直繼土州ノ執政タリ直繼子無シ良繼ヲ養テ嗣ト爲ス直繼卒ス其ノ主山内忠義モ亦良繼チシテ國政ヲ攝行セシム時ニ良繼僅ニ弱冠然レトモ儀觀雄偉ニシテ器質方重ナリ適國政宿弊多シ因テ數十條ヲ疏シ以テ上ル忠義之ヲ納レ悉ク其ノ請ニ從フ大要皆奢靡ヲ除キ風俗ヲ易ルノ事ナリ國內二鉅野アリ香香美ト曰ヒ山田ト曰フ其ノ土沃ナリト雖ヘトモ野高ク川卑シ故ニ振古ヨリ灌漑スル能ハス良繼其ノ屬吏小倉三省ト協謀シ遠ク物部河ヲ引キ地勢ノ高下ニ循ヒ上中下ノ三渠ヲ鑿リ開ヲ葛目村ニ設ク是ニ於テ良田ヲ獲ル數千頃ナリ昔者長宗我部氏ノ土州ヲ領スルヤ多ク郷兵ヲ蓄ヘ平居田ヲ耕ヘシテ自ラ給シ農隙武ヲ講ス其出テ耕スヤ必ス甲一領ヲ槍柄ヲ縛着シ隴上ニ植テ急アレハ甲ヲ擐キ槍ヲ提ケ

テ馳ス名ケテ一領具足ト曰フ長宗我部氏ノ絶家セシヨリ多ク業ヲ失ヒ往々命ニ梗スル者アリ良經國中ニ慕リ百餘人ヲ得テ香々美野ノ地百餘頃ヲ給シ墾闢以テ其ノ業ニ就カシノ更ニ名ケテ郷士ト曰フ猶長宗我部氏ノ例ノコトシ是ニ於テ衆皆悦ヒ相繼テ出テ郷士タランコトナ請フ者千有餘人遠近ニ散處シ皆肅然法ニ循ハサルナシ又二淀河ノ灌漑ヲ便ニシ清運ヲ開キ兼テ物産ヲ興ス該藩ノ美事良法與テ力アリ

西岸ニ一渠ヲ鑿ツ之ヲ鎌田渠ト曰フ高岡以南ノ諸村ニ灌漑ス又其ノ東岸ニ一渠ヲ鑿ツ之ヲ八田渠ト曰フ大ニ船漕ノ便ヲ爲ス其ノ間山嶽ヲ劈キ巖石ヲ摧キ勞費貲ラレス然レトモ向キノ焼野却テ沃野トナリ瘠田遂ニ良田トナル民今ニ到ルマデ之ヲ稱ス土豫兩州ノ界ニ溪島アリ漁釣ノ利甚タ衆シ二國ノ民相共ニ之ヲ争ヒ久フシテ平カズ良繼主命ヲ銜ミ島邊ヲ按行シ官吏ヲ選ヒ以テ舊記ヲ求メ事證ヲ考ヘ分量既ニ定リテ之ヲ幕府ニ質シ以テ曲直ヲ辨ス果シテ土州ノ屬島ナリ安藝郡三崎ハ海南ノ絶際ニシテ杳漠ノ中に突出ス凡ソ風濤ノ險悍是レ其

ノ尤モ畏ルヘキモノナリ况ヤ西高知城ヲ距ル十八里北甲浦ヲ距ル十二里其ノ間絶テ泊スヘキノ港ナシ往々通船覆没ノ厄ニ罹ル國主之ヲ憂ヒ良繼ヲシテ地ヲ相セシム其ノ瀬海ヲ室戸ト曰フ偶漁舟ヲ泊スヘキノ灣アリ然レトモ石塊磊砢寸土ナク細沙ナシ且波底ニ三大岩アリ僉曰ハク縱ヒ港ヲ成スコトアルモ此ノ三岩ヲ除カサレハ則チ舟船出入ノ時必ス其ノ底ヲ碾破セント良繼曰ハク善是ニ於テ群吏ヲ帥ヰ方畧ヲ設ケ迺チ圖及ヒ書ヲ具シ以テ幕府ニ請フ已ニ允可ヲ得テ後役夫ヲ課シ石地ヲ鑿リ又堤寨ヲ三岩ノ外ニ築キ填ルニ土囊ヲ以テシ潮退ク毎ニ石ヲ燒テ之ヲ研碎ス其ノ港遂ニ就ル深サ八尺有餘船百五十餘艘ヲ泊ス可ク恰モ良工硯池ヲ彫スルカ如シ總テ工役ヲ用キル三十六萬五千餘人黃金ヲ費ス一千二百有餘兩事ヲ寛文辛丑正月ニ肇メ三月成ルナ告ク土人其ノ功ヲ喜ヒ俚謠ヲ作リ以テ頌スルニ至ル其ノ後來リ觀ル者皆驚テ曰ハク是レ蓋シ神靈ノ所爲人ノ及フ所ニアラスト爾後海

南往來ノ船永ク覆溺ノ害ヲ免ル又土佐ノ國ニ魚ノ生セサル川アリ良繼過ル者チシテ皆石ヲ投セシム數年ニシテ果シテ魚蝦ヲ生ス同國古來蛤ヲ產セス良繼嘗テ江戸ヨリ蛤ヲ買ヒ一船ニ滿テ歸リ悉ク之ヲ近海ニ投ス後蕃殖シテ遂ニ名產トナル良繼前後國政ニ偉功アルコト此ニ止ラス致仕ノ後香々美郡中野ノ別業ニ屏居シ門ヲ杜キ迹ヲ掃ヒ惟書チ讀ミ學ヲ講スルヲ以テ樂トス故舊來語シ談時政ニ逮ヘハ則チ笑テ應ヘス寛文三年十二月十五日歿ス享年四十九野中兼山傳、農事有功傳

南路志ニ曰ハクニ淀川ノ源ハ伊豫ノ國大洲領内ニ出ツ土佐ノ國ニ到テ諸瀧ト相會ス而シテ吾川高岡兩郡ノ間ニ於テ乃ナ此ノ川ヲ成スモ亦中古ニ及テ野中良繼此ノ川流ヲ吾川郡八田村ニ於テ治ナ造リ水流チ分ナシ以テ諸邑耕作ノ便ト爲ス世之ヲ大治ト稱ス又此ノ水流同郡森山村ニ於テ堰ヲ作ル同郡長濱村ニ至ルノ間運送ノ便ト爲ス俗ニ之ヲ壅ト呼フ或ハ其ノ邊ヲ新川ト稱ス

今里傳兵衛

傳兵衛ハ播磨ノ國加古郡古宮郷ノ人ニシテ郷首タリ明暦ノ初ノ郷村用資ヲ捐テ水利ヲ開ク

水ノ乏キヲ憂ヒ水源ヲ加古川筋加古郡中西條村ニ起シ古宮村ニ達ス延長三里十八町ヲ開鑿シ姫路藩領二十四村ノ田六百八町歩餘ヲ灌養セリ抑本郷各村ノ地勢タル平坦ニシテ山川ナク從來僅ニ數所ノ溜池アリテ灌養ヲ之ニ仰ク故ニ年々多少ノ旱害ヲ受ケサル處ナク承應三年ノ旱魃ノ如キハ稻禾皆枯死シテ種子ヲモ遺サズ人民飢餓ニ陥ルモノ夥シク翌年ニ至リ領主ヨリ分付スル所ノ種子ヲ得テ僅ニ播下スルチ得タルカ如キ慘状ヲ極メリ傳兵衛夙ニ本地水利ノ乏キヲ歎シ水路開鑿ノ事ヲ謀リ實地ヲ測量シテ計畫ヲ定メシモ工費夥多シ以テ容易ニ起工ノ途ヲ得ス偶承應三年非常ノ旱害ヲ受ケルニ際シ人々憂慮措ク能ハス茲ニ於テ大莊屋某等ト議リ疏水工事ノ舉ヲ各村長ニ議シ百

方計策ヲ盡スト雖ヘトモ其ノ費金到底民力ヲ以テ支辨スルコト能ハス因テ人夫補助ノ事ヲ領主ニ出願シ領地十五萬石ノ人民ニ課スル所ノ人夫中十六萬四千人ヲ補助スルコト、爲ル然レトモ民間非常ノ旱害ニ遭遇シ困難ノ餘弊猶未タ回復セサルヲ以テ此ノ一大工事ノ負擔ニ堪ヘサルモノアリ傳兵衛深ク之ヲ憾ミ舊テ私財ヲ擲チ之ヲ助ク此ニ於テ事已ニ決ス傳兵衛工事ヲ督シ日夜拮据勉勵僅ニ一年二箇月ニシテ工ヲ竣ル是ヨリ二十餘村ノ田面普ク灌漑ノ便ヲ得テ人々其ノ堵ニ安スルノミナラス瘠地モ亦一變シテ沃土ニ化ス後人其ノ功績ヲ不朽ニ傳ヘソカ爲メ碑ヲ加古郡^{フダツヤ}二屋村字四石^{ヨツイシ}ニ建ツト云フ^{農事有功傳}

澤村勝爲

勝爲ハ通稱勘兵衛磐城平ノ城主内藤右京亮義稠ノ臣ニシテ郡宰タリ磐城郡ノ地味膏腴ニシテ水利ニ乏キヲ患ヒ毎ニ之カ備ヘチ爲サンコ

渠ヲ鑿ル凡
六里餘大ニ
灌漑ノ便ヲ
開ク

トチ思フ城北夏井川アリ源ヲ田村郡ニ發シ東流シテ海ニ入ル勝爲地勢ノ高下ヲ量リ堰ヲ上流ニ設ケ渠ヲ穿チ流ヲ引キ堤ヲ築キ巖ヲ鑿ツ小川ヨリ四倉ニ至リ屈折逶迤凡六里餘慶安四年辛卯ヲ以テ役ヲ起シ三年ニシテ功ヲ畢ル之ヲ小川渠ト謂フ田數萬頃ニ溉ク民今ニ至テ其ノ利ヲ享ク後勝爲故アリテ自殞ス泉崎村光明寺僧觀順ナル者アリ勝爲ト親善其ノ督役スルニ當リ屢々過憩シ談水利ニ及フ毎ニ和歌ヲ以テ相唱和ス觀順其ノ死ヲ傷ミ爲メニ小碑ヲ建テ其ノ冥福ヲ修メ且其ノ事ヲ筆記シテ小川渠由緒記ト曰フ其ノ碑ヲ建テ冥福ヲ修ムルヤ近邑之ヲ聞キ集リ來テ祭ヲ助ケ歲以テ常ト爲ス安政甲寅牧野氏當國ヲ管治スル時勵精治ナ圖リ封邑ヲ巡視シ民ノ利病ヲ察シ荒ヲ墾シ貧ヲ賑シ首トシテ勝爲ノ功ヲ嘉賞シテ光明寺ニ供奠シ永ク其ノ禮ヲ廢セサラシメ又其ノ臣森田朗ヲシテ書シテ之ヲ表セシム澤村勝爲碑文小川渠草野村誌

傳ヘ曰フ初メ勝爲ノ此ノ渠ヲ鑿タントスルヤ食祿五百石ノ内三百

石チ藩主ニ返還シ以テ其ノ費用ノ幾分ニ供セント請ヒ人夫ハ村中
ニ總ヘ一日幾百人ト限り晝夜チ兼チ動作セシム怠ル者ハ鞭縛シ或
ハ死刑ニ處スルアリ或ハ數萬ノ蟄蛇チ堀リ出スアリ爲メニ大日堂
一字チ建立シ利安寺ヲ創シ除地五石ヲ付ス功竣ル後讒詔大ニ起リ
勝爲チ責ムルニ私ニ除地ナ利安寺ニ寄附スルヲ以テシ明暦元年七
月十四日菩提所平大館西岳寺ニ於テ割腹チ命セラルト云ヘリ

永田茂右衛門 同圓水 同勘衛門 同八郎兵衛

茂右衛門父ハ某ト曰ヒ甲斐國黒川ニ住シ武田信玄ニ仕ヘ屢戰功アリ
武田家亡ヒテ後徳川家ニ屬シ小牧山小田原ノ役ニ從ヒ功勞アリ曾テ
採礦水理ノ術ニ通シ水戸藩ニ到テ
礦業ヲ開キ郡村ヲ巡檢ノ業ヲ勤ム慶長元和ノ間大坂ノ役起ルヤ藤堂生駒兩將ノ部下ニ屬シ

シテ水早ノ患ヲ除ク

甲斐ノ黒川及ヒ佐渡石見等ノ礦夫ヲ招集シ之ヲ指揮シテ攻城ノ術ヲ
施ス軍終リ其ノ功ヲ賞セラル後黒川ニ没ス茂右衛門父ニ繼テ其ノ業
ニ練達シ家聲ヲ墜サス寛永中肥前天草一揆ノ起ルヤ黒川ノ礦夫ヲ率
ヰ馳セテ江戸ニ至リ執政土井大炊頭ニ就テ從軍ヲ請フ命未タ下ラス
天草ノ亂既ニ平ク故ニ復タ黒川ニ歸リ礦鑿ヲ業トス時ニ幕命天下金
銀掘採ノ事ヲ禁ス是ニ於テ黒川ノ礦夫皆業ヲ失ヒ離散ス茂右衛門モ
亦タ產ヲ破リテ萍蓬ノ身トナル既ニシテ水戸ノ藩主徳川頼房ハ偉人
奇士ノ一藝一技アルモノヲ祿シ能ク其ノ所長ヲ取ルト聞キ茂右衛門
我ガ長スル所ノ術ヲ施サント欲シ寛永中常陸ニ來テ地勢ヲ檢スルニ
慈等多ク金銀ヲ產スルヲ察シ審ニ意見ヲ具シ之ヲ掘採センコトヲ該
藩ニ請フ之ヲ許ス茂右衛門流落ノ際此ノ恩命アリ欣躍措カス直ニ從
事セシコ其ノ鑒察果シテ誤ラズ殊ニ町屋村ヨリ多ク產セルヲ以テ居

チ町屋ニトシ嘗テ四方ニ離散スル坑夫ヲ招集シ大ニ鑛業ノ隆盛ヲ謀ル然ルニ正保ノ初メ天大ニ旱シ封内ノ水田往々龜裂シ秧稻皆枯死ス就中久慈川沿岸ノ諸村最モ甚シ時ノ參政望月五郎左衛門曾テ茂右衛門ノ水理ニ達スルヲ聞キ之ヲ召シ共ニ久慈川兩岸ノ地形ヲ察シ水利ノ方法ヲ問フ茂右衛門辰之口岩崎兩村ヨリ久慈川ニ堰ヲ居エ水路ヲ通スルニ若カスト抑久慈川ハ源ヲ八溝山ニ發シ溝川、押川、瀧川、玉川、淺川、山田川、黒川ノ各川ヲ容レ遂ニ久慈那珂兩郡ニ界ヲ畫シ久慈郡久慈村ニ至リ海ニ注ク而シテ此ノ辰ノ口外二十箇村ハ久慈川ヲ西ニ帶ヒ山田川ハ東北諸山ノ溪流ヲ合シ其ノ東ヲ通シ淺川ノ細流ハ兩川ヲ東西ニ視テ共ニ久慈川ニ合スノ如ク縦横川線ノ利アルモ皆泉源ヲ東北數里ノ間ニ發シ一朝ノ雨忽テ河水暴漲シ數日ノ旱忽テ流域乾涸シ之ヲ利スルニ甚タ難シトス是ヲ以テ沿岸ノ村邑ハ近傍溪間ヨリ發スル泉流ト天雨トニ賴テ漸ク耕種ニ從事セシモ此ノ如ク非常ノ大旱ニ

遭遇シテハ忽チ飢餓ニ迫レリ茂右衛門ノ炯眼早ク意ヲ此ニ注キ堰ヲ設ケテ水ヲ利スルノ方法ヲ案出ス當時干戈漸ク治リ諸國ノ藩主各封ニ就キ治民ノ法ヲ求ムルニ汲々タリト雖ヘトモ瘡痍未タ癒エズ或ハ殖産興業ノ舉ニ意ヲ用ヰルノ遑アラサルモ頼房ノ賢參政望月五郎左衛門ノ言ヲ聽キ茂右衛門父子ニ八人口ヲ給シ築造ノ事ニ從ハシム茂右衛門乃_チ辰之口ヲ水口ニ定メ同郡花房村内淺川ニ掛越箱樋ヲ以テ水ヲ導キ用水塘ト爲セリ樋ノ長三十六間横幅二間ニシテ水底ハ蛇籠ヲ以テ積疊セリ然ルニ河水樋上ニ停滯シ澎湃渦ヲト寢食ヲ廢シ正保二年ヨリ慶安二年迄凡ソ五年有餘ニシテ功ヲ竣ヘタリ是ヨリ辰之口外二十箇村ノ水田灌溉ノ便ヲ得水戸藩内產米第一ノ地ト稱スルニ至ル當時藩主大ニ之ヲ嘉シ茂右衛門ニ金二十兩ヲ與ヘ加フルニ年々俸米若干ヲ與ヘ水積役ヲ命シ封内水旱ノ患アル村落

チ巡檢セシメ或ハ堰チ設ケ或ハ溝チ通スル等其ノ災チ免レシメタル
モノ都テ二十餘箇所ナリト云フ茂右衛門ハ堰成リシ後十一年チ經即
ナ萬治二年五月歿セリ子勘右衛門父ノ家業ヲ繼キ名聲籍甚タリ光圓
封チ襲フニ及テ猶水旱ノ患アル村落ヲ普ク巡見セシメ除害ノ方法ヲ
考案セシム勘右衛門第一ニ山田川ノ堰ヲ築キ辰之口堰ノ利用ヲシテ
完全ナラシム山田川ハ源ヲ金砂山ニ發シ水漫ク流レ急ニ儲水ニ便ナ
テス而シテ辰之口堰ヨリ分派スル水ハ空ク此ノ川ニ注キ去テ用ヲ爲
サス因テ勘右衛門堰ヲ中央ニ築キテ其ノ流ヲ抑ヘ再ヒ其ノ東方ナル
藤田、篠谷、大里、天神林等ノ諸村ニ注キ大ニ流注ノ便ヲ増セリ又水戸下
市ハ仙波湖ノ沿市ニシテ地極メテ低溫井ヲ鑿シモ汚濁ニシテ飲用ス
ルコト能ハス古來大ニ憂フル所ナリ光圓ノ時泉源ヲ笠原山ニ取り水
道ヲ下市ニ通スルノ舉アルヤ勘右衛門命ヲ受ケ水理ヲ案シ經營ニ從
事シ大ニ功アリ光圓之ヲ嘉シ名ヲ圓水ト賜フ蓋シ水ハ方圓ノ器ニ隨

口堰

舊記

フノ意コ取リシナリ圓水二子アリ長ヲ勘衛門ト曰ヒ次ヲ八郎兵衛ト
曰フ圓水老ヲ後家ヲ次男八郎兵衛ニ讓リ嫡子勘衛門ヲ携ヘテ同郡篠
谷村ニ隱居ス辰之口堰成ルヤ苗字帶刀ヲ免サレ封内水積役ノ外尙堰
元守役ヲ勤ム又辰之口村外二十箇村ノ人民其ノ恩澤ニ浴スルノ報酬
トシテ永ク八郎兵衛ニ糲四十五俵勘衛門ニ糲六十俵ヲ贈ルコトヲ約
ス勘衛門及ヒ弟八郎兵衛共ニ父祖ノ遺業ヲ繼キ家聲ヲ塹サス常ニ封
内ヲ巡視シ水利ヲ興セシモノ少ナカラス子孫連綿タリト云フ記辰之

因ニ記ス圓水ハ父茂右衛門ト共ニ久慈多賀二郡ノ諸山ニ於テ銀鑛
ヲ探リ其ノ產地ト產額ノ多少ヲ記セル古書アリ題シテ御領内金山
一卷ト曰フ

松平正之

松平正之

七十五

正之ハ會津ノ藩主ナリ宗藩ノ親臣チ以テ天下ノ重望ヲ負ヒ徳川光圀
池田光政ト名チ齊ウス將軍家綱チ輔佐シテ甚タ力ム其ノ政チ執ル極
メテ嚴密封内ノ松、扁柏、櫟、檜等ノ諸木悉ク之ヲ藩主ノ用木ト爲シ百姓
ノ屋敷内ニ在ルモノト雖ヘトモ之ヲ伐ラントスルトキハ出願シテ其
ノ價ヲ上納セシメ而シテ後ニ之ヲ許シ其ノ私カニ伐木スル者アレハ
則チ之ヲ罪ニ問フ漆木ニ至テハ監督殊ニ甚シク諸村ノ漆木皆付スル
ニ番號ヲ以テシ毎年秋ニ至レハ檢使ヲ出シテ漆質ヲ計査シ其ノ數量
ヲ明ニシ産地ノ百姓ヲシテ其ノ多少ニ從ヒ蠟ヲ榷テ貢カシム會津ノ
地山間ノ偏土ニシテ運送ノ便ナシト雖ヘトモ正之制度嚴密經營遺策
ナキナ以テ租稅ノ歲入少ナカラス風俗質朴四民業ヲ勵ミテ百工興ル
コト夥シク下民困窮スルニ至ラスト云フ正之寛文十二年十二月卒ス

年六十四

經濟要説
故老傳說

挺身土功ニ
從事シ旱害
ヲ除ク

山田次右衛門

次右衛門ハ陸奥國江刺郡黒石村ノ產ニシテ元和二年ヲ以テ生ル同國
伊膽郡下衣川村ハ田水乏シク旱魃ノ患ヒ特ニ甚シ次右衛門之ヲ憂ヒ
百方苦慮遂ニ衣川ノ河流ヲ引キ之ヲ救濟セント欲ス土人氏神ノ崇ア
ルヲ恐レ抗言シテ聽カス治右衛門身ヲ挺シテ之ヲ責罰ニ當ラントシ
寛文三年斷然土功ニ從事ス功成リ該村旱魃ノ患ナキヲ得タリ延寶元
年九月十六日歿ス年五十八同村碑ヲ建テ其ノ効績ヲ勒ス山田次右衛門碑銘

栗林次兵衛　木松平右衛門　山下助左衛門
重富平左衛門　猪山作之丞

次兵衛ハ筑後國生葉郡夏梅村ノ人平右衛門ハ同郡清宗村ノ人助右衛
門ハ同郡高田村ノ人平左衛門ハ同郡竹村ノ人作之丞ハ同郡菅村ノ人
ナリ與ニ其ノ村ノ庄屋ヲ勤ム同國生葉竹野山本ノ三郡筑後河ニ沿フ

山田次右衛門　栗林次兵衛

郡民ノ爲メ
ニ水利ヲ開
キ美田一千
四百町ヲ得

ト雖ヘトモ水乏キチ告ケ農耕利アテス民大ニ之ニ苦ム五人ノ者相謀
リ以爲ラク河チ堰カバ必ズ水ヲ得ソ水ヲ得ハ貰モ憂フルニ足ラズ築
鑿ノ事大ナリ藩ニ乞フト雖ヘトモ允サドル必セリ然リト雖ヘトモ郡
今將ニ枯滅セントス郡ノ枯滅スルハ死スルニ如カサルナリ等シク死
センカ大功ニ死セント議合シ乃チ血ヲ歃テ互ニ死チ決セントコトヲ誓フ
寛文三年連署上請シテ曰ハク水來テザレハ極刑ニ就カント藩大ニ之
チ壯トシ其ノ請ヲ允可ス爲メニ五人ノ磔具ヲ作テ之ヲ村口ニ立テ其
ノ必罰ヲ示シ以テ衆ヲ勵マス衆氣百倍急ニ大堰ヲ大石長野ノ二ヶ所
ニ樹ツ水勢猛流萬派意ノ如キチ得竟ニ美田千四百餘町ヲ得藩其ノ功
チ嘉シ五庄屋ヲ賞スルニ年稅各二百石ヲ免スルヲ以テス五庄屋皆曰
ハク水ヲ得ル某等ノ素願ナリ賞ヲ受クル欲スル所ニアラズト拜辭シ
テ受ケズ人益其ノ義ヲ高シトス大石堰

橋本五郎右衛門

五郎右衛門ハ豊後國大分櫻町ノ商賈ナリ年二十七八ノ時其ノ兄八郎
右衛門ノ家ニ在リ偶商事ヲ以テ薩摩國鹿兒島大隅國金山邊ヲ遍歷シ
タル際始メテ草筵ト稱スルモノヲ見ル其ノ質堅韌ニシテ外觀ノ美麗
ナル夏ニ豊後產ノ茅筵ニ優ルチ異ミ之ヲ質セハ答テ曰フ琉球國ニ產
タル蘭草ヲ以テ織レルモノナリト五郎右衛門以爲ラク之ヲ移植シテ
筵ヲ製スレハ大ニ國產ヲ興スニ足ルベシト家ニ歸ルニ及ヒ志想愈堅
シ兄ニ謀リテ單身琉球ニ赴ク時ニ寛文三年二月三日ナリ鹿兒島ヨリ
船ニ乗シ陸地ヲ距ル凡ツ三百里許ニシテ俄ニ暴風來リ船將ニ覆ラント
ス辛苦航行辛フシテ一小島ニ着スレハ林間ニ人家ヲ認ム就テ之ヲ見
レハ男女三人アリ皆異様ノ服裝ヲ爲シ言語通セス戸前ニ蘭草ノ累々
タルヲ見テ何ノ用タルヲ問フニ彼レ席ヲ撫シテ之カ原料タルヲ答フ
ルニ似タリ以爲ラク曾テ鹿兒島ニ於テ見ル所ノモノ即チ是ナリト大

蘭苗ヲ琉球
ニ求メ遂ニ
豊後ノ國產
ト爲ス

ニ喜ヒ其ノ種苗ヲ求メントノ意ヲ示スモ頑然トシテ承諾ノ意ナキカ
如シ思フニ苗ヲ傳フルコト是レ國禁タルニ由ルナラン是ニ於テ一計
ヲ案シ竹竿ノ節ヲ貫キテ蘭苗ヲ其ノ中ニ密藏シ棒ニ擬シテ行李ヲ荷
ヒ携ヘ歸ル然ルニ其ノ苗ヲ栽培スルノ方法ト地質ノ適否トヲ知ラサ
ル爲メ空ク枯死シテ一莖ヲ殘サス因テ再ヒ海ニ航シテ該島ニ到リ滯
留數日遂ニ島人ノ親愛ヲ得テ栽培熟練者一人ヲ伴ヒ歸ル然シテ其ノ
種苗ハ前ノ如ク竹筒ニ藏メ携帶シタルモノナリト云フ是ニ於テ島人
ノ示教ニ依リ之ヲ栽培シタルニ生育頗ル好ク乃刈取シテ筵席ヲ試織
スルヲ得タリ之ヲ名ケテ七島筵ト曰フ是ヨリ十年二十年間ニ近傍各
地ニ傳播シ筵ノ產額大ニ増加ス是ニ於テ兄八郎右衛門自ラ大阪ニ赴
キ七島筵ノ問屋ヲ江ノ子島市兵衛ナル者ニ開カシム是ヨリ筵席ノ用遠
近ニ遍ク遂ニ此ノ地方ノ一大產物トナルニ至レリ五郎右衛門ハ享保
二年八月二十六日ヲ以テ死ス享年八十三明治十四年九月同地ノ有志

者一千三百餘名其ノ遺惠ニ酬シ爲メ相謀テ地ヲ大分郡神崎村ニトシ
祠宇ヲ創建シ青島神社ト稱シテ之ヲ祭ルト云フ農事有功傳

因ニ記ス七島ニ次テ名アルモノハ氣賀ナリ遠江ノ國引佐郡氣賀村ヲ
中心トス傳ヘ云フ此ノ地方ハ寛永年間震災ニ罹リ地而陷落シテ潮
水浸入シ穀物舉テ產スルヲ得ス滿面葭葦ノ淵叢ト化シテ農民零落
ス邑主近藤縫殿之助ハ他ニ之ヲ應用シテ臣民ノ生活ヲ得セシメン
ト欲スルモ策ナシ明和中偶大阪城勤番ノ時其ノ同役豊後府内ノ城
主松平左衛門尉ニ語ルニ實ヲ以テス左衛門尉能ク蘭草ノ潮田ニ適
スルヲ述フ縫殿之助大ニ喜ヒ其ノ苗ヲ請フテ盆子ニ栽エ歸國ノ後
庭園内ニ移植シ以テ適否ヲ試ム而シテ其ノ能ク適スヘキヲ知ルニ
ヨリ其ノ苗ヲ領内ニ頤チ之ヲ潮田ニ培養セシム後漸次產額ヲ增加
シ文化文政ノ頃ニハ諸國ニ販出スルニ至リ豊後ノ七島筵ニ次テ此
ノ地ノ一產物ト爲レリ

大庭源之丞

水利ヲ開ク 源之丞ハ駿河ノ國駿東郡深良村ノ名主ナリ寛文中同郡二十九村ノ用水

乏キナ憂ヒ箱根ノ湖水ヲ分流シテ灌漑ニ便セントコトヲ苦慮シ遂ニ之
ヲ江戸淺草淺井次郎兵衛本船町尼ヶ崎嘉右衛門長濱半兵衛四谷友野
與右衛門ノ四名ニ謀リ山麓ヲ開鑿シテ隧道ヲ通スルノ議ヲ決シ四名
之ガ金主トナリ連署シ以テ老中ニ出願ス是レ實ニ寛文五年ナリ六年
九月之ヲ許サレ八年八月二十五日開鑿ニ着手セリ其ノ法一方ハ翻水
ヲ距ル四十六間ノ處ヨリ掘リ一方ハ山後ノ下口ヨリ堀リ十一年四月
二十五日ニ至テ竣功シ始メテ水路ヲ通ス此ノ費用凡々八千兩尋テ費金
ヲ償ハシカ爲メ七年間灌水ノ田一段毎ニ上米一斗五升ヲ金主ニ納ム
ル法ヲ定ム七年ヲ經テ用水ヲ管理セシメンカ爲メ代官所ヨリ水配役
人二人ヲ置ク安永年間ニ至テ此ノ法ヲ改メ二十九村ヲ分ナテ上郷十

一村中郷九村下郷九村ト爲シ每郷水配役二人ヲ置ク同郡ノ產米實ニ
賂シト云フ農事有

岡上景能

景能ハ次郎兵衛ト稱ス父ハ景親祖諱ハ某其ノ先參州岡崎ニ出ツ景親
ニ至テ武藏ニ遷リ兒玉郡高柳村ニ居ル幕府擢テ代官ト爲ス能名アリ
其ノ経歴ニ出ルモノ頗ル多シ上野ニ在テハ新定利村ノ如キ地勢穹隆
ニシテ引水ニ苦ム景能棟名山上ノ池沼ヲ相シ巨巖ヲ割リ深渠ヲ鑿ツ
長凡ツ一里二十九町以テ本村ニ達シ初メテ灌漑ノ便ヲ得水田百頃餘ヲ
増ス今ノ岡崎新田是ナリ寛文四年其ノ能ク職ニ稱フヲ以テ下野足利
郡ヲ併管ス郡中ニ松田川アリ亦疏水ノ策ヲ立て流ヲ引ク三十餘町以
テ大前山下ノ二村ニ達シ水田七町許ヲ獲タリ景能特ニ見ル所アリ大

ニ工チ起サント欲ス新田郡ノ東笠懸野アリ平曠十數里ニ亘リ土鬆ニシテ水少ナク灌漑ニ資ル可カラス古ヘヨリ壘闘ヲ議スルモノ皆棄テ顧ミス景能苦思シテ遠ク渡良瀬川ヲ引キ新渠ヲ鑿ナ數村ヲ貫キ阿佐美村ニ到ル又數塚村ニ分水渠ヲ設ケ之ヲ原野ニ通ス是ニ於テ地ノ低キモノ耕耘シ高キモノハ宅地ト爲シ初メテ移住ノ便ヲ得數年ナラズシテ民戸ヲ籍スル四百二戸田圃森林二千三百十八町許ヲ得タリ今ノ大原本町村等ハ皆其ノ經理ニ出ツ然リ而シテ景能ノ渡良瀬川ヲ引クヤ沿川諸村山田郡ニ屬スルモノ分水ノ故ヲ以テ一時本流涸レ新渠ノ下流土地粘土ナク滲漏ノ憂アリ是ニ於テ頑民噉々トシテ怨謫初メテ與ル其ノ事江戸ニ聞ユ府僚ノ其ノ能ヲ害スル者亦隙ニ乘シ之ヲ排斥シテ曰ハク屢々大役ヲ起シ民多ク之ヲ苦ム且得ル所失フ所ヲ償ハスト幕府其ノ職ヲ疑ヒ之ヲ八丈島ニ流ス尋テ景能屠腹シテ死ス實ニ貞享四年十二月三日享年五十有餘阿佐美村國端寺ニ葬ル景能人ト爲リ剛

明白ヲ信シテ疑ハス苟モ爲サント欲スル所銳意果決權貴或ハ之ヲ阻レハ侃々正辭營テ回避スルコトナシ到底禍ニ罹ルモ亦職トシテ此ニ由ルト云フ岡上景能紀功碑

或ハ傳フ幕府景能ヲ江戸ニ召シ鞠問スル所アラントス景能豫メ讃者ノ所爲ナルヲ知リ途上ニ割腹シテ死スト近年楫取素彦ノ群馬縣令タリシ時奏上シテ岡上景能ニ追賞金ヲ賜ヒ碑ヲ建テ其ノ功績ヲ不朽ニ傳フト云フ

仙石久俊

久俊ハ因幡守ト稱ス封邑上野國磯部村ノ地固ト高燥灌漑ノ用ナク雨澤ニ遭フテ始メテ能ク耕種ノ功ヲ施ス若シ夫レ雨勝鉛節旱魃虐チ爲セハ則チ土焦ケ苗槁レ野ニ青草ナク阻飢ノ嘆連リニ起ル久俊特ニ之ヲ憂ヒ寛文中上疏シテ幕府ニ請フテ曰ハク臣ノ封邑磯部村祿凡二千

水利ヲ開キ旱災ヲ除ク

石土高ク壤燥キ灌漑水乏ク荐リニ旱乾ニ遭ヒ民生ヲ遂ケス臣甚タ之
 チ哀ム溝ヲ穿テ碓氷ノ水ヲ引テ之ヲ灌ガント欲スレトモ力微ニシテ
 用繩カス伏シテ請フ臣ノ封邑ヲ官ニ獻シ更ニ臣ニ他邑ヲ賜ハソコト
 ナ此ノ地浸灌ノ用ヲ得レハ即チ一方ノ生民世々饒富シ永ク上恩ニ浴
 セント幕府乃其ノ請ヲ允シ徒ニ發シ役ヲ起ス衆皆歡ヒ爲メニ器ヲ執
 リ用ヲ摻テ役ニ就ク者二万餘人渠長一千五百餘間事二旬ニシテ成ル
 河水奔注鄰邑大竹村モ亦浸潤ノ利ヲ得タリ是ニ於テ槁壤易リテ沃土
 見ハレ怨嗟息テ歡聲作ル磯部村ノ衆民相議シテ曰ハク河水東流庶種
 荐リニ登ル吾ナシテ永ク艱阻ノ患ヲ免レシムル者ハ皆公ノ賜モノナ
 リト乃チ廟ヲ建テ久俊ヲ祀リ其ノ號ヲ崇テ稻葉大權現ト曰フ春秋毎
 ニ祀典ヲ修メ又之ヲ石ニ勒シテ廟門ニ建テ永世久俊ノ德ヲ遺ハルコ
 トナカラシムト云フ仙石公遺績碑

田代重榮 附同重仍

重榮ハ通稱又左衛門筑後國生葉郡吉井村ノ大庄屋ナリ其ノ先ハ周防
 大内氏ノ臣相良某ト曰フ生葉郡ノ東隅水ニ綠リ山ニ繩ルノ地田野磽
 碓年比登ラズ時雨一タビ候ナ憲レハ則チ地焦燥シ居民給セス田租モ
 亦除クニ等シ重榮其ノ子重仍ト謀リ筑後川ノ水ヲ引キ以テ沃野ヲ成
 サントス乃官ニ告ケ費ヲ乞ヒ且ツ私錢ヲ出シテ隧ヲ原口村袋野山麓
 ニ穿ツ袋野ノ地皆磐石容易ク之ヲ鑿ツ可カラス是ニ於テ大ニ礪丁ヲ
 発シ上ハ瀬瀬ヨリ下地藏巖ニ至ル迴遠長ナ凡七千尺遂ニ石中ヲ穿テ置
 溝ヲ通ス寛文十二年閏七月ニ起リ延寶元年三月ニ終ル溝成リテ河水
 ナ引キ之ニ注クニ及ヒ水量甚タ乏シク廣ク灌漑ニ充ルニ足ラス因テ
 更ニ瀬瀬ニ堰ヲ築クコトヲ圖リ木石交投シタルモ奔流激湍ノ力輒ナ
 漂蕩シ去リテ根址ヲ止メス役夫皆其ノ難キヲ憚ル重仍奮然自ラ勵シ
 一巨竿ヲ中流ニ卓テ攀縁シテ下リ井幹ヲ水底ニ作り填ムルニ巨石數

水利ヲ開キ
眞田ヲ興ス

十百艘ヲ以テス是ニ於テ河水激湧シテ溝中ニ注ク伏流迤邐地藏巖ニ至リテ始メテ之ヲ見ル巖下渠チ分ツ數派田ニ溉ク數千頃悉ク膏腴ノ地ト成ル是ヨリ官入前日ニ倍蓰ヲ居民繁庶スルモノ數十村後世其ノ惠ヲ受クル大ナリト云フ袋野置溝

惠ヲ受クル大ナリト云フ袋野置溝

奥寺八左衛門

八左衛門定恒ハ盛岡藩主南部重信ノ臣二百五十石ヲ食ム二弟アリー
ハ僧某實ハ隣生タリ出テ和賀郡江釣子村全明寺ノ住職トナル一ハ六
力ヲ開墾ニ
竭シ遂ニ十
村ヲ新設ス
之亟清定ト云フ定恒清定ト議シ和賀郡村崎野チ堅シ國ノ爲メニ利ヲ
興サント欲ス藩主ノ親族松平氏ノ臣某ニ因リ金三千兩ヲ松前氏ニ借
リ寛文五年藩ニ白シ且四人ヲ得テ堅セント請フ之ヲ許ス是ニ於テ礦
夫ヲ羽州阿仁ノ銅山ヨリ鳩メ地チ横川目ヨリ隧シテ山ヲ貫キ和賀川
ニ達ス凡ソ二派一ハ其長ヲ千四百六十間一ハ七百間而シテ水到ラス衆

皆色ヲ失フ定恒從容礦夫ニ令シテ薪ヲ坑口ニ燃ク水即チ至ル延テ之
チ村崎野ニ溉ク乃チ假屋ヲ架シ其ノ圍ヲ濠ニシ一方ニ門シ以テ四人
チ居ラシメ遙所ヲ置キ出入ヲ檢シテ業ニ就カシム其ノ業ヲ起スヤ野
チ秤リ野ニ劃シ其ノ野ニ就テ間隔シテ堅セシム其ノ狀世俗ノ所謂石
疊ト云フモノ、如シ蓋シ成功ノ速カナラン事ヲ慮ルナリ是ニ於テ家
屋ヲ各所ニ造リ器械食糧ヲ與ヘ散居シテ農ニ就カシム定恒常ニ銃ヲ
執リ之ヲ督シ曰ハク汝カ輩ハ皆曾テ囚人クリ公已ニ我ニ付スルニ生
殺ノ權ヲ以テス怠惰スルモノハ我能ク之ヲ銃殺セント衆懼レテ唯命
惟レ隨フ其ノ横川目ニ在テ督スルモ亦斯クノ如シ横川目ハ村崎野ト相
距ル凡六里許而シテ其ノ監督ニ便ナテザルヲ憂フ弟全明寺其ノ貌甚
タ相肖タルヲ以テ同裝シテ俱ニ其ノ頭ニ帽シ銃ヲ執リ村崎野ニ在テ
督セシメ己レハ横川目ニ在リ其ノ際往來スルモノ之ヲ見テ愕然相謂
テ曰ハク奥寺殿現ニ彼ニ在リテ督セリ而シテ今又此ニ在リ何ヲ以テ

能ク此ノ如キヤ抑飛テ來レルカ嗚呼奥寺殿ハ異ニ天神ナリト衆相傳
 テ益畏服シ塞々業ヲ屬ミ敢テ怠惰ノ念ヲ抱クモノナシ是ヲ以テ戸ヨ
 逃散ナク農ニ情夫ナク遂ニ村落チナス寛文五年乙巳事ヲ舉ケ延寶七年
 丁未ニ成ル歲ヲ閱スル凡十有五年高チ得ル七千二百石村ヲ成ス十
 村藩主其ノ功ヲ賞シ定恒ニ三千金ヲ與ヘテ松前氏ニ還サシメ且其ノ
 地ニ就テ千石ヲ加祿シ清定ニ五十石僧某ニ袈裟ヲ與フ定恒辭シテ五
 十石ヲ受ケ國ノ重典ヲ犯スニ非ルヨリハ子孫罪アリトモ三度迄ハ其
 ノ祿ヲ削ルコトナカラソコトヲ請フ之ヲ許ス村民モ亦之ヲ徳トシ生
 碑ヲ建テ之ヲ祭ルニ至ル初メ定恒ノ坑ヲ鑿ツヤ猫塚武兵衛竹村平内
 功ヲ礪夫ヨリ擢テ僚屬トシ從事セシム二人礪夫ヲ董シ能ク其ノ
 ナル者ヲ礪夫ヨリ擢テ僚屬トシ從事セシム二人礪夫ヲ董シ能ク其ノ
 功ヲ礪功ノ事ヲ其ノ家ニ傳ヘ世々坑道修繕ノ事ヲ掌ラシムト云フ北
 郡五戸郷米田村其ノ外ニモ新田アリテ定恒ノ遺業ナリトノ傳ヘアリ

功勳業雜誌、農事有
傳說、故老傳說

河村瑞軒

瑞軒ハ伊勢ノ人ナリ其ノ先世北畠氏ニ仕ヘ後民間ニ降ル父ハ竹右衛
 門ト曰フ瑞軒幼ニシテ亡命江戸ニ落魄シ十右衛門ト名ツク車戸ノ脚
 夫トナル性智幹衆ニ超エ而シテ貧窶支ヘ難シ自ラ謂ラク勞役日ヲ涉
 ル何ノ益カアラント衣衾ヲ典賣シ金ヲ得ル僅ニ三方上國ニ赴キ身計
 チ立テント欲ス行小田原驛ニ抵ル一老人アリ之ヲ見テ曰ハク子何ヲ
 以テカ江戸ヲ去ル曰ハク成事ナシ曰ハク子ハ家ヲ興スノ相ヲ具フ宜
 ク還テ力ヲ盡スヘシト十右衛門其ノ言ニ從ヒ歸リ來リ品川海邊ニ到
 ル適盆祭後阿伽棚撤スル所ノ瓜茄多ク磯際ニ漂フ後乞兒ヲ雇ヒ採取
 ツ之ヲ齋シ歸リ桶ヲ辨シ醃菹ヲ作り土工廠ニ至テ販ク雇夫群來之ヲ
 需メ小利ヲ獲タリ是ヨリ十右衛門屢々廠中ニ入り工司ト親善市ヲ過グ

ル毎ニ破鞋チ拾ヒ噪乾細剉シ坊壁ノ料ニ充テ以テ售ル一日増上寺殿堂壓脊ノ磚毀テリ寺僧修磚チ謀ル屋角峻急梯ス可カラス脚道チ設ケント欲セハ工費モ亦鉅ナリ十右衛門請テ曰ハク其ノ半費チ與ヘハ我能ク之チ修メント聞ク者咸疑フ十右衛門大紙鶴チ造リ風起ルチ俟テ之チ放ツ紙鶴冉々トシテ舉リ磚毀ノ處チ過ク廻チ其ノ線チ放縱シテ之チ堂後ニ陛下シ其ノ線ニ繫クニ二大索チ以テシ更ニ繩チ張リ階ト爲ス脚道攀チ易ク一舉功チ竣フ十右衛門生業稍裕肆チ通衢ニ就ヒ甲幹童男チ備フ明暦三年正月江戸大火其ノ肆火ニ罹リ火未タ滅セサルニ十右衛門意色泰然忽チ旅裝チ治メテ起ツ囊中十金ニ盈タ大星夜兼行岐蘇山ニ至ル木商ノ門稱兒アリ戯ル因テ小判三枚ヲ出シ小刀モテ孔チ穿チ紙條ニ貫テ以テ玩具ト爲シ之チ與フ既ニシテ門ニ入り語テ曰ハク吾來ルハ木チ買ハンカ爲ナリ不日甲幹金チ齋ラス當ニ先ツ物チ聞シテ價チ定ムヘシト乃ナ貯木所ニ到リ約シテ諸材チ收買シ墨チ以

テ之チ印識ス幾モナク江戸延焼ノ夥キ木行多ク灰土ト成リ材料空乏價俄ニ騰貴ス利チ射ル者歧蘇ニ趨テ木材チ購ハント欲スレトモ十右衛門既ニ信券チ立ツ復手チ下スニ由ナシ竟ニ人ニ依テ之チ轉買スルニ至ル十右衛門金チ獲ル若干即チ價チ木商ニ完納シ懷金八百兩チ贏シテ去ル厥後十右衛門廣宅チ構ヘ隸役チ養ヒ其ノ業専ラ邸第ノ土木チ保管大人ト爲リ警敏機要チ失ハス幕僚士人ニ暱ミ利達日ニ加ハリ復タ疇昔ノ比ニ非ス遂ニ蓬髮シ名チ瑞軒ト改ム江戸城西大石アリ路ニ横ハル人步行ニ便ナラス官將ニ工ニ命シテ石チ研ラシメントストモ耗費甚多シ竟ニ之チ瑞軒ニ詢フ瑞軒曰ハク石チ除ク太タ容易ナリ乃チ其ノ事チ司ル者チシテ移文チ作ラシメテ曰ハク城中ノ土之チ賜フ求ムル者ハ來レト是ニ因テ市民競ヒ集リ土チ刷テ相載ス右ノ四外呀然坑チ成ス乃チ石チ轉シテ以テ埋ム此ヨリ瑞軒遍ク諸州ニ往キ蕪地チ墾キ河脈チ通シ蓄畠開浚其ノ功少ナカラス士庶ノ江戸ニ集マル皆

食ヲ諸國ノ輸入ニ仰ク西南諸道ハ漕運阻滯ノ患ナシト雖ヘトモ奥羽ノ運路甚タ迂遠ニシテ又時々覆沒ノ患アリ寛文中瑞軒幕府ノ命ヲ承ケ奥羽ノ海運ヲ通利ス瑞軒諸州ヲ巡視シ其ノ利害ヲ詳ニシ乃チ堅船ヲ雇ヒ載量ヲ定メ運夫ヲ精擇シ脚價ヲ優給シ陸奥荒濱ヨリ東洋ヲ經テムノ水害ヲ治メ開キ大阪江戸ニ至ル沿海百五十里中ニ漕務場四所ヲ置キ以テ救應檢視ニ備フ

江戸ニ至ル沿海百五十里中ニ漕務場十四所ヲ置キ下之關ニ入り瀬戸海ヲ過キ南洋ヲ航シテ房相ノ間ニ入ル八百餘里中ニ漕務場十四所ヲ置キ下之關ニ嚮導船ヲ備ヘ志摩ノ菅島ニ烽火ヲ舉ケ以テ危礁ヲ避ケシム是ニ於テ海運大ニ開ケ公私ノ遭運便利ヲ得タリ幕府三千兩ヲ賜ヒ之ヲ賞ス大阪淀川ノ委ヲ受ケ衆水會注シテ河道淤塞シ霖雨ニ遇フ毎ニ轍モスレバ漲溢潰決ス天和中幕府又瑞軒ニ命シテ之ヲ治メシム瑞軒因テ九條島ノ中間ヲ鑿開シ一道ノ新河ヲ通シ直ニ海ニ達ス長一千丈廣三十餘丈泥土ヲ積テ山ヲ築キ松ヲ樹エテ航客ノ標識トス其ノ他ノ幹河支河ハ

滯ヲ導キ阻ヲ鑿キ堤防ヲ築ク通計十萬丈五歳ヲ閱シテ完ク成ル官民皆其ノ便ニ頼ル幕府之ヲ嘉ミシ新河ヲ名シケテ安治川ト曰ヒ河口積土ノ處ヲ瑞軒山ト曰フ後幕府瑞軒ヲ擢シテ士籍ニ列子俸祿百五十俵及ヒ新地ヲ賜フ尋テ代官ト爲リ髮ヲ蓄ヘ名ヲ平太夫ト改メ義通ト字ス元祿十二年九月四日歿ス僧諡玄鑑自休居士ト曰フ内藤新宿天龍寺ニ葬ル著ス所疏論提要本朝河功略記等アリ視鷹草、奥羽海運記、畿内治河記、瀬田問答、瑞軒傳廣貢ニ曰ハク兩國橋昔時少シク距テ川上ニアリ潦水至ル毎ニ桁梁傾蕩シテ士民大ニ苦ム川村瑞軒上書シテ事ヲ論シ遂ニ之ヲ改架ス爾後流失罕ナリ今架スル所乃チ其ノ處ナリト又江戸名所圖會ニ本所一橋北詰鹽町南角ニ瑞賢長屋アリ是レ其ノ宅址ナリト云フ瑞軒ノ事ヲ載スルノ書凡ソ十餘種アリ視聽草、名家畧傳、江戸名所圖會續武林隱見錄、武江年表續、近世叢語、旭窓記事、大坂繁昌詩註、本朝虞初新誌、近世偉人傳、瀬田問答、奥羽海運記、畿内治河記等是ナリ端軒一ニ瑞賢

ニ作り或ハ隨見ト曰フ又一名安治故ニ大坂ノ新河ヲ安治川ト名ツ
クト云フ

大槻七兵衛

七兵衛ハ出雲國神門郡中荒木村ノ人初メ同郡上古志村ニ住シ田産若干ナ有シテ家頗ル富ム寛文中荒濱ノ開拓ニ企圖シ率先此ニ移住シ遂ニ三村落ヲ創設ス中荒木村其ノ一ナリ後世三村ヲ合シテ荒木村ト稱ス七兵衛夙ニ心ナ開拓ニ傾ケ公益ヲ興スヲ以テ任ト爲ス荒木地方海濱ニ沿ヒ西ハ渺々タル海面ニ臨ミ東ハ曠漠タル村野ニ續キ冬季ニ際最モ心ヲ開拓ニ傾ケ遂ニ三村ヲ新設スレハ海風砂塵ヲ捲揚シテ丘阜ヲ築クニ至ル斯ノ如クナルヲ以テ古來荒濱北濱等ノ稱呼アルノミニシテ人烟絶無ノ境タリ寛文中藩吏開拓ヲ企テ屢々此ノ地ヲ検セシモ工事ヲ難シ終ニ手ヲ下サズシテ止ム七兵衛之ヲ慨キ自ラ奮テ開拓ノ業ヲ起サント欲シ案ヲ具シテ藩准チ

得先ツ松樹ヲ海岸ニ移植シ之ヲ培養スル多年其ノ漸ク鬱葱タルニ及テ居ナ本地ニ移ス實ニ延寶五年ナリ當時猶曠漠不毛ノ地絶テ一人ノ來テ住スル者ナシ因テ藩廳ノ保護ヲ請フテ移住者ヲ勧誘シ移住者加ハルニ隨テ土地ヲ分賦シ之ヲ開墾セシム而シテ伏樋ヲ石塚村汗入カ池ニ設ケ溝渠ヲ開鑿シテ斐伊川ノ水ヲ導キ以テ灌漑ニ便ス蓋シ七兵衛始メテ居ナ此ニ移セシヨリ已ニ八年事業緒ニ就キ人烟増殖元祿二年ニ至テ三村ヲ新設シ名ケテ古荒木、中荒木、北荒木ト稱ス藩廳七兵衛ノ功ヲ賞シ御免屋敷一町二段歩ヲ下付シ終身扶持米若干ヲ給ス是年七月七兵衛病ヲ以テ歿ス享年六十九其ノ病ニ罹ルヤ嗣子忠左衛門ニ遺命シテ曰ハク今ヤ開墾ノ業略成ルト雖ヘトモ獨リ念頭ニ懸ルモノハ石塚村汗入カ池ノ伏樋ナリ此ノ樋タル年ヲ經ルニ隨ヒ恐ラクハ損壞セシ後年若シ斐伊川滿水伏樋危殆ノ狀アラハ藩廳ニ上請シ該地ニ岩樋ヲ設ケ汗入カ池ヲ埋メテ新田ト爲シ上鹽治村ノ山足ヲ鑿開シ以テ

水利ヲ完成スヘシト之ヲ交付スルニ其ノ設計書ヲ以テス然ルニ忠左衛門不幸短命ニシテ七兵衛死後僅ニ四箇月ヨシテ病歿ス孫後ニ承ケ忠左衛門ト稱ス果シテ斐伊川満水ノ爲メ伏樋危シ乃ナ其ノ遺計ヲ具シテ藩廳ニ請フ藩廳之ヲ採納シ遺計ニ隨テ工事ヲ大成ス此工タル獨リ新聖地ノ灌漑ヲ饒足スルノミナラス沿河數村ノ古田ヲ潤澤シ併セテ運漕ノ便ヲ開クニ至レリ七兵衛水利土功ノ術ニ長シ水患地民ノ爲メニ水ヲ治ムルモノモ亦少ナカズ同郡西湖ハ排水ノ途ナク霖雨毎ニ漲溢シテ湖畔ノ田畠ヲ害ス嘗テ七兵衛之ヲ憂ヒ湖ノ一方ニ差海川ヲ開鑿シテ湖水ヲ疏通ス是ヨリ各村水害ヲ免レ新田モ隨テ興ル七兵衛畢生心ヲ公益ニ竭シ毫モ自家子孫ノ計ヲ爲サス是ヲ以テ其ノ歿スルニ及テハ既ニ事業ノ爲メニ大抵家産ヲ罄盡ス其ノ自費開鑿セシ場所ハ方今戸數四百七十餘官民林七十五町民有耕地三百六十三町餘ニ達シ其ノ收穫米三千餘石又溝河開鑿ノ方宜キヲ得灌漑ヲ被フル田一

千四百七十四町ニシテ其ノ收穫米ヲ増スコト七千餘石ノ多キニ上ルト云フ故大梶七兵衛事蹟
取調書、追賞書類

明治十五年山林共進會ノ舉アルニ方リ其ノ殖林ノ功ヲ追賞シ銀盃一個金幣若干ヲ其ノ遺族ニ賜フ二十四年農商務省其ノ公益ヲ興ス功ヲ賞シ金五拾圓ヲ賜フ

澄田甚九郎

甚九郎ハ出雲ノ國神門郡中荒木村ノ人初メ西園村ニ住ス延寶年間領主荒濱ノ開墾ヲ企圖スルニ當リ此ニ移住シ専ラ力ヲ開墾ニ盡シ既ニシテ數村ヲ創設ス中荒木村其ノ一ナリ此ノ地斐伊川及ヒ神戸川ノ流末ヲ受クル湖北ニ在リテ西ハ渺々タル海面ニ臨ミ東ハ平坦數里ニ亘ル故ニ往時ハ海風沙塵ヲ吹上ケ爲メニ地形ヲ變スルニ至ル當時甚九郎ノ此ノ地ニ移住スルヤ暴風ヲ防クサ以テ急ト爲シ先ツ松苗ヲ字八通

澄田甚九郎

松樹シ
ノ栽植
シ開墾ス
ニ貢

及ヒ湊シノ地ニ栽植スル數年墾業賴テ以テ緒ニ就クシ得タリ又本村ト西
園村ノ境界ニ川アリ赤川ト稱ス幅凡四十二間甚九郎墾業及ヒ行通ノ
便シ謀リ自費ナ以テ橋梁シ架設シ橋名ナ湊一文橋ト稱ス爾來改造修
繕等モ亦自ラ之シ擔當セリ嘗テ領主其ノ功シ賞シ所有地ノ租シ免セ
シコトアリト云フ明治十五年山林共進會シ東京ニ開クニ當リ其ノ種
樹ノ功シ追賞シ銀盃一個金幣若干シ賜フ十五年山林共進會報告

津輕信政 野口武左衛門 原田某 増田某

信政ハ陸奥國津輕ノ藩主ナリ夙ニ心シ民政ニ竭シ最モ力シ殖林ニ致
セリ西津輕郡ノ内木造及ヒ廣須地方ハ東北大川シ界シ西方一帶ノ砂
山アリテ海岸七里シ長濱ト云ヒ島嶼港灣ナク風烈ク浪高ク丘陵ノ兀
樹木シ栽植
シテ風沙ノ
害シ防キ
戸

諸ニシテ草木生セス西風砂シ捲キ耕耘ニ堪シ信政深ク之シ憂ヒ天
和二年樹藝ノ道ニ精シキ者數名ナシテ近接ノ住居シ指揮シ西ヨリ東

日殖シ田圃
奥ル

コ折曲シテ幅一里長十里ノ地ニ松及ヒ雜木シ栽植セシメ一ハ以テ海
岸ノ潮風飛沙シ防キ一ハ以テ宮城山ノ山オロシ備シ名ケテ屏風山ト曰
フ同郡ノ野呂武左衛門原田某增田某等專ラ力シ栽植ニ盡ス因テ賞シ
テ士籍コ列ス爾後此ノ山木繁茂スルニ隨ヒ戸口増殖新田モ亦大コ興
リ天和ヨリ寶永ニ至ル二十年間開墾スル所ノ田圃八千三百餘町歩ノ
廣キニ達セリ天明六年ノ飢饉東國最モ甚シ當時地民爭フテ屏風山ノ
樹木シ伐採シ之シ販賣シテ稍流離ノ苦シ免ル然レトモ其ノ害田圃ニ
及ヒ再ヒ荒蕪ニ屬セントス藩廳更ニ保護法シ設ケ地民ニ令シテ増植
セシム是ヨリ先キ武左衛門等ノ子孫祖父ノ遺業シ繼キ栽植ニ怠ラズ
是ニ至テ益々奮勵衆人シ誘導シテ増植ニ從事ス爾來林相漸ク回復シ新
田モ亦隨テ増殖シ遂ニ國中著名ノ山林トナル明治十五年山林共進會
武左衛門等子孫ノ出品シ賞シ二等賞シ賜フ十五年山林共進會報告武鑑

百姓與次右衛門

心ヲ農事ニ用ヰ土性ヲ驗シテ位チ上中下三等ニ分チ水ノ輕重ヲ
考ヘ田苗作物ノ品質ヲ察ス土民ノ識ラサル所尙ホ能ク之ヲ辨ス嘗テ
一書ヲ著シ名ケテ會津農書ト云フ此ノ書民ヲ利スル掛ナカタズ元祿
二年領主賞シテ米ヲ賜フ孝義

百姓久五郎 百姓次郎左衛門

久五郎ハ奥州安積郡濱坪村ノ人ニシテ次郎左衛門ハ同國會津郡崎川
農事ヲ勵ミ
公益ヲ謀ル
村ノ人ナリ共ニ農事ヲ勉メ精勵衆ニ卓越ス人トナリ忠實ニシテ凡ソ
大石ノ田畠ニ横ハリ耕作ノ障害ヲ爲スモノアレハ其ノ地ノ自他ニ屬
スルヲ問ハス出捐シテ之ヲ除キ水害ノ爲メ川缺ヲ生スルトキハ之ヲ
修繕シ以テ後患ヲ防ク或ハ荒地ニ良土ヲ運搬シテ上田ト爲シ或ハ水

灌ヘ稻禾朽腐スル處アレハ已ノ田ヲ以テ之ニ替ヘ卑下ノ地ヲ耕耘シ
テ良田ト爲スモノ多シ又山林空地ノ存スルアレハ之ヲ開鑿シテ有用
ノ植物ヲ移植シ且水防ノ具ヲ備ヘテ之ヲ給ラサル者ニ貸與スル等其
ノ國費ヲ厭フノ情極メテ切ナルヲ以テ元祿三年領主ヨリ兩人ニ米ヲ
賜フ孝義

徳川光圀

光圀ハ水戸宰相頼房ノ第三子ナリ母ハ谷氏寛永五年六月十日ヲ以テ
水戸藩三木之次ノ家ニ生ル字ハ子龍小名千代松初字德亮又觀之ト曰
フ號ハ新齋一號ハ常山人或ハ率然子又梅里ト號ス水戸ノ藩主ナリ元
祿三年三月管下ニ命シテ疲癃殘疾貧困單弊八十以上ニ及ブノ民ヲ養
フ光圀謂ラク民ニ凍餒アラバ安ゾ人牧ヲ用ヰント故ニ豫メ雜穀ヲ
蓄ヘ歲歉ナレバ則チ其ノ餽寡孤獨老廢告グル無キ者ヲ賑濟シ歲々ニ
心ヲ民政ニ
用ヰ恩澤病
馬ニ及ア

雜穀ヲ給フ後世一々其ノ制ニ遵フ病馬アリ養フ能ハサル者ニハ蕷豆
チ給ス嘗テ城下ノ府庫災ニ罹ラバ則ナ士民皆困ムチ慮リ倉ナ側近村
里ニ設ケテ穀ヲ蓄フ又郡吏ノ秋稼ヲ檢スルチ罷メ各村ノ里長チシテ
自カラ之ヲ檢シ敢テ欺罔スル勿ラシム黎庶之ヲ便トシ家給シ人足ル
十月十四日仕ナ致シ明年五月居ナ久慈郡太田郷ノ西山ニ移シ自ラ西
山隱士ト稱ス榛莽ヲ闢キ山谷ニ依リ墻垣ヲ設ケス茅屋衝門侍臣僅ニ
數人多クハ老癃事ニ堪ヘサルモノチ取り婢妾纔ニ灑掃ヲ給ス粗食澣
衣居常晏如ナリ幕府ヨリ黃金綺帛ノ贈貽アレハ則チ親族侍臣ニ分給
ス絶エテ贏餘ナシ四序優游封内ヲ巡行シ孝子節婦ヲ賞シ民ニ教フル
ニ稼穡藝殖ノ法ナ以テス元祿十三年十二月六日黎明西山ニ薨ス年七
十三瑞龍山ニ葬ル光圓老ヒ且ツ病ムト雖ヘトモ出ヅル毎ニ歩セサレ
バ則チ馬ニ乗リ復タ轎ニ輿セズ或ハ飢チ忍ビ或ハ險チ涉リ單衣ヲ着
ケテ雨雪ヲ冒シ海舶ニ乘シテ風濤ニ觸ル深ク狃安ナ惡ミ身ヲ以テ之

ニ先ンズ元旦夙ニ朝服シ京都ヲ遙拜ス老ニ至ルモ廢セス大風大震アル
毎ニ書チ日光廟ニ馳セ使ナ増上寺ニ遣ハシ以テ靈殿ノ安否ヲ問フ
其ノ帝室ヲ尊ヒ祖宗ヲ敬スル推シテ知ルベシ藩士更番江戸ニ在ル者
父母兄弟妻子疾テ且ニ死セントスルトキハ暇ヲ賜フテ家ニ還リ養ヒ
視セシム藥局ヲ邸第ニ設ケ醫ナシナ之ヲ掌ラシメ病アリ藥ヲ得ント
欲スルモノニハ皆之ヲ給ス又僻遠ノ窮民醫藥ニ乏ク往々斃ル者アル
チ憫ミ侍醫ニ命シテ單方ヲ集メテ民間ニ頒行セシム嚴ニ府下ノ奢靡
チ禁シ最モ心ナ民事ニ盡ス老ヲ告ケルト雖ヘトモ封内ヲ巡行シテ疾
苦ヲ問ヒ冤枉ヲ察ス國其ノ澤ヲ被フル嘗テ漆楮ヲ閑曠ノ地ニ植エ
以テ紙蠟ノ利ニ廣メ牧ナ大野原ニ開キ駒馬ヲ蕃息ス禽獸草木ノ凡ソ
國家ニ利スベクシテ東方未タ有ラザルモノハ飼養栽培シ必ス繁殖チ
期ス而シテ草木ノ風土ヲ擇ブモノハ之ヲ伊豆駿河安房ニ植ウ其ノ言
ニ曰ハク我ノ爲メニスルニアラズ以テ人ナ利スルナリ今日ノ爲メニ

スルニアラズ以テ將來ナ冀フナリト常陸ニ文蛤シラフネ小ナシ營テ之ヲ磯濱潮來湖ニ放ツ年ナ積テ滋息シ民其ノ利ニ賴ル昆布ハ唯松前ニ出ツ光園乃チ石チ松前ノ海ニ取り之チ大津濱ニ移ス是ヨリ濱昆布ナ出ス最モ紙工ノ艱難チ憫ミ片紙ト雖ヘトモ浪費セス又工ニ命シ木槿三叉柳竹麥稈ヲ採リ紙ヲ造ラシム麥光紙最モ行ハル下總小金鎌ヶ谷ノ驛路原野渺遠人或ハ路ヲ失ス光園爲メニ松チ栽エ路ヲ標ス行旅賴テ以テ迷ハズト云フ常山文集附錄、愛國偉績

宮崎安貞

安貞通稱文太夫安藝ノ國廣島藩士宮崎儀右衛門ノ二男ナリ元和九年廣島ニ生ル年二十五出テ筑前國ニ到リ福岡ノ藩主黒田忠之ニ仕ヘ祿二百石ヲ食ム後故アリ暇ヲ乞テ去ル貞享年中再ヒ出テ仕ヘ切扶持ヲ賜諸國ヲ巡遊フ是ヨリ先キ安貞諸國ヲ巡遊シ遍ク老農老圃ヲ訪ヒ種藝ノ法ヲ究メ

シテ種藝法ヲ究メ私產ヲ拠サテ開墾ニ從事シ農書ヲ著シテ國家ニ利益メ

大ニ得ル所アリ歸國村居四十年自ラ心力ヲ盡シ手足ヲ勞シ農業ニ從事シ村民ヲ誘導シ殖産興業ヲ務メ其ノ成績見ル可キモノ多シ筑前志摩郡女原村及ヒ怡土郡德永村並ニ東開西開ト稱スルモノアリ皆安貞ノ開墾ニ係リ私產ヲ拠チ庶民ヲ誘ヒ以テ之ヲ致スト云フ元祿九年農業全書十卷ヲ著シ耕種牧畜ノ方法ヲ詳述ス友人具原樂軒之ヲ刪補シ樂軒ノ弟篤信之ヲ評シテ曰ハク此ノ書ノ本邦ニ於ケルヤ古來絶テ無クシテ今始メテ在ルモノナリ後世必ス之ニ繼クモノアラン然レトモ此ノ書實ニ農書ノ權輿ナリト此ノ書ノ刻ナルヤ大阪ノ書肆荻木某一本ヲ水戸ノ藩主徳川光圀ニ獻ス光圀之ヲ觀テ曰ハク是民間一日モ缺クヘカラサル書ナリト儒臣佐々宗淳ハ嘗テ樂軒ト友善故ニ文ヲ草シテ之ニ報セシムト云フ安貞夙ニ經濟ニ長シ農業ニ通シ其ノ人ト爲リ謙遜重義毫モ才能ニ誇ラス利人濟物ノ心極メテ厚シ元祿十年七月二十三日病歿ス享年七十五志摩郡女原村地内小松原ニ葬ル安貞カ庶民

チ誘導シテ開墾セシ段別ハ四町四段八畝歩ニシテ其孫吉太夫ノ代ニ至リ該開墾地内田一町九段十八步畠四畝七步ヲ藩主ヨリ下付セラル因テ近村ノ人民ハ該開墾地ヲ稱シテ宮崎開ト曰フ又往時女原村及ヒ谷村ノ地内字草荻字小松原ト稱ス荒蕪地ニ竹木等ヲ栽植シ一ノ森林ト爲セシモ皆安貞ノ與テ力アルモノナリト云フ農業全書、十竹島縣友會誌、福岡縣上申書

百姓藤右衛門

農事ヲ助ニ
公益ヲ謀ル

藤右衛門ハ奥州耶麻郡都澤村ノ人ナリ父モ亦藤右衛門ト稱ス父心ヲ生業ニ盡シ能ク其ノ子ヲ教ユ子モ亦精勵農事ヲ務メ上ヲ敬シ親族ニ親シニ鄰保ト和睦ス性尤モ忠實ナリ都澤ノ地卑クシテ稻田高地ニ接スル處冷水湧下シ稻實宜ナ失ヒ頻年稔ラス米質モ亦他田ニ劣ル藤右衛門之ヲ慨シ地ヲ鑿テ水ヲ排シ土ヲ運ヒテ之ヲ補ヒ經營大ニ勉ム是

ニ於テ荒地變シテ良田ト成リ秋實宜キナ得タリ爾後之ヲ村民ニ教ヘ遂ニ一村ニ及ボス當時郡奉行此ノ地ヲ巡見シ田面ノ舊ニ異ルヲ見恆ミテ之ヲ鄉頭ニ質ス鄉頭答テ曰ク當村藤右衛門ト云フ者アリ能ク此ノ事ヲ成ス肝煎ヲ始メ一村ノ者其ノ教ヲ受ケ秋實爲メニ宜キナ得タリト郡奉行稱歎措カス定貢ヲ減シテ尙ホ之ヲ獎勵ス舉村益屬精シ藤右衛門ヲ師トシ毎歲肥土ヲ運移シ冷水ヲ排泄ス互ニ後先ヲ爭フ土質肥豐遂ニ他村ニ勝ルニ至ル藤右衛門又馬ヲ養フニ精シ年毎ニ良馬ヲ飼養シ小荷駄ノ料ニ乏シカラス領主ノ厩中藤右衛門ノ馬ヲ見ルト云フ元祿十二年領主米ヲ賜フテ其ノ功ヲ稱ス錄義

櫻井孫兵衛

孫兵衛姓ハ源諱ハ政能甲府ノ代官ナリ笛吹川瀬高トナリ河尻壅塞ヲ平常水患ヲ被フルモノ凡ソ十村就中蓬澤西高橋ノ二村尤甚シトス

積年ノ水患
ヲ除キ廢田
ヲ復興ス

田園過半沼淵トナリ鯉魚多ク生ス元祿七年徳川家宣當國ノ領主タリ
シ時孫兵衛居民ノ患ヲ視ルニ忍ヒス努力シテ濬治ノ計畫ヲ爲シ翌年
其ノ事ヲ上言ス九年裁可シ政能ハ山口官兵衛ニ命シテ西高橋村ヨリ
南方笛吹川ノ堤後ニ傍テ増坪上村西油川落合小曲西下條村境ニ至ル
マテ新ニ渠道ヲ通シ土堤ヲ築クコト凡二千百五十間廣四五間ヨリ六
七間ニシテ濁川ヲ導カシム渟水一旦ニ泄レテ田圃舊ニ復ス民其ノ洪
恩ヲ感戴シ乃政能ノ祠ヲ立テ之ヲ祀リ今ニ至ルマテ每歲怠ルコト無
シ元文三年孟秋從子齋藤六左衛門正辰祇役ノ時此ニ到リ石ヲ祠前ニ
立テ地鎮ノ銘ヲ勒スト云フ有功傳料

山口官兵衛

官兵衛姓ハ源名ハ信章字ハ子普一字公商ト曰フ其ノ先甲斐ノ歎來石
村山口ニ家ス因テ氏トス後移テ甲府魚町ニ居ル家頗ル富ム時人山口

笛吹川水患
ヲ除ク

殿ト稱ス信章寛永十九年五月五日生ル童名重五郎長シテ市右衛門ト
更ム蓋家名ナリ少小ヨリ四方ノ志アリ屢江戸ニ往還シ俳諧ヲ好ミ遂
ニ舍弟某ニ家産ヲ授與シ襲テ市右衛門ト稱セシメ自ラ名ヲ官兵衛ト
改ム時ニ甲府代官櫻井政能克ク其ノ能ヲ知リ舉テ僚屬ト爲ス居ルコ
ト數年致仕シテ江戸ニ出テ東嶽山下ニ寓シ又家ヲ葛飾郡河武ニ遷ス
更ニ素堂ト號セリ元祿八年素堂年五十四郷ニ歸リ父母ノ墓ヲ拜シ且
櫻井政能ニ見ニ政能素堂ノ到ルヲ喜ヒ之ヲ留メ語ルニ濁川ノ事ヲ以
テ斯歎息シテ曰ハク濁川ハ府下汚流ノ聚ル所頻年笛吹川瀕高ニナリ
下水ノ塞ル故ニ以テ濁川ノ水山梨ノ中郡ニ滞滯シテ行カス水災ヲ被
フルモノ十村ナリ中ニ就キ蓬澤西高橋ノ二村最卑地ニシテ田畠多ク
沼淵トナル雨降レハ田苗腐敗シテ收稼毎ニ十ノ七八ヲ失フ前ニ沒居
スル者數十戸既ニ板垣村新善光寺ノ山下ニ移レリ餘民今猶堪ヘサラ
ントス政能屢之ヲ聞キ上言スレトモ言未聴カレス夫レ郡ヲ治メ民患

チ觀テ之ヲ救フコト能ハス吾レ官チ樂テ去ラントス然レトモ一タヒ閑老ニ謁シ事由ヲ具陳シ可否ヲ決スヘシ望ミ請フ足下姑ク此ニ縛サレテ補助アランコトヲ素堂答テ曰ハク人ハ是レ天地ノ役物可チ觀レハ則チ進ム固ヨリ其ノ分ノミ况ヤ又父母ノ國チヤ友人桃青モ義ニ藤堂家ノ命ヲ奉シ江戸小石川關口水道ノ爲メニ盡力セシコアリ僕謹テ承諾ス令公宜ク之ヲ勉ムベシ政能大ニ喜テ晨ニ駕ヲ命ス十村ノ民庶啼泣シテ其ノ行ヲ送ル政能顧テ之ニ謂テ曰ハク吾思フ所アリテ江戸ニ至リ直ニ訴ヘントス事就ラサル時ハ汝ノ輩ヲ見ル今日ニ限ルヘシ必ス官兵衛ノ指揮ニ乖クコトナカレト素堂薙髮ノマハ雙刀ヲ挾ミ再ヒ官兵衛ト稱ス幾モナクシテ政能許狀ヲ帶ヒ江戸ヨリ還ル村民ノ歡ヒ知ルベシ官兵衛嘗テ計算ニ精シ夙夜勤勉濁川ヲ濬治ス高橋村ヨリ落合村ニ至ル堤ヲ築クコト二千一百五十間濁川ヲ導テ笛吹川ノ下流ニ會注ス惡水忽チ疏通シ沼淵涸レ稼穡繁茂シテ民窮患ヲ免ル以前他ニ谷嚴淨院ニ移セリ農事有

種子島久基

奔ル者皆舊戸ニ復シ祖考ノ墓ヲ修スルコトヲ得タリ人民ハ生祠ヲ蓬澤村ニ建テ、櫻井明神山口靈神ト稱シ歲時祭祀シテ怠ルコト無ク其ノ恩ニ報ヒ其ノ堤ヲ名ケテ山口堤ト云フ素堂其ノ事ヲ畢リ去テ萬飾郡ノ草庵ニ還リ門人大ニ進ミ正風俳諧ノ名ヲ成セリ享保元年八月十五日逝ス歳七十五谷中感應寺ニ葬ル寺廢シテ後其ノ墓ハ小石川指ヶ谷嚴淨院ニ移セリ農事有

意ヲ物産ニ
留メ始メテ
甘諸ヲ移植
シ遂ニ諸國

チ贈ル久基室老西村權右衛門時乘ニ命シ之ヲ采邑石寺野ニ植エシム
其ノ種子ヲ頒テ部内ニ布殖シ爾後薩隅日各地ニ傳播シ庶民ノ常食ト
ナリ始メテ饑餓ノ患ヲ免ルト云フ累遷シテ國老ト爲リ政化ヲ更張シ
制度一新紀綱大ニ張ル當時新納久了モ亦機務ニ關シ并ニ賢宰ノ名ア
リ嘗テ郡奉行某國分某ノ地ヲ開墾シ民利ヲ興サント欲シ藩主ニ稟白
スル數回然レトモ灌溉便ナラサルヲ以テ之ヲ危懼シ敢テ決スル能ハ
ス久基慨然奮勵シ該地ニ蒞ミ其ノ地形水利ヲ察シ郡奉行某ト議シ遂
ニ藩主ニ稟承シ大ニ役ヲ與シ數年ヲ經テ數百頃ノ新田功竣ヲ告ク是
ニ於テ國人久基ノ明毅雄斷ニ服ス今ニ至ルマテ該地ノ民其ノ徳ヲ戴
クト云フ其ノ他政績見ルベキモノ甚シトセス元文元年老ヲ告ケ致仕
ス藩主繼豐積年ノ勳勞ヲ嘉賞シ寶刀一口ヲ賜ヒ世子吉尊モ亦時衣一
領ヲ賜フ後退隱シテ栖林ト號ス寛保元年七月十六日没ス享年七十八
先塋ノ次ニ葬ル文久三年二月別廟ヲ本源寺射圃ノ故址ニ創建シ栖林

大權現ト稱ス是ヨリ先種子島久尙ノ祖母島津氏久基ノ功德大ニシテ
遺澤民ニ存スルヲ歎仰シ室老某ト謀リ此ノ舉アリ後明治ノ初年廢佛
ノ令下ルニ及テ久尙祖先ノ靈ヲ其ノ別廟ニ合祀シ赤尾木神社ト改稱
ス春秋祭祀ノ典皆舊貫ニ仍ル爾來島民甘諸ニ災害アレハ祠廟ニ禱禳
シ甘諸熟スレハ必ス先ツ數顆ヲ賽獻シ而シテ後之ヲ喫ス是其ノ本ニ
報ユル所以ナリ種子島久基小傳久

因ニ記ス成形圖說ニ甘諸ノ傳來ヲ記シテ曰ハク沖繩島ニハ儀間親
雲上ガ西土ヘ渡リシ時福建ヨリ持歸テ種ニ廣メシトイフ其ノ後元
祿十一年中山王ヨリ甘諸一籠ヲ種子島久基ニ贈リシカハ室老西村
時乗ニ命シテ熊毛郡種子島ノ石寺野ニ種初メシコトハ其ノ家乘ニ
載タリ又薩摩國頸娃郡山川ノ郷兒水ニ利右衛門ト云フ者アリ寶永
二年乙酉ノ年沖繩ヨリ持ナ來リテ植エタリト云ヒ今尙山川ノ者利
右衛門ヲ德トセリ

大瀬休左衛門

始メテ甘諸
ヲ栽培ス

休左衛門ハ薩摩國種子島西之表村下石寺ノ人ナリ製鹽チ業トシ兼テ農業ヲ務ム人ト爲リ誠慤勤儉里中ノ望ト爲ル知遇チ邑主種子島久基ニ受ケ鹿兒島ノ邸ニ出入ス寵眷優渥短刀一口ト休左衛門夫妻壽藏碑石一基ヲ贈ラル久基島津氏ニ仕ヘ番頭ト爲リ兼テ琉球ノ事ヲ管ス會掌ラシム時乘乃休左衛門ヲシテ之ヲ植エシム是ヲ甘諸栽培ノ權輿ト爲ス實ニ元祿十二年某月ナリ是ノ時ニ當テ栽培ノ方ヲ知ル者ナシ休左衛門里中膏腴ノ地ヲ擇テ之ヲ植エ冀培殊ニ巧妙數月枝葉繁茂殆ト數武ノ間ニ蔓延ス休左衛門獨其ノ結實セサルチ怪ミ竊ニ意フ其ノ根ニ實アラント試ミニ其ノ蔓ヲ剪テ以テ之ヲ土中ニ播ミ又數月之ヲ堀ル果シテ數顆ヲ得タリ堅クシテ實シ瓜ニ類シテ小之ヲ食ヘハ甘美ナル

リ休左衛門大ニ喜ヒ取テ以テ獻ス久基欣然トシテ曰ハク是アル哉其ノ功用必ス稻梁ニ亞クモノナリ之ヲ獲^カノ蚤カラサルチ憾ムルノミ宜シク蕃殖以テ民食ヲ助クヘシ汝其レ之ヲ勉ヨト休左衛門拜謝シテ出ツ其ノ明年之ヲ植ル故ノ如シ其ノ熟スルチ俟テ之ヲ收メ之ヲ苞ニ盛ル苞若干ヲ得タリ久基乃其ノ種ヲ頒チ徧ク邑内ニ植エシム爾後民食給足シ絶ヘテ菜色ノ者ナキハ甘諸ノ功多キニ居ル後數年薩隅日諸州ニ傳播シ延テ上國ニ及フ今薩摩芋ト稱スルモノ是ナリ甘諸ノ我邦ナリ休左衛門元和七年辛酉某月某日ヲ以テ生レ元祿十三年庚辰四月十三日歿ス享年八十西之表村下石寺ニ葬ル一男アリ休右衛門ト曰フ世下石寺ニ居ル六世兵之進ナル者ニ至テ居チ川迎ニ徙ルト云フ大瀬休左衛門

椋梨權左衛門

權左衛門ハ長門國厚狹郡川上村ノ人ナリ元祿中該地方廣澤荒野多キ
 チ慨キ開拓ニ從事スルコト殆ト十年其ノ間水草ヲ刈リ廢澤ヲ埋メ荆
 棍ヲ伐リ荒野ヲ拓キ水ノ送巡シテ流レサルモノハ之ヲ疏通シ阜ノ高
 荒蕪ヲ開拓シ田産ヲ増殖ス
 申村鶴ノ島ヲ堅成シ田七十町歩ヲ得十四年更ニ吉敷郡床波浦ノ地ヲ
 開作シ田五町歩ヲ得又蛇瀬常盤ノ地形ヲトシ堤防ヲ築キ溝渠ヲ堀リ
 大池ヲ造テ以テ灌溉ノ用ニ充ツ蛇瀬水面四町三段常盤水面九十五町
 ニシテ田凡ソ四百町ヲ潤スト云フ而シテ後農民ヲ開拓地ニ移シ資ヲ
 與ヘテ稼穡ノ業ニ就カシム是ヨリ所在人家羅列シ漠々タル稻田四百
 餘町歩ニ涉リ後人永ク其ノ收獲ヲ受クト云フ功傳有

貝原篤信

篤信字ハ子誠初メ柔齋ト號シ後損軒又ハ益軒ト號ス筑前ノ人世福岡
 藩ニ仕フ篤信幼ニシテ警敏讀書口ヲ過クレハ誦ヲ成ス十四歳醫書ヲ
 讀ミ略薬方ニ通ス明暦中藩命ヲ奉シ京都ニ遊ヒ松永尺五、山崎間齋、木
 下順菴等ニ從テ學ヒ日夜刻苦遂ニ博覽篤學ヲ以テ著ハル篤信人ト爲
 リ和ニシテ流レス事ニ遇ヘハ闇々辨論ス嘗テ執政ノ坐ニ在リ某祠ノ
 二祝爭訟ノ事ヲ論スルニ會フ執政素ヨリ一祝某ニ善シ篤信云ハク曲
 某ニ在リ主ガ善ミスル所ト雖ヘトモ神必ス享ケサルナリト聞ク者嘆
 服ス一日篤信城ニ入ル塾生鄰家ノ藩士懶從ト力ヲ園中ニ角ヒ誤テ愛
 スル所ノ牡丹ヲ折ル怒ラレンコトヲ惧レ鄰家ノ主人ニ就テ罪ヲ謝ス
 篤信笑テ曰ハク僕牡丹ヲ種ウルハ樂マント欲スルナリ豈ニ怒ル事ヲ
 欲セソヤト人其ノ量ニ服ス天和元年春食邑饑ウ篤信倉ヲ發シテ之ヲ
 賑ハス是歲自警編ヲ著ス篤信學和漢ニ通シ旁ヲ物產ヲ嗜ム而シテ救
 世ノ心實ニ切ナリ著書百餘種多ク書スルニ國字ヲ以テシ語極ノテ恐

切皆世用ニ益アリ其ノ大和本草、花譜、諸菜譜等物産諸書ノ如キハ緒餘ニ出ツルト雖ヘトモ亦農稼種藝ノ業ニ資益アル少ナカラス嘗テ本邦農書ナキチ慨キ清國ノ農書ヲ纂譯シ以テ農家ニ示サント欲ス未タ果サス會、宮崎安貞農業全書ヲ著シ校訂チ篤信ノ兄樂軒ニ請ヒ序チ篤信多ク物産ノ書ナ著シ後世ヲ裨益ス

ニ求ム篤信乃チ其ノ舉チ嘉ミシ書シテ與ヘ纂譯ノ事ヲ停ムト云フ晩年用財記ヲ著シ以テ其ノ子ニ訓ヘテ曰ハク某三君ニ歴事ス凡ソ四十餘年東都ニ役スルモノ十二京都ニ遊フモノ二十四長崎ニ行クモノ五諸州及ヒ封内ヲ周遊スルモノ勝テ數フ可カラス耗費知ルヘシ而シテ未タ嘗テ人ノ助チ受ケス此皆某平生節儉他ノ嗜好ナキノ致ス所ナリ汝等宜シク深思スヘシト又曰ハク某稟氣薄弱常ニ天札ヲ免レス嘗テ古今ノ言養生ニ資スルモノ數百條ヲ抄出シ以テ自ラ攝ス其ノ耆艾ノ壽ヲ保ツチ得ル所以ノモノ此アルノミト正徳四年八月疾チ以テ家ニ歿ス年八十五學士會余話、東京

故老傳說ニ曰ハク元祿十三年老ヲ告ケ職ヲ辭スト雖ヘトモ藩主ノ寵遇ヲ得尙封祿ヲ賜ハル其ノ讀書ノ處ニ室アリ一チ益軒一チ損軒ト云フ

陶山庄左衛門

庄左衛門名ハ存小字ハ五一郎訥庵ト號ス對馬ノ藩士也其ノ先ハ伊豫ノ人也父玄育初メ儒學ヲ以テ該藩ニ登仕ス俸給若干ヲ賜フ尋テ馬廻ニ進ミ祿百石ヲ食ス母ハ堀田氏二子アリ長ハ庄右衛門次ハ重右衛門ナリ庄右衛門明暦三年十一月廿八日對馬城下ニ生ル幼ニシテ高謙アリ忠孝誠實天性ニ出ツ寛文中京都及ヒ江戸ニ遊學シ業ヲ木下貞幹ニ受ク三年ニシテ歸ル復京都ニ遊フ偶奈良ニ心理學者アルヲ聞キ往テ之ヲ訪ヒ益ヲ得テ歸ル延寶三年歲十八始メテ仕ヘ京師ニ適ク三年ニシテ歸ル同七年藩主ニ從ヒ江戸ニ適ク同八年父玄育致仕シ命シテ家心ヲ農政ニ用井郡民ヲ救濟シ食用ヲ周給シ晚

年書ナ著シ
テ農事ナ論
ス

チ嗣カシム朝鮮ニ使スル五回是ヨリ先キ同二年朝鮮ノ信使東武ニ來ル
庄右衛門儒臣ヲ以テ兩森芳洲ト共ニ幹事タリ元祿三年上請シテ儒チ
業トスルヲ免ス同八年朝鮮ニ使シ既ニシテ歸リ又江戸ニ適ク同十一
年朝鮮支配佐役ト爲ル同九月對馬ノ所管肥前國基肆養父兩郡ノ地筑
後久留米ト唯一水界ヲ接シタルヲ以テ兩境ノ民爭端紛起シ積年平カ
ナラズ乃チ庄右衛門ヲ遣リテ之ヲ解カシム同十二年終ニ使命ヲ全フシ
テ歸ル時ニ祿五十石ヲ増給ス同三月選ハレテ郡奉行ト爲ル時ニ年四
十三是ヨリ先キ國內猪害甚ク農民之ヲ若ム庄右衛門年十五六夙ニ猪ヲ
殲シ民ヲ濟フノ志アリ爾後精思焦慮是ニ至リ同僚平田類右衛門喬信
ト建議シテ事ヲ舉ク全島分テ九區ト爲シ毎區ニ一大儲骨ヲ作り嶺ニ
走セ谷ヲ絶ナ東西聯峙セリ又格柵ヲ作り縱横交互秤ノ如シ毎年十一
月ヨリ翌年二月ニ至ルヲ期トシ各郷ノ人民ヲシテ交相幫獵シ計畫遺
策ナク州ノ北極豊崎ヨリ南極豆酸ニ至ル忍耐從事茲ニ十年猪鹿子遺

ナク被害全ク息ミ五穀始メテ大ニ熟ス民家食アリ農民謡歌シ碑ヲ建
テ永ク其ノ徳ヲ頌ス時ニ幕府殺生禁斷ノ令ヲ下ス人或ハ之ヲ難ス同
僚平田喬信ト固ク執テ動カズ議竟ニ奪フ能ハス令ヲ下スノ初メ國人
各一鳥銃ヲ藏シ惟猪ヲ殲スニ急トシ旁ヲ邊警ニ備フ是レ猪害ノ全ク
息テ武備ノ廢弛セソコトヲ恐ル、テ以テナリ乃チ鄉人ノ爲メニ練銃法
ヲ立ツ規模嚴密節制頗ル明カナリ寶永ノ初メ又建言シテ銃匠ヲ和泉
ニ遣リ製銃ノ術ヲ傳習セシム後塙ヲ城東ニ設ケ製銃修理ノ事ニ膺テ
シム是ニ於テ各郷ノ農戸皆鳥銃アリ無事ニハ之ヲ收獵ニ用ヰ急アレ
ハ之ヲ邊備ニ充ツ國人大ニ之ヲ便トス又正租ヲ買ヒ郷庫ニ藏メ以テ
荒歲救治ノ資ト爲ス歲豐ナレハ其ノ餘裕ヲ以テ凶歉ヲ禦クニ充ツ又
郷中社祭ニアラザレハ酒ヲ釀スコトヲ許サス冠婚祭賽造房船却等ノ
事ト雖ヘトモ郡廳ノ許可ヲ受クルニ非レハ亦酒ヲ城市ニ沽フコトヲ
許サズ里正燒酒ヲ釀造シ病アル者穀ヲ以テ量貿スルコトヲ許ス又先

世府城ノ口數大約六千有餘他國遷徒ノ人戸チ合セテ無慮一萬四千五百戸而シテ我土產郷邑チ除クノ外僅ニ二千人チ活スノミ今ニシテ戸口チ減セサレハ數十年ノ後國用日ニ窮シ上下ノ憂苦スル必セリ是ニ於テ寶永三年命シテ客戸勘查ノ事チ掌ラシム名ケテ旅人吟味役ト曰フ未タ幾ナラス事多ク抵牾シ法制屢變ス之ヲ行フ二十四年減スル所三千百九十五口又廬チ城南ニ設ケ老癃告クルナキ者チ收養シ人毎ニ衣食チ給シ流離顛沛ノ憂ナカラシム名ケテ窮民廬ト曰フ其ノ他民チ濟フノ法今ニ至テ人其ノ徳ニ賴ル者枚舉ニ堪ヘス十年政行ハレ民化ス闊境幾ト靜寧チ致ス同五年用人ト爲ル三月ニシテ罷ム是ヨリ閉戸深坐著書自ラ娛ム同六年旅人吟味役ヲ罷ム賞スルニ紗綾三巻ヲ以テス同七年巡檢使至ル命シテ郡奉行ヲ復シ以テ應對ニ備フ正徳四年老チ告グ許サス同五年肥前ノ田代ニ在リ文書ヲ幹ス夙夜解ラス起草シテ呈上ス藩主深ク忠誠ヲ感ス特ニ米十苞ヲ賜フ享保五年九月世子傳

ノ相談役ト爲ル同八年告新錄ヲ上ル力メテ農政ヲ論ス其ノ要關田築圃、藝樹育諸ニアリ國老其ノ法ヲ嘉シ分チテ各郷ニ令シ先シ甘諸ヲ育セント欲シ老農原田三郎右衛門ナル者ヲ薩摩ニ遣リ種ヲ需メ且培養法ヲ傳習セシム初メテ之ヲ試植シ爾來無二ノ食料トス同九年九月致仕ス時ニ年六十八命シテ曰ハク平生多病齡七十二及フ今ヨリ宜ク閑ニ就キ老ヲ養フヘシト是ヨリ以來羸憊益甚シ日ニ床幕ニ在リ知ルコトアレハ則ナ言ヒ問フコトアレハ則ナ對フ忠貞惱到始終一ノ如シ藩主益之ヲ感ス又特ニ米十五苞ヲ賜フ同十七年壬子六月廿四日病テ歿ス享年七十六易簣ノ前十日顯襟司著ス所ノ増田開地記ヲ讀ミ海島孤立食ナ他國ニ仰クニ至リ深ク之ヲ悲ミ乃文ヲ作り自ラ悼ム世其ノ忠チ感ス常ニ譯立方ガ言ヲ誦シ食テ外國ニ仰ギ以テ性命ヲ保ツノ義タルチ知ル者ハ寧ロ是ナセ是ヨリ終身韓國ノ糶米ヲ食ハス唯菽麥海菜ヲ以テ食トス常ニ韓糶ヲ食フ者チ斥ケ曰ハク義彼ノ民ニ同シ故ニ

身ヲ以テ之ニ先チ推シテ以テ人ニ及ボサント欲スト平田氏ヲ娶リ子ナシ甥守正ヲ以テ嗣トス守正字大助後チ庄右衛門ト稱ス夫レ庄右衛門ノ學ハ道ヲ明ニスルヲ以テ本トシ心ヲ治ムルヲ要トス理事輕重參酌シ其ノ宜キニ處ス政ヲナス人情ニ本ツキ物理ヲ察スルニハ必ス齊民ヲ先トシ制度文爲ノ末ニ拘ハラス故ニ其ノ法悉ク行ハレスト雖ヘトモ民之ニ安ス歿後土人祠ヲ立テ之ヲ祀リ成功明神ト尊稱ス其ノ著述ノ書ハ津島紀略二冊、老農類語二冊、農政問答、土穀談、同附錄附記、甘藷說、水利問批續、增田開地記、鄉村農事錄、同附說財用說、民事記聞、食足談、木庭作御停止答判覺書、伊奈鄉農事錄、刈麥談、受益談、受益談節要、各一冊等ノ十餘部アリト云フ 農事有功傳

市川正好

正好通稱甚左衛門世尾張ノ名古屋藩ニ仕ヘ祿三百石ヲ食ム正好人ト

ナリ忠純ニシテ吏事ニ通ス寶永享保ノ間木曾ニ奉行タリ林務ノ闕漏多キヲ嘆シ慨然舊制ヲ改正ス其ノ遠圖規畫後ノ法ヲ爲ス而シテ此ノ舉ハ木曾森林中興ノ偉業ナリ後數職ヲ經勤務六十八年老ニ及テ致仕ス尋テ歿ス壽八十三實ニ實曆七年丁巳四月ナリ夫レ木曾森林ハ本邦樹木ノ財帑ナリ往時鎌倉ノ時早ク己ニ制アリ元和元年徳川家康其ノ子尾張ノ義直ニシテ木曾ヲ領セシム是ヨリ先代官山村勘兵衛ナルモノアリ家康素木五千駄ヲ甚兵衛ニ與ヘ村民ニ六千駄ヲ與フ蓋シ鎌倉ノ遣制ヲ逐フナリ後山村氏尾藩ノ附庸トナル此ノ時ニ當テ始メテ木曾奉行ヲ置ク寶永年間正好職ニ當ルニ及テ年貢木ノ制ヲ廢シ素木ノ製出スチ停メ巣山留山五木ノ禁ヲ設ケ輪伐ノ業ヲ與シ全土ノ石高ヲ檢シ墾荒ノ度ヲ定メ森林ヲ區畫シ伐用ヲ許シ民用ヲ辨セシム此ノ時制度一變頗ル民情ニ違フ正好省ミス断シテ之ヲ行フ藩モ亦令ニ背ク者ハ處スルニ刑典ヲ以テセリ夫レ正好出ツルニ非レハ木曾森林ハ争

テカ今日ノ繁盛ヲ見ルコトヲ得ン正好人ノ言ハサル時ニ在テ之ヲ言ヒ人ノ慮ラサル時ニ出テ之ヲ慮ル國家經濟ノ遠圖其ノ功績得テ知ルヘキナリ市川正

市川正好ハ明治十五年ノ山林共進會ニ一等賞ヲ賜フ當時ノ出品者市川正忠ノ申告書ニ據レハ岐蘇山ハ曆應年間ヨリ木曾家世ノ所領ナルニ豊臣氏ノ代ニ至リ蘇山ノ良材ヲ稱スル者アルニ由テ秀吉乃木曾義昌ノ封ヲ下總ノ網戸ニ移シ犬山城主石川備前ヲシテ之ヲ支配セシム其ノ後關ヶ原ノ役起ルヤ木曾家ノ舊臣山村甚兵衛關東ニ乞フテ西軍ヲ討ツ木曾口ノ進撃ヲ命セラル將ニ發セントス木曾ノ人民覃食壺漿シテ迎フ熱川ノ砦守ヲ棄テ走ル犬山ノ城主之ヲ聞テ又走ル事平クニ及テ功ヲ以テ山村甚兵衛ニ賜フニ木曾ヲ以テス固辭ス乃チ一萬六千二百石ヲ美濃ニ賜ヒ木曾ノ代官ヲシム命シテ曰ハク蘇山木材ノ事一一石川備前ノ制ニ從フ可シト且毎年板子數千

枚ヲ甚兵衛ニ賜フ之ヲ御免木ト稱大元和年中尾張ノ義直ニ屬セラル而シテ義直甚兵衛ヲシテ代官ヲラシムコト故ノ如シ徳川氏ノ中世木曾ノ人民法ヲ犯ス者多シ之ニ因テ享保年中山村甚兵衛ノ職務ヲ解キ市川甚左衛門ヲシテ之ヲ兼シム爰ニ於テ木曾山ヲ三ツニ區分ス即チ留山巣山明山是ナリ只明山ハ五種ノ伐木ヲ禁シ其ノ餘チ人民ノ自由ニ任ス加之板子ノ種ヲ更メ米粟ニ換フ其ノ他改良スル處多シ後六年甚兵衛ノ職ヲ復セラルモ山林監ハ甚左衛門ノ司ル所トナリ爾來樹木ノ發育ニ盡力シ斧斤ハ時ヲ以テ入レ山林ノ管轄規則及ヒ犯伐ノ處置法ヲ立ツ蓋シ木曾山ノ良材無盡ノ法ヲ得タルモノハ甚左衛門ノ功ナリト云フ

佐藤信景

信景字ハ元伯不味軒ト號ス出羽國雄勝郡西馬音内村人ナリ其ノ先ハ

采地アリ慶長五年ノ亂ニ采地ヲ失ヒ代々醫ニ以テ業トス不味軒ニ至
リ饑饉屢臻リ萬民流散シ餓莩甚タ多キテ觀窮ニ歎息シテ曰ハク醫ノ
心ナ救濟ニ傾ケ農政物産ノ學ヲ開ク
志シ先ツ農政ヲ精クシ產物ヲ開キ百工ヲ起シ製造ヲ巧ヨスルノ諸法
ヲ明ニセント欲シ遍ク諸國ヲ歷遊シテ高名大家ノ門ヲ訪ヒ其ノ他老
農老圃ヲ始メ石工、玉師、坑戸、礦夫、窯戸、瓦匠、漁夫、罟師、楮戸、織匠、染屋、鑪戸、
鍛冶、銅匠、柾人、鋸匠、鐵工、漆匠、泥匠、棬胎匠、釀家、菓匠、鹽丁等迄ニ詢ヒ謀リ
各其ノ業ノ實理ヲ講究シ又深山幽谷ヲ潛行シ江湖河海ヲ跋涉シ金穴
ヲ探リ玉井ニ入り刻苦研究スルコト四十餘年足跡殆ト天下ニ遍シ享
保十八年出羽ノ國秋田郡阿仁ノ銅山ニ卒セリ曾テ著ス所ノ開國新書十
二卷山相秘錄二卷アリ所謂開國新書ハ即テ經濟ノ要旨開物ノ蘊奥ヲ
説キタルモノニシテ家學ノ基本ナリ其ノ大意ヲ約シテ言シニ荒曠タ

ル國土ヲ新ニ開發シテ物產ヲ採出シ境内ヲ富寶スルノ論ニシテ蝦夷
國ヲ開拓スルノ最良策タリ山海ヲ經緯シ度數ヲ測量シテ經界ヲ分明
ニスヘキノ術ヲ説クコト甚タ精詳ナリ又山相秘錄ハ金、銀、銅、鐵、錫、鉛、朱
砂、水銀、及ヒ美玉、寶石、扁青、綠青、硫黃、明礬等ノ出ル山ノ相法ヲ説キ金山
銀山ヲ始メ種々鑛物ヲ含藏スル山形ヨリ土石ノ色相ト性質トヲ觀テ
乃チ其ノ何物ヲ含有スルコトヲ知リ且其ノ諸金ノ苗ヲ索ルノ法ヨリ鑛
脈ノ連續スル條理ヲ探ルノ諸法ヲ講究シ諸種含藏ノ多少ト其ノ所在
ノ高下深淺トヲ鑑定シ此ノ穿採ノ難易ヲ前知スルノ秘訣ヲ辨シタル
ヲ以テ其ノ山ヲ發掘セザル以前ニ吉凶損益皆前算スヘシ且又山上山
下自然ノ形勢ニ依テ水脈ノ通利スル經路アルヲニ審ニスルノ秘密ヲ
示ス抑此ノ山相學ナルモノハ古來唯其ノ名有テ實徵無カリシカ故ニ
坑夫等種々ノ讒言ヲ吐テ人ヲ詐惑シ家產ヲ破ラシメタルコト極メテ
多シ信景此ヲ憤リ精究スルコト四十餘年遂ニ此ノ書ヲ著述シテ以テ

門弟子ニ授ク是ヨリシテ彼ノ山相ノ法始メテ正經有テ徵スヘキノ學トナレリ今ニ出羽、奥州、伊豫、但馬、石見等ニ山相ノ學ヲ唱フル者アルハ信景ノ末派ナリ始メ信景在世ノ時ヨリ其ノ子玄明窩ニ命シテ經濟開物ノ學ヲ鍛煉シ益其ノ道ヲ精究セシムト云フ 經濟要錄序、佐藤同興シ水ヲ治志シ衰廢ナ

田中丘隅

丘隅字ハ喜吉寛文壬寅三月十五日ニ武藏八王寺ニ生ル其ノ先世々相模ニ居住シ甲斐武田家ニ仕フ武田家亡ビテ武藏ニ移ル父ハ窪島氏母ハ委它氏二子ヲ生ム長ヲ祖道ト云ヒ季ハ丘隅ナリ小向村ノ田中某其ノ遠器アルヲ知リ女ヲ以テ之ニ妻アハセ家嗣ト大丘隅志經世濟民ニアリ慨然トシテ常ニ管仲ノ人トナリチ慕ヒ初メ川崎驛特ニ衰微シテ人民離散ニ及ハントス縣令嘗テ丘隅カ賢ナルヲ知リ登用シテ其ノ地ヲ治メシムル凡ソ一年驛中稍穏ニシテ人民心ヲ安シ三年ニシテ始メ

テ其ノ功ヲ見ルニ及ヘリコトニ田一區ヲ置キ義田トナシ親族故舊且鰥寡孤獨ノ急ニ救フニ備ヘリ享保癸卯ノ春幕府ニ召シ農政水利ノ事ヲ問フ其ノ上言スル所ノ條々尤事情ニ切ナリ故ニ命ニ蒙フリ荒川ノ水ヲ治メ頗ル功アルニヨリテ宿役ヲ司リ帶刀ヲ許サル又酒勾川ヲ濬フコトヲ司リ大ニシノ功アリ尋テ其ノ川ノ東西ニ堤ヲ築キ名ヅケテ文命隣ト云フ且碑石ヲ建テ其ノ頃末ヲ詳記ス後享保十四年ニ擢ラレテ玉川及ヒ埼玉ノ知縣トナレリ幾バクナク沒ス時ニ享保十四年己酉十二月壬午ノ日ナリ川崎小向村ニ葬ル丘隅政ニ莅ムヤ賦稅ヲ均クシ冗費ヲ除キ徭役ヲ省キ民ノ利害ヲ明カニシ爭訟無ラシメ兼テ不虞ノ備テナシ農時ヲ奪ハズ數月ノ間虛僞容ル所ナク姦究施ス所ナシ丘隅沒スルニ及テ朝野トモニ惜ミ嘆カサル者ナシト云フ嘗テ著ス所ノ書民間省要二十卷アリ世ニ行ハル名家傳

大日本農功傳卷之二畢

大日本農功傳卷之三

農務局纂訂

徳川吉宗

吉宗ハ紀伊ノ藩主徳川頼宣ノ子光貞ノ第三子ナリ初メ越前ノ丹生ニ封セラル兄頼職卒シテ嗣ナキナ以テ宗家ノ封ヲ承ク享保元年四月將軍家繼薨シ嗣ナキナ以テ入テ本宗ヲ襲ク時ニ年三十三八月詔シテ吉宗ヲ以テ權大納言ト爲シ尋テ征夷大將軍ニ拜シ内大臣ニ遷ル吉宗聰明勇決識量人ニ絶ス嗣職ノ始メ先ツ後房ノ婦女姿色アル者五十餘人ヲ放ツ精ニ勵マシ治ヲ求メ數々親藩諸侯ヲ召シテ之ヲ見ル獄訟ヲ問ヒ言路ヲ開キ駿々トシテ治ニ向フ初メ藩ニ在ル時山田ノ民松坂ノ民ト田虛文ヲ黜ケ實用ヲ務ムテ争フ而メ松坂ノ民曲ナリ松坂ハ紀伊ノ封域ニ屬ス山田奉行其ノ宗

尤意ヲ與産
ニ致シ諸國
ノ名產多々
ハ此ノ時ヨ
リ興隆ス

藩ヲ憚リ敢テ斷セス大岡忠相至ルニ及テ訟獄公平遂ニ山田ノ民ヲ直
トス是ニ於テ數歳ノ疑獄立ロニ決ス吉宗之ヲ聞キ忠相ノ人トナリヲ
偉トシ入テ職ヲ繼クニ及テ首トシテ忠相ヲ召シ江戸町奉行ト爲ス二
年五月吉宗始メテ鷹ヲ野外ニ放ツ其ノ農事ヲ妨ケルヲ懼レテナリ是
ヨリ先キ綱吉屠殺ヲ禁シ家宣田獵ヲ好マス家繼幼冲是ヲ以テ田獵久シ
ク廢ス吉宗嗣立シ以爲ラク田獵固ヨリ盤樂ヲ爲スニ非ルナリ因テ武
事ヲ講ス舊法ニ百姓鷹人鶴ヲ臂ニスル者ニ途ニ遇ヘハ必ス馬ヨリ下
リ避趨ス吉宗曰ハク鶴ヲ尊テ人ヲ卑シム寧ソ此ノ理アランヤト之ヲ
停ム是ニ至テ道路除カス肆虐常ノ如シ民大ニ悅フ三年閏二月吉宗始
メテ測午表ヲ吹上苑ニ建ツ吉宗嘗テ意ヲ天文學ニ潜メ天經或問、西洋
曆經、算學全書、算法統宗諸書ヲ研究ス是ニ至テ測午表ヲ設ケテ晷ヲ測
リ測天ノ視力ヲ勞スルヲ以テ創意シテ井ノ字ヲ望遠鏡ニ畫シ司天臺ヲ
神田臺ニ建テ渾天儀ヲ改製シテ簡天儀ト曰フ又木桶ヲ屋室ノ側ニ設

ケ雨水ヲ測リ多少ヲ記シ長崎、駿府等ニモ之ヲ設ケシメ以テ來歲ノ旱
澇ヲ徵考シ凶荒ノ備ヲ爲セリ後天文方ノ請ニ因テ洋書ノ禁ヲ弛メ邪
教書ヲ除クノ外購買ヲ許シ中根玄圭ニ命シテ西洋曆算書ヲ翻譯セシ
ム玄圭因テ曆書ヲ作り之ヲ上ル律製曆又白山曆ト曰フ吉宗深ク西曆
ノ天ニ合フヲ知ルト雖ヘトモ民聽ヲ駭サシコトヲ慮リ施行ヲ果サス
西川正休、濱川則休等ニ命シテ貞享曆ヲ補正セシム寶曆曆是ナリ又輿
地圖ノ錯誤多キヲ憂ヒ三奉行ニ命シテ日本總圖ヲ製セシム主者其ノ
法ニ苦ム吉宗之ヲ教ヘ毎國左右中三ノ名所ヨリ近國ノ名山高嶽ノ頂
ヲ望視シテ准矩トナシ舊圖六寸一里ヲ縮メ六分一里ノ小圖トナシ名
奢靡ヲ禁ス六年令シテ衣服器玩金銀ヲ用ヰ及ヒ新様ヲ製スルヲ禁ス
是歲投書函ヲ許定所及ヒ京都大阪ノ町奉行所ニ置キ以テ寃ヲ訴ヘ姦
ヲ告ケシメ且直言ヲ求ム之ヲ訴狀箱ト曰フ青山ノ浪人山下幸内所見

チ上書ス其ノ言忌諱ヲ避ケス吉宗之ヲ嘉シ銀ヲ賜ヒ他ヲ獎勵ス衆其ノ度量ニ服ス吉宗以爲ラク民ノ罪料ニ觸ルハ法令ヲ熟知セサルニ由ルト屢代官領主ヲ戒メ管下ニ懇諭セシメ前後法令七十條ヲ刪定シテ諸國ニ頒ナ名主ヲシテ毎月一回村民ヲ會シテ之ヲ讀マシメ又六諭衍義ヲ讀ミ以テ益アリト爲シ室直清ニ命シテ之ヲ抄譯セシメ之ヲ刊行ス嘗テ戸田ニ放鷹シ村醫吉田順庵法度書ヲ童蒙ニ教誨スルヲ聞キ銀ヲ賜ヒ之ヲ賞ス十一年七月清舶來テ方物及ヒ遼東ノ參寶採參略記ヲ獻ス吉宗日用物品給ヲ海外ニ仰ク者ヲ檢シ其ノ種苗ヲ求メテ之ヲ培植ス乃人參ヲ日光及ヒ信濃等ニ植エ甘庶ヲ薩摩ニ求メテ之ヲ栽エ清商ニ命シテ製糖法ヲ錄進セシム又良馬ヲ清朝鮮及ヒ和蘭ニ求メ之ヲ牧養シ清商ニ療馬書ヲ徵ス吉宗已ニ物產ニ汲々タリ諸藩其ノ意ヲ承ケ務テ國產ヲ興シ財計ヲ長ス諸國ノ名產大抵此ノ時ヨリ興隆スト云フ十三年二月江戸火アリ府下ノ市街年ヲ逐フテ繁盛ニ趨キ屋宇櫛

比隙地アルナシ故ニ一タヒ火ヲ失スレハ延焼數里吉宗之ヲ憂ヒ令シテ瓦屋塗屋ヲ建テ旗本家人ハ祿高ニ從ヒ金ヲ貸シテ改造セシメ市街要衝ノ處ハ屋ヲ撤シ廣衛ヲ設ケ以テ防火ニ便ス是歲吉宗有志ニ命シテ甲斐ノ節婦阿栗ノ碑ヲ建テシム十五年吉宗普救類方ヲ刊シ之ヲ諸國ニ頒布ス吉宗僻地ノ人民醫藥療法ヲ得サルヲ憐ミ醫員林良適等ニ命シテ諸方ノ緊要ヲ譯シ一書ヲ作ラシム是ニ至テ成リ之ヲ頒ツ十七年旱蝗アリ南海、西海、山陰、山陽、最モ甚シ吉宗乃ナ關東ノ米ヲ移シ以テ其ノ民ヲ賑ハス明年西南諸道又大ニ饑ウ餓莩甚タ多シ吉宗毎日男ニハ米二合女ニハ一合ヲ給シ以テ之ヲ賑救ス諸侯ニハ米ヲ貸シ其ノ部民ヲ賑救セシム又青木敦書ニ命シ蕃諸考ヲ作ラシメ種苗ヲ併セテ諸國ニ頒ツ二十年六月吉宗養生所ヲ江戸小石川ニ置キ醫藥ヲ窮民ニ施與ス寛保元年八月吉宗右大臣ニ陞叙ス二年四月吉宗民間瘞埋錢ヲ用井ルヲ禁ス世俗葬ルニ數錢ヲ以テ棺ニ收ム六道錢ト稱ス吉宗其ノ空シ

ク寶貨ヲ埋没スルヲ以テ之ヲ停ム七月畿内及ヒ東海、東山、北陸大雨洪
水堤防潰決屋宇漂沒ス田圃ヲ損ズル八十餘萬石幕府吏ヲ發シテ溺ヲ
救フ相模ノ豪農荻生正卿食ヲ漕シテ水ヲ被フル者ニ施シ仍疲羸者數
百人ヲ載セテ家ニ還リ乃ナ倉廩ヲ發ク饑民群至毎人米四升ヲ與フ明年
ニ至テ止ム其ノ全活スル者六百餘人惠四十八村ニ及フ吉宗褒賞シ物
ヲ賜ヒ門閥ニ旌ス延享二年九月吉宗大將軍ヲ辭シ西城ニ徙ル十月詔
シテ吉宗ノ子家重ヲ以テ征夷大將軍ト爲シ内大臣ニ任シ從二位ニ叙
ス四年十月續庶物類纂六百三十八卷補篇五十四卷成ル初メ加賀ノ藩主
前田綱紀醫員稻葉宣義ニ命シテ庶物類纂ヲ編輯セシム二十餘年ヲ經
テ三百六十二卷ヲ成ス綱紀之ヲ幕府ニ獻ス其ノ書二十六類ニ分ツ宣
義九類ヲ成シテ死ス吉宗其ノ門人丹羽貞機ニ命シテ續輯セシム是ニ
至テ成ル前編ヲ通シ一千五十四卷品物三千四百種アリ寶曆元年六月
吉宗薨ス享年六十八太政大臣正一位ヲ贈ラレ謚シテ有徳ト曰フ吉宗

仁明學ヲ好ミ歴世奢侈ノ後ヲ承ケ勤儉下ヲ率ヰ心ヲ政務ニ竭シ綜理
周密法制備具號シテ幕府ノ中興ト爲ス吉宗心ヲ刑律ニ留メ斷罪務メ
テ輕減ニ從ヒ追放ヲ廢シ贍法ヲ興シ子弟連坐ヲ停メ罪囚冤枉アレハ
親戚舊知ヲ問ハス速ニ上告セシム大岡忠相等ニ命シテ家康以來ノ公
布條例ヲ類纂ス名ケテ法度書ト曰フ又親ヲ唐明二律ヲ參酌シ老臣法
吏ト討論シテ公事方定書ヲ訂正シ後世之ヲ遵用ス幕府田租ヲ收ムル
古來二法アリ定免ト曰ヒ見取ト曰フ吉宗見取ノ煩ニシテ弊多キヲ以
テ代官ヲシテ農民ニ懸念シ漸チ以テ之ヲ廢シ定免法ヲ行ハシム任ス
岡忠相ノ訟獄ニ於ケル山川忠義ノ巡察ニ於ケル皆其職ニ稱フ而シテ
吉宗財ヲ理メ產ヲ興ス尤モ意ヲ致ス所ト爲ス晩年府庫充實家給シ人
足ル民稱シテ米將軍ト云フ十三朝史略、皇朝史畧

井戸平左衛門

平左衛門諱ハ正明幕府ノ代官タリ亨保十六年辛亥石見國數郡ヲ管轄シ大森邑ニ居ル性仁恕ニシテ郡民ヲ撫育スル至ラサル所ナシ周ク管下ノ村落ヲ巡リ人民生産ノ薄キヲ視テ閑然之ヲ救ハシコトヲ思フ適摩國ニ奇種アリ之ヲ琉球ニ得タリト云フ其ノ味甘美能ク氣力ヲ養ヒ以テ糧食ニ充ツヘシ名ヲ甘諸ト曰フト正明之ヲ聞キ欣然迺ニ幕府ニ請ヒ種ヲ薩摩國ニ求メ沿海數村ニ令シテ之ヲ藝エシム其ノ沙地ニ宜キチ以テナリ然ルニ培養未タ其ノ法ヲ得ス則多ク朽腐ス一老農アリ能ク培養ノ法ヲ得遂ニ漸ク蕃殖シ糧食ノ半ヲ助クルニ至リ民大ニ悅フ後數十年甘諸ノ利終ニ天下ニ及フ一歲大歉アリ民悉ク菜色アリ正明管下ヲ巡視シ東奔西馳心ヲ濟救ニ悉シ勞苦ヲ憚ラス且官ニ請フテ租税ヲ免シ又粟ヲ他邦ニ糶シ以テ之ヲ賑救ス終ニ一人ノ流亡ニ至ラサ

ルモノハ皆正明ノ力ナリ正明石見ニ在ル僅ニ二年而シテ善政美事枚舉ス可カラス今特ニ其ノ大ナル者ヲ舉クルノミ正明享保十八年癸丑ナ以テ備中笠岡ノ官舍ニ卒ス追號シテ泰雲院義岳良忠居士ト曰フ訃至ル民皆哀感追戀慈母ヲ喪フカ如シ乃ナ相識シテ毎村報德ノ碑ヲ樹テ歲時享祀シ以テ今ニ至ルト云フ井戸君表

青木昆陽

昆陽名ハ敦書字ハ原甫通稱ハ文藏昆陽ハ其ノ號ナリ伊勢ノ人少フシテ伊藤長胤ヲ師トス其ノ學有用ニ志ス江戸八丁堀ニ住シ與力加藤又左衛門之ヲ推轂シ大岡越前守忠相ノ器トスル所トナリテ官庫ノ書ヲ觀ルヲ許サル尋テ元文中幕府ニ仕ヘ典籍ノ事ヲ管ス後ニ屢々命ヲ奉シテ諸國ニ至リ梵刹民家ニ投シ舊記ノ以テ事ヲ徵ス可キモノヲ搜索シ其ノ著ス所モ亦必ス進メサル莫シ延享元年紅葉山火番ニ舉ラレ評定

所儒者書物奉行ニ累選ス嘗テ歎シテ曰ハク凡ソ死罪アルモノ遠ク之
 チ島嶼ニ放ツハ要スルニ其ノ天年ヲ終ヘシムルニ在リ而シテ諸島五
 穀少ナク常ニ海產木實ヲ食フ是ヲ以テ往々餓死ス即ナ種藝ノ地ト雖ヘ
 トモ歳或ハ登ラサレハ則ナ民菜色アリ顧フニ百穀ノ外以テ穀ニ當ツヘ
 風ニ甘諸ノキモノハ蕃諸ニ若クハナシト乃ナ幕府ニ上請シ種子ヲ薩摩ニ求メ試ニ
 効用ヲ詳示シ種子ヲ併セテ諸國ニ傳播ス
 之ヲ官園ニ種エ其ノ栽培方ヲ述ヘ蕃諸考ヲ著ス幕府鑄版シ種子ヲ併
 セテ之ヲ諸州島ニ頒ツ未タ數年ナラズ處トシテ之ヲ種エサル無シ今
 ニ至テ大ニ蕃殖シ歲歉スレトモ民餓エサルモノハ昆陽ノ力ナリ是ノ時
 未タ蘭學ヲ講スルモノアラス昆陽謂ラク其ノ說必ス权用ス可キ者ア
 ラン而シテ其ノ字蟹行通解シ易カラス會幕府ヨリ昆陽及ヒ醫官野呂
 立丈ニ命シテ蘭書ヲ講セシム乃ナ長崎ニ如キ譯司ニ質シ博ク原書ヲ致
 ヘ參互錯綜粗大意ヲ會ス既ニシテ此ノ學寢闢ク前野達實ニ昆陽ノ門
 ニ出ツト云フ昆陽閑學沿聞著書甚タ富ム其ノ農政物產ニ參考ス可キ

モノハ經濟纂要、昆陽漫錄等アリ其ノ譯述ニ係ルモノハ和蘭勸酒歌解、
 和蘭櫻木一角説、長崎聞書、和蘭文字略考、和蘭話譯等アリ明和六年十月
 殺ス年七十二日黒村流泉寺ニ葬ル墓面ニ題シテ甘諸先生之墓ト曰フ
 御用薩摩芋書類、青木昆陽申上書碑文

百姓作兵衛

作兵衛ハ伊豫松山領内筒井邑ノ農夫ナリ稟性朴實剛介素ヨリ其ノ業
 ニ勵ム享保十七年秋螟災ヲ爲ス甚シ郡邑救荒ノ政施スニ暇アラス業
 ネ拾テ離散スル者尤モ多シ作兵衛獨リ麥田ノ不易ヲ憂ヒ奮然饑餓
 ネ忍ヒ自ラ數十畝ヲ耕シ將ニ麥種ヲ播セントス精力衰耗狼狽シテ家
 ニ還リ困頓特ニ甚シク遂ニ死ニ瀕ス隣人諭シテ曰ハク子ノ命旦暮ニ
 在リ而ルニ麥種ノ囊中ニ満ルモノアリ盍ソ之ヲ食フテ死ヲ免レサル
 ヤト作兵衛怫然色ヲ作シテ曰ハク吾食フヘカラサルノ食ヲ食ヘハ則チ

吾命ナ輕ン
シ穀種ナ重
ンシ麥叢チ
机ニシテ死
ス都民其ノ
徳ニ頼リ義
農ト稱ス

何ソ此ニ至ルコトアランヤ夫レ百姓穀種ヲ播シテ租稅ヲ納ムルモノ
ハ民ノ職ナリ官庫コレニ資リ君子コレニ祿シ國人コレニ庇ス然ラハ
則ナ穀種ノ貴重ナル吾命ノ比ス可キニ非ス故ニ民ハ國ノ本穀種ハ農ノ
本ナリ若シ肆然トシテ之ヲ盡サハ則ナ來歲將タ何ナ以テ國用ヲ給ゼン
ヤ穀種ヲ食ハサルハ吾志ニシテ竊ニ以テ國ニ報セント欲スルナリ吾
死ナ守ルノミ復言フコト勿レト氣息奄々トシテ遂ニ麥叢チ枕ニシテ
死ス則ナ九月二十二日ナリ國人其ノ義氣ニ感シ僉稱シテ義農ト云フ安
永年間郡官増田惟貞適其ノ墓ヲ省テ其ノ實ヲ詳ニシ以テ領主ニ白ス
領主作兵衛ノ死ニ憐恤シ且謂ラク民風ノ系ル所口碑ノ時アリテ亡ヒ
ソコトナ恐レ爲メニ其ノ石ヲ新ニシ儒官丹波成美ニ命シテ其ノ事ヲ
勒サシメ毎歲米一苞ヲ其ノ子孫ニ與ヘテ祭祀ニ供シ功ヲ閩里ニ旌ス
死ナ距ル蓋ナ四十五年ナリト云フ松山叢談、義農墓碑

松山叢談引ク所垂憲錄及ヒ手家記叢ニ據レハ後年藩主定通ノ時代

作兵衛ノ子孫作兵衛ナル者ニ上下着用及ヒ小刀ヲ佩フルヲ許ス年
賀ノ禮ヲ受ケ又安政五年藩主勝成領内巡回ノ時祭祀料若干ヲ贈與
スト云フ

高橋善藏

善藏ハ筑前國那珂郡山田村ノ人ナリ保正ト爲リ職ヲ奉スル甚タ謹ム
嘗テ櫨實ヲ以テ產ヲ助クヘキヲ考ヘ薩肥諸國ニ遊ヒ栽培諸法ヲ閱シ
得ル所アリテ歸リ專ラ此ニ從事ス村民或ハ迂計ナリトテ笑フ者アル
モ顧ミス享保十七年荒レ人飢ウ是ニ於テ益櫨ヲ養ヒ以テ不虞ニ備
フ力ヲ用ヰルノ久シキ効ヲ見ル漸ク多ク而シテ家産モ亦優カナリ村
人稍悟ル所アリ皆倣フテ之ヲ植ウ植ル所ノ地村圃ヲ十分スルノ四ニ
シテ櫨ノ獲ル所盡ク村圃ノ稅ヲ辨シテ猶餘贏アリ全村是ニ由テ富ヲ
致ス旁近ノ諸村モ亦倣フテ之ヲ植ル者年一年ヨリ多シ善藏益経験ノ
ノ方ヲ示ス

高橋善藏

功ヲ積テ自得スル所アリ晚ニ及テ書ヲ著ハシ之ヲ兒孫ニ傳フ窮民夜光之珠是ナリ其ノ記スル所、選種、施壅、接枝、驅蟲ノ諸法遺漏スル所ナシ今傳播シテ諸國ニ及フ而シテ京畿筑前蠟ノ稱ヲ得ルモノ實ニ善藏ノ力ナリ明治十五年十月九州沖繩聯合蘭茶蠟糖等共進會ヲ長崎ニ開クヤ農商務卿善藏ノ功ヲ嘉ミシ金二十圓ヲ賜フ十九年三月褒賞條例ニ依リ又金五拾圓ヲ賜ヒ以テ之ヲ追賞ス善藏貞享元年六月七日ヲ以テ生レ寶曆十一年八月二十日歿ス墓唯櫨樹ヲ植ウルノミニシテ片石ノ表ナシ蓋シ遺誠ニ出ルナリ今ヤ追慕スルモノ之ヲ懐トセス石ヲ以テ墓ヲ表シ且碑ヲ雜餉隅官道ノ傍ニ建テントス文ヲ縣知事安場保和ニ請フ保和其ノ舉ヲ嘉ミシ其ノ概要ヲ記シテ之ヲ與フ時ニ明治十九年十一月ナリ高橋善藏之碑
窮民夜光之玉

田中善吉

善吉ハ紀伊國有田郡箕島村ノ人ナリ夙ニ種藝殖產ニ志篤ク元文中黃櫨ノ種子ヲ薩摩ニ得淑メテ居村字赤岩ニ試植シ刻苦培養逐年繁殖スルニ隨テ櫟實及ヒ苗ヲ同國各地ニ分配シ自ラ勞費ヲ厭ハス東西ニ奔走シ以テ栽培製蠟ノ法ヲ傳フ是ニ於テ櫟蠟ノ業漸ク開興シ遂ニ同國ノ物產ト爲レリ農事有功傳

百姓權四郎

權四郎ハ陸奥耶麻郡上林村ノ人少時ヨリ農事ニ勤勉シ夜以テ日ニ繼キ他事ヲ顧ミ家産爲メニ乏シカラス年貢缺クルコトナシ村内一澤アリ三本松ト呼フ深ニ二丈餘權四郎其ノ不用ニ屬スルヲ惜ミ二人ノ子ト力ヲ協ハセ閑地ノ土ヲ運移シテ澤中ニ投シ又近傍ノ諸山ニ數條ノ水道ヲ開鑿シ大雨ノ降ル毎ニ父子共ニ出テ、山上ノ土ヲ澤中ニ流下セシム鞠躬四年澤盡ク埋塞シ遂ニ一段七畝ノ田ヲ得植付了リテ定貢

種藝殖產ニ
志篤ク櫻種
ヲ移植シテ
物產ヲ興ス

チ納メント請フニ至レリ是ヨリ先キ六年村内谷德谷地ト呼ヘル處新田ノ開クヘキモノ六町許アリ村民以爲ヘラク是レ山間ニ堤ヲ築キ用水ヲ引キ以テ開墾セハ永ク國利チ興サント相謀テ巧チ起サント欲大然レトモ築堤ノ人夫多キヲ要シ村力ノ企及スヘキニ非ルチ以テ荏苒月日ヲ經過セリ權四郎父子僅ニ三人能ク大澤ヲ治ムルニ至テ大ニ感悟スル所アリ衆ニ謂テ曰ハク舉村合力以テ事ニ從ヘハ其ノ竣功ヲ見ル難カラスト一村協同シ築堤ニ從事スル凡三年人夫ヲ要スル三千六百人遂ニ功ヲ竣フ是レ亦タ權四郎カ力ニ因ルモノナリ權四郎平素品行端正ニシテ農事ニ勵精ス延享元年領主ヨリ米若干ヲ與ヘテ之ヲ賞ス

孝義

佐藤藤藏 佐藤四郎兵衛 佐藤安右衛門
佐藤惣四郎 三浦清七 菅原大山

來生八十郎 服部外右衛門

率先不毛ノ地ニ移住シ萬苦ヲ凌キ竟ニ大林ヲ造テ地民ヲ蘇息メ

藤藏諱ハ重好出羽國飽海郡藤崎村ノ人父ハ藤左衛門ト稱ス初メ酒田ニ住ス往昔領主大泉ノ西濱頻年風砂地民ヲ害スルヲ憂ヒ除害ノ法ヲ企圖スルニ方リ藤左衛門父子之ニ應シ資ヲ捐テ殖林ニ從事ス尋テ藤左衛門歿ス藤藏後チ承ケ該業ニ從事シ怠ラズ延享二年郡代服部外右衛門痛ク風砂ノ害ヲ歎キ之ヲ防クノ策ヲ謀ルニ方リ藤藏奮然家ヲ舉テ本地ニ移住シ刻苦數十年遂ニ大林ヲ造テ地民ヲ蘇息シ一村ヲ設テ藤崎ト名ツク蓋シ藤崎村ノ地タル南ハ最上川ニ沿ヒ西ヨリ北ニ亘リ海ニ突出シ吹浦川ニ至テ盡ク故ニ往昔ハ冬季ニ際スレハ西風砂塵ヲ捲キ晝晦暝咫尺ヲ辨セス毎ニ行路ヲ絶チ近村ノ耕地爲メニ埋沒シ隨テ水路モ壅塞シ農業ヲ害スル甚シ是ヲ以テ毎年三四月ノ交數萬ノ丁壯ヲ役シ水路ヲ疏通シ然ル後田畠ヲ耕耘スル等茲ニ數十年近村人民ノ慘状見ルニ忍ヒサルモノアリ是ニ於テカ領主夙ニ除害ノ法ヲ企

圖シ郡代モ亦大ニ其ノ策ヲ求ム當時藤藏ノ本地ニ移住スルヤ空漠タル砂場ニシテ寸草尺木ナ見ス殊ニ海風烈シ日夜砂塵ヲ飛ハシ其ノ甚キニ至テハ炊具盡ク沙ニ埋レテ喫飯ニ苦ムコトアリ家人等且ツヒ且ツ懼レ酒田ノ市街ニ遁ル、コト其ノ幾回ナルチ知ラス然レトモ藤藏更ニ届撓ノ色ナク益砂地ニ雜草茱萸合歡木ノ類ヲ移植スルコト數十年天明五年ノ交ニ至テハ稍林相ナ爲セリ是ニ於テ更ニ同郡藤塚村外二十餘村ノ人民ヲ誘導シ萬苦ヲ凌キ遂ニ其ノ目的ヲ貫ケリ而シテ子孫モ亦能ク其ノ遺業ヲ繼キ代々祖先ノ名ヲ隕サ、ランコトヲ期シ竟ニ百有餘町歩ノ防砂林ヲ造リ數箇村ノ人民始メテ蘇息スルニ至ル領主モ之ヲ嘉シ嘗テ屢賞ヲ與フ藤藏寛政九年九月二十二日歿ス年八十餘ナリト云フ是年男某碑ヲ建ツ往時服部外右衛門ノ防砂策ヲ謀ルニ方テヤ近郷佐藤四郎兵衛佐藤安右衛門、佐藤惣四郎、三浦清七、來生八十郎、菅原大仙等モ該地ニ移住シ奮勵殖林ニ從事セリ村社境内ニ功績

井上惠助

ノ碑アリ明治十五年山林共進會ヲ東京ニ開クニ方リ藤藏以下數名ノ功勞ヲ追賞シ藤藏ニ二等賞四郎兵衛以下六名ニ四等賞ヲ賜フ山林共進會報等告

惠助ハ出雲國神門郡濱村ノ人夙ニ公益ヲ起スノ志アリ會藩廳惠助ニ命スルニ高濱防砂ノ事ヲ以テス是ニ於テ專ラ該業ニ奮勵シ遂ニ功ヲ奏セリ初メ高濱ノ地茫々タル沙漠ニシテ北海ノ暴風ヲ受ケ近隣ノ耕地家屋ハ爲メニ埋没スルモノ渺ナカラス藩廳夙ニ之ヲ憂ヒ專ラ力ヲ防砂ニ盡スト雖ヘトモ至難ニシテ容易ク功ヲ奏セス時ニ惠助ノ人ト爲リチ聞キ乃チ之ニ命スルコ防砂ノ事ヲ以テス惠助命ヲ受ケ大ニ奮發シ寶曆初年ノ春ヲ以テ該業ニ着手シ爾後粉骨碎身樹木ヲ栽培シ十二年ニ至テ已ニ一十町歩ヲ栽植シ其ノ苗木ノ數九十萬本ノ多キニ至レ

蓋ス十餘年
遂ニ數村ノ
風害ヲ除ク
リ但シ其ノ間土地ノ乾燥ニ困ミ或ハ風害ヲ被フリ或ハ大雨ニ流損セ
ラル、等屢々苗木ヲ枯槁セシムルコトアリト雖ヘトモ終始其ノ志ヲ屈
セス種々ノ改良方ヲ加ヘ遂ニ其ノ功ヲ奏セリト云フ惠助歿後子孫其
ノ遺業ヲ繼キ亦能ク力ヲ栽植保護ニ致シ爲メニ近郷數村風砂ノ害ヲ
免レタリト云フ明治十五年山林共進會ヲ東京ニ開クニ方リ惠助ノ功
勞ヲ追賞シ三等賞ヲ賜フ十五年山林共進會報告

荏戸九郎兵衛

九郎兵衛名ハ鵬字ハ士雲米澤藩士ナリ人ト爲リ忠純梗亮能ク賢ヲ推
シ士ヲ尙ヒ孤寡ヲ賑恤ス尤モ經國ニ精シ少小ヨリ學ヲ好ミ遠ク江都
ニ出テ澁井孝徳ニ就キ研究ス專ラ經濟有用ヲ以テ主ト爲シ詩文藝術
ノ書ヲ屑シトセス孝徳謂ラク士雲榮々タル大材終ニ必ス爲ス有ラン
ト既ニシテ郷里ニ歸リ鬱々トシテ意ヲ得ス憤然慨歎ス老職竹股美作

之ヲ聞キ其ノ第ニ延見シ且謂テ曰ハク是ノ地開封以來士風ノ弊盤根屈
結彼ニ祖シ此ニ楊ス勤モスレハ喧嘩鬭論其ノ勢ヒ天涯累卵當路者之
ヲ患ヒ裁判スル能ハス予意ラク子ノ才ヲ以テ之ヲ處セハ必ス治ラ
ト遂ニ薦メテ中庶子ト爲ス累遷シテ老職ト爲リ保傅ヲ兼子藩主上杉
重定モ亦深ク其ノ才ヲ知リ眷寵特ニ隆ナリ當時秋月長門守種美ノ第
二男國松ハ英邁孝順ノ聲アリ重定士雲ト謀リ請フテ養子ト爲ス是ヲ
治憲トス明和四年重定退隱シ治憲嗣ク年十七勤儉華ヲ斥ケ實ヲ取り
衣ヲ非ウシ食ヲ麤ニシ儒術ヲ崇尚シ經世ニ志ス嘗テ澁井孝徳ヲ聘シ
禮遇甚タ優ナリ孝徳其ノ君ニ扈從シテ大坂ニ之クニ當リ細井徳民ヲ
薦ム治憲大ニ驕ヒ亦之ニ師事スル孝徳ニ減セス八年治憲始メテ封國
ニ往ク乃徳民ヲ招キ將ニ國政ヲ諮詢セントス徳民乃到ル治憲除道郊
迎シ待遇尤モ謹ム是ヲ以テ文學大ニ行ハレ武術並ニ盛ニ殆ト刑措ノ
治ヲ致ス士雲晩年致仕シ躬ヲ田圃ヲ耕スヲ以テ娛ト爲ス治憲復屢之

ニ就テ諮詢ス年餘ニシテ病ニ臥ス治憲之ニ問フテ曰ハク若シ不諱アラハ誰ト與ニ謀ランカ對テ曰ハク老職ト爲ルモノ皆可ナリ誰カ以テ主トスヘキヤ曰ハク皆可ナリ此ノ如クスルコト再三治憲耳邊チ提シテ誰乎ト問フ士雲曰ハク臣ノ子可ナリト喪ノ閑ルニ及テ治憲其ノ子ヲ召シ明スニ士雲ノ言フ所ナシ以テシ之ニ老職ヲ命ス其ノ子曰ハク臣蠢愚ニシテ任ニ勝ヘス恐ラクハ君徳ヲ損セソ之ヲ強ルモ受ケス三日チ閱テ謁シテ曰ハク臣願クハ往日ノ命ヲ奉セソ治憲曰ハク汝向キニ固辭シ今復之ヲ欲スルハ何ソヤ對テ曰ハク今ヤ制度悉ク備リ闕漏アラナシ然レトモ若シ他人政ニ從ハ、則必ス之ヲ革メ將ニ其ノ功ヲ取ラントシテ反テ敗レン臣不材ニシテ取裁スル所ナ知ラス唯舊章ニ率由スルノミ是レ臣ノ父カ臣ナ薦ムル所以ナリ治憲大ニ悦ヒ改メテ老職ヲ命ス既ニシテ群臣協和一心同德戸口日ニ滋ク田野益闢ケ豊饒富衍諸國ニ冠タリ皆士雲ノ致ス所ナリ其ノ著ス所庚錄一卷、政語若干卷、

翹楚篇一卷世ニ行ハル偉績山公

細川齊慈

齊慈ハ熊本ノ藩主ナリ常ニ心ヲ農政ニ用ヰ最モ力ヲ櫛蠅ノ増殖ニ致
内帑ナ減シ
テ櫛蠅ノ繁
殖ヲ獎勵ス
ス蓋シ肥後ノ櫛樹ハ享保九年該藩其ノ種子一石九斗ヲ薩摩ニ購ヒ得テ
之ヲ飽田郡春日村ノ地ニ播植シ其ノ苗ヲ各郡ニ分賦シ河海ノ堤防等
藩有ノ不毛地ニ栽植シ又人民ヲ勧誘シテ山野開墾地ニ栽植セシムル
ヲ始メトス爾來二十年ヲ經テ延享元年ニ至リ櫛樹漸ク蕃殖シ該事務
隨テ多忙ナルヲ以テ櫛方ト稱スル一局ヲ設ケテ之ヲ管理セシム寶曆
十三年ニ至リ齊慈創メテ製蠅塲ヲ飽田郡高橋町ニ置キテ製蠅ニ着手
シ又享和三年側向ノ用達ヲ減シ其ノ餘裕ヲ以テ別途製蠅所ヲ託摩郡
今村ニ設ケ側用人ヲシテ之ヲ掌理セシム爾後屢々側用金ヲ出シ山野荒
蕪ノ地ヲ開墾シテ櫛場ト爲シ或ハ邊海新地ヲ築造シ其ノ隣防モ亦櫛

樹チ栽植ツシムス是ヨリ代々遺業ヲ繼テ保護蕃殖ヲ謀リ遂ニ肥後ノ重要物ト爲セリ功傳有

舊記ニ據レハ櫨方ハ文化三年更ニ製蠟所チ八代郡豐原村ニ設ケ櫨方出會所ト稱シ八代葦北兩郡遠隔ノ地方ヲ獎勵シ同九年晒蠟場チ熊本新三丁目ニ增設ス天保十二年側向製蠟所チ櫨方ニ合併シ益事業ヲ擴張スルニ隨ヒ安政五年又山鹿郡鍋村ニ製蠟所チ增設ス此ノ時ニ當リ藩中櫨木ノ數凡ソ七十萬本收實概子五百萬斤ト稱セリ

平賀源内

開成チ主張シ人淺チ移シ白糖チ製シ物產書チ著ス
寡言智巧衆ニ超ユ常ニ心チ開物利用ニ注キ發明スル所ノモノ少ナカラス初メ儒道ニ志シ未タ特立セス寶曆二年江戸ニ來リ業チ田村藍水ニ受ケ本草ヲ講修ス七年長崎ニ如キ譯官吉雄某ニ依リ和蘭人ニ就テ

植學及ヒ電術ヲ學フ三年ニシテ還リ考覈少ラクモ懈ラス然レトモ窮乏資力ナシ是ニ於テ旁ラ貨品ヲ造リ以テ口チ餉ス十三年九月親友ト謀リ物產會ヲ湯島ニ開ク之ニ先タツ數年田村藍水始メテ此ノ會ヲ開ク是ニ至テ物類ノ薈萃益多シ明和元年二月創メテ火浣布ヲ製シ隔火ト爲ス三月荷蘭使臣來聘青木昆陽之ト接對ス適此ノ物ヲ示ス使臣大ニ驚キ且賞嘆シテ曰ハク萬國未タ曾テ試織セス何リ能ク斯ニ至ルヤト源内遂ニ之ヲ幕府ニ獻ス八年電火療具ヲ製ス見ル者始メテ其ノ理チ悟ルチ得タリ安永八年十一月二十日源内ヲ發狂シテ人ヲ殺シ獄ニ下リ十二月十八日瘦死ス歲五十七從弟某其ノ尸ヲ橋場總泉寺ニ葬ル杉田玄伯財ヲ捐テ碑ヲ建ツ源内名物ノ學ヲ好ミ每ニ絕險ヲ攀チ窮谷ヲ歷テ奇品異類ヲ探ル嘗テ人ヲ移植シ其ノ製法ヲ傳ヘ或ハ製糖ニ苦慮シ遂ニ白糖ヲ製スル等功利國ニ施ス既ニ溥シ源内才氣豪邁頗ル俠客ニ類ス其ノ志將ニ爲スアラントス但シ榮路數奇才ヲ伸ル能ハス往々

木原才次

百六十

歌句ヲ吐テ以テ鬱悶ヲ破ル嘗テ居ニ柳原ニ僦ル貧殊ニ甚シ會霖雨連秋紫茄乏シ白茄多シ都俗中元靈祭必ス白茄ヲ薦ム紫茄ニアラサレハ食セス源内意ヘラク茄ノ白キモノ所謂渤海茄無毒食フヘシ而シテ價廉紫ナル者縱ヒ多キモ廉ナラス此レ天猶我ニ眷スルナリト即金穴家ニ商量シ盡ク坊内ノ白茄ヲ購ヒ貯藏良熟ニ待テ販ル隣近争テ需ム是ニ由テ錢ヲ獲タリト云フ其ノ著書物類品隨萬國圖、淨貞五百介圖、神農本草經圖、及ヒ倭名考、本草比肩、食物本草、火浣布考、並ニ略說、四季名物正名、日本物產譜、專ラ開成ニ主張ス千殊萬列、審類析義、無根草風來六部集、菊園等アリ皆滑稽書ニ屬ス平賀源内傳、

武江年表

木原才次

才次諱ハ時明肥後國熊本藩ノ人明和文化ノ間山支配役ト爲リ大ニ林業ヲ興ス同國益城郡野部庄ノ山林本郡ノ北隅ニ位シ下名、連石、御所、鶴

山林濫伐ノ
害下流ノ諸
村ニ及フチ
慨キ銳意回
復ヲ謀リ功
成テ諸村ヲ
潤ス

ケ田口ノ四村ニ連亘シ小笠川黒川轟川等ノ水源タルヲ以テ古來斧斤チ入レス寶永、正徳ノ頃林政解弛セシヨリ林麓ノ人民私利ヲ爭ヒ濫伐ヲ極メ或ハ野火ノ延焼ニ罹リ滿山概子荒蕪ニ屬シ其ノ害下流ノ諸村ニ波及シ連年旱損ヲ訴フルニ至ル才次痛ク之ヲ憂ヒ挽回ヲ謀リ明和年間ヨリ寛政年間ニ至ルマテ杉檜ノ二木ヲ試植シ其ノ暢茂ノ狀ヲ認メ豫ノ毎歲十萬本ヲ挿植スルノ目的ヲ立テ志願ヲ具シテ藩准ヲ得大ニ夫役ヲ募リ山ノ口役山見締役等ヲ指揮シテ増植ニ從事セリ其ノ區域タル東ハ高千穂屋西ハ春山峠南ハ道山寺北ハ阿蘇郡ヲ界シ東西三里南北三十町周圍八里餘絶頂駒返ト稱スル處ニ小屋ヲ建テ以テ野火等ヲ警戒スル所トス而シテ年々種植ニ從事スルヤ初メハ山上寒氣凜烈ニシテ小屋ニ起居スルニ堪ヘス土中ヲ穿テ穴居スルコト數年諸木繁茂スルニ隨ヒ寒氣漸ク薄ク後ニ冬中ト雖ヘトモ小屋ニ居ルヲ得タリト云フ此ノ業寛政六年ニ起リ文化年間ニ至テ増植スル所ノ數一百

三十萬本ノ多キニ達シ雨澤モ亦稍多キヲ加フ因テ藩主其ノ功ヲ賞シ
騎隨ノ列ニ准ス才次益事業ニ勵精シ之ヲ完成セント欲ス然ルニ幾モ
ナク病ニ罹リテ歿ス實ニ文化六年ナリ其ノ病ニ罹ルヤ自ラ起キサル
チ知リ子孫ニ遺命シテ曰ハク我將ニ死ナントス汝等若シ我ニ追孝セ
ント欲セハ宜ク力ヲ植樹ニ盡シ以テ本地ノ林業ヲ大成スヘシト子孫
其ノ遺命ヲ守リ相俱ニ力ヲ植樹ニ盡シ遂ニ現時ノ繁殖ヲ致セシノミ
ナラス河川ノ水勢往時ニ倍蓰シ下流ノ諸村稻田ヲ潤スニ餘ルヲ以テ
烟村ヨリ長原村ニ至ルノ間十有餘間ノ絶崖ニ通水橋ヲ架設シ小篠川
ノ水ヲ分テ之ニ注キ以テ飲水缺乏ノ各村ニ利用シ又之カ爲メニ荒蕪
變シテ良田トナルモノ頗ル多シト云フ嘗テ該藩ノ郡宰中村某其ノ功
チ嘉シ碑ヲ林中ニ建テ事蹟ヲ誌セリ十五年山林
共進會報告

加藤九藏

植林ノ功基
チ爲シ新田
大ニ與ル

九藏ハ伊勢國員辨郡深尾村ノ人父ハ九兵衛ト稱ス農ヲ以テ業ト爲ス
明和六年九藏年三十九膳所ノ城下ニ來リ該藩ノ仲間ト爲リ山林奉行
ニ隸屬ス人ト爲リ篤實寡言ニシテ能ク其ノ職事ヲ勉メ殊ニ志ヲ山林
ノ増殖ニ篤ウシ寸暇アレバ晨夕ヲ問ハス毎ニ杉檜ノ苗ヲ山谷諸處ニ
栽植シテ後年ノ用ニ供ス而シテ毎事人ニ語ラサルヲ以テ之ヲ知ルモ
ノナシ一日山林奉行山間ヲ巡見シ處々杉苗ノ栽植シアルヲ認メ異ミ
其ノ栽植スル者ヲ搜索シ殆メテ九藏ナル事ヲ知ル因テ其ノ篤行ヲ上
申シ玄米一石ヲ加増ス時ニ安永三年十二月ナリ尋テ九藏ニ苗木植付
方ヲ命シ人民ヲ勸課シテ大ニ樹苗ヲ山谷ニ栽植セシム五年九藏ノ功
チ賞シ玄米二俵ヲ給與シ七年又玄米五斗ヲ加増ス爾後益々造林ノ事ニ
力ヲ盡スニヨリ屢々賞與ヲ受ケ寛政六年三月藩主召見シテ其ノ篤志ヲ
賞シ與フルニ紋付羽織ヲ以テセリ九藏始メテ苗木ヲ栽培セシヨリ逐
年生長繁茂シ遂ニ水源ヲ涵養スルニ至ルヲ以テ藩主開發奉行ヲシテ

滋賀郡國分村、別保村、膳所村等ニ新田ヲ開カシム就中同郡錦村ニ於テハ文化元年十一月番頭役箕浦源之進ナル者ヲ以テ總奉行ト爲シ字御用池ト稱スル溜池ヲ築造シテ大ニ新田ヲ開ク是皆其ノ基ク所九藏ノ植林ニ外ナラス九藏晩年襲卒ト爲リ終身玄米十俵ヲ給與セラル九藏文化五年二月十一日病ヲ以テ歿ス享年七十八藩主其ノ死ヲ悼ミ木碑ヲ建テ其ノ功績ヲ表彰スト云フ明治十五年山林共進會ノ舉アルニ方リ其ノ功ヲ追賞シ四等賞ヲ賜フ十五年山林共進會報告

人見彌右衛門附水野千之右衛門 武藤加六

彌右衛門諱ハ恭、字ハ子魚、璣邑ト號ス本姓ハ小野世、武藏ノ人見邑ニ居ル、因テ氏トス。彌右衛門ハ江戸ノ講官人見靖安ノ次子ナリ。叔父貞安始メ尾張藩ニ仕フ子ナシ養テ嗣トス。彌右衛門天質方正恪慎博學洽聞聰明ニシテ大略多ク英氣耿介危言危行人ノ善ヲ聞ケハ篤ク嘆羨ス人ノ

水利ヲ開ク

不善ヲ視レハ切ニ教諭ス威嚴風烈人ニ敬セラル少ニシテ近侍トナリ孝世子ノ少傳ニ擢テラレ侍讀ヲ兼ヌ世子學ヲ勤ムルニ及ヒ潛龍論ヲ著シ先ツ人ヲ用ルノ道ヲ陳ス明和乙酉ノ春輔弼ノ功ヲ賞セラレ賜フニ采地ヲ以テス累遷シテ參政ト爲リ國政ヲ與リ聞ク傍ラ治水ヲ掌リ安達川ヲ疏鑿シ庄内川ニ分流シ以テ農田ヲ利ス此ノ業水野千之右衛門ヲ舉テ工事ヲ擔當シ武藤加六ヲシテ水利ヲ測量セシメ相共ニ力ヲ戮セテ工遂ニ成ルト云フ彌右衛門國學ヲ重修スルノ日細井督學ト力ヲ戮セ學規ヲ定メ尋テ大司農ヲ兼々命ヲ承テ農政ヲ改革シ直ニ舉ケ枉ヲ措キ代官衙ヲ四方ニ徙シ始テ司農監ト代官トヲ置キ吏ヲシテ親ク撫恤セシメ無告ノ者ノ疾苦ヲ問フ凡ツ事ヲ執ル一一ニ心ヲ清フスルヲ以テ要トス鹿衣淡飯シテ己ヲ人ニ示ス職ニ當リテ強毅令行レ禁止ム天明甲辰ノ年登ラス食乏シ富民風化シ貧窶ヲ賑濟ス自ラ巡視シ賞テ四方ニ行フ明年大稔藩主喜テ周ク農吏ヲ賞ス時ニ黃金及ヒ時服ヲ賜

凶荒ヲ救フ

フ幾モナク病チ以テ骸骨チ乞フ月俸チ賜ヒ隠居四年復^ダ白世子ノ大傅トナリ嘗嘗輔弼スル二年ニシテ致仕ス月俸故ノ如ク優遊歲チ卒ル寛政丁巳五月三日歿ス年六十九愛知郡石佛村善昌寺ニ葬ル著ス所張家寶、長崎志、三輪物語、タ烟、鶴巣文草等アリ皆家ニ藏ス尾張名

上 杉 治 憲

治憲ハ初名勝興秋月種美ノ第二子ナリ寶曆中米澤ノ城主上杉重定ノ養子ト爲リ名チ治憲ト改メ鷹山ト號ス明和四年重定隠居シ治憲封チ襲フ該藩往昔百二十萬石チ領シ後減シテ三十萬石トナリ又減シテ十五萬石ト爲ル而シテ大小ノ諸士舊數ヲ減セサルヲ以テ國計頗ル窘ム治憲封チ襲フニ及テ痛グ自ラ節儉シ食ハ一汁一菜ト爲シ衣ハ木綿チ用舟専ラ心チ士民ノ休養ニ致セリ其ノ封國ニ在ルヤ常ニ民ノ疾苦ヲ問ヒ旱天久シキニ涉ノ若クハ陰霖霽レサルトキハ郡邑ヲ巡行シテ豊

士民ヲ安養
シ産業ヲ興
ス

凶チ視察シ或ハ農家ニ休ヒテ農事ヲ親問ス又屢老人ヲ慰養シ孝子ヲ褒賞ス八年十二月治憲新ニ郡奉行所ヲ置キ重臣ヲシテ勸農殖產ノ要ヲ郡吏ニ諭サシム安永元年三月治憲米澤城西遠山村ノ内四段餘ノ田地ヲ以テ御小納戸開作場ト名シケ籍田ノ禮ヲ行フ初メ米澤ノ地勢四境皆山ヲ以テ包ミ封内ノ米穀他國ニ輸送スルノ便ナキヲ以テ自ラ米價賤ク惰農風ヲ爲シ田地ノ價モ亦甚タ賤シ治憲之ヲ嘆シ遂ニ此ノ禮ヲ舉テ農耕ノ重ンス可キヲ民ニ教フ此ヨリ力田漸ク進ム四年治憲重臣竹股美作ノ建議ヲ納レ國產所ヲ創設シ正副二人ノ奉行ヲ置キ漆桑及ヒ楮ノ苗木ヲ仙臺、伊達、福島等ニ求メ各一百萬本ヲ封内ニ栽植セシム就中漆ハ古來米澤ノ名產ニシテ明暦ノ初メ郡中ノ漆樹ヲ計查シ二十六萬三千三百十三本ヲ役木ト定メ其ノ實五千八百俵ヲ公稅ト爲ス其ノ後増殖享保ノ頃ニ至テ四十九萬本ノ多キニ至ルモ近年漸ク衰耗シ安永元年之ヲ計查スルニ僅ニ十九萬本ト爲ル是ニ於テ増殖ヲ謀リ

原野空闊ノ地ヲ開キテ之ヲ栽植シ苗木ヲ請フモノニハ與ヘ又封内ニ令シ士民ヲ問ハス漆苗ヲ植ウル者ハ毎本金二十文ヲ給シテ其ノ費ニ充ツ桑楮ノ二木モ之ヲ獎勵シ其ノ採收ヲ待テ高價ヲ以テ之ヲ購入ス五年十月治憲各村ニ諭シ每人糲一升ヲ蓄積セシム是ヨリ先キ治憲蓄穀ノ急務ナルヲ察シ從前ノ糲藏屋敷内ニ豫備倉五宇ヲ新設シ糲數千俵ヲ蓄ヘ諸士ニ命シ知行百石ニ付米二斗二升五合ヲ貯ヘシメ且々糠野目村宮村等ニモ穀倉ヲ建設シ上米ヲ糲納トナサシメ之ヲ蓄ヘ以テ凶荒ニ備フ是ニ至テ更ニ村民ニ諭シテ蓄穀セシム尋テ又令シテ毎村豫備倉ヲ設ケテ蓄穀セシメ毎倉二三百俵ヲ給與シテ之ヲ補助ス天明四年四月下旬ヨリ八月ニ至ルマテ霖雨ヤマス氣候季秋ノ如ク遂ニ奥羽飢饉トナル是ニ於テ治憲日夜斯民ヲ救濟セシコトヲ苦慮シ貴賤トナク粥ヲ以テ飯米ヲ延ハスヘキヲ命シ又酒造及ヒ穀製ノ菓子類ヲ禁シ豫備倉ヲ發キ毎日安價ヲ以テ米穀ヲ賣與シ又藩吏數名ヲ越後ノ三輪渡

邊酒田ノ本間ヘ遣ハシテ金ヲ借り新潟酒田兩港ニ於テ米一萬三千餘俵ヲ購入シ新潟ノ米ハ兩關ノ驛ヨリ馳送シテ小國中津川ノ窮民ニ給シ酒田ノ米ハ最上川ヨリ船漕シテ下長井ノ難村ニ施セリ又城下數十處ニ於テ日々男ニハ三合五匁女ニハ二合五匁ヲ與ヘ之ニ付スルニ味噌十匁ヲ以テシ尤モ貧困ナル者ニハ衣類ヲ給ス又臣隸ヲ召シテ救荒ノ要ヲ諭シ三時ノ食必ス粥ヲ用ヰシム當年ノ凶荒古來未曾有ト稱ス而シテ治憲至誠ノ心ヲ以テ力ヲ救荒ニ盡クセシム以テ米澤封内一人ノ餓死離散スル者ナシト云フ寛政五年治憲漆樹取締ノ爲メ始メテ漆目明役十五人ヲ置キ搔漆増殖等ノ事ヲ管理セシメ又漆苗培養料トシテ一人ニ付毎年金五貫文ヲ給與シ搔漆ノ期節ヲ限定シ兩方搔深搔根際搔等ノ採收方ヲ禁ス又各代官所内ニ苗木場ヲ設ケ農民一人毎ニ桑五本楮五本柿一本ヲ下付シテ之ヲ培養セシム八年治憲代官色麻五左衛門ノ建議ヲ納レ新百姓ノ給助法及ヒ開墾者ノ免除法ヲ定ム是ヨリ

先キ治憲開荒殖民ノ經費ヲ勸農金ト名ッケ諸士ノ子弟ヲシテ隨意土着セシム是ニ至テ更ニ給助免除ノ方法ヲ定メ他國ヨリ封内ニ來リ留ルコト四五年遂ニ領民タラント欲スル者ハ夫食五俵家作料五貫文木材二十本石三行ヲ下付シ且フ年期ヲ限リテ貢租徭役ヲ减免シ士民ヲ問ハス開墾スル者ハ鉢下五年間其ノ租ヲ免シ第六年ヨリ五年間村免ノ内四分ノ一ヲ徵シ第二十一年ヨリ本地正額ノ租稅ヲ納メシム治憲嘗テ富國本免ヲ徵シ第十一年ヨリ五年間米免ヲ徵シ第十六年ヨリ五年間安民ノ道ハ殖產ノ一術ニアリトシ國產諸局ヲ開ク而レトモ國用乏シキナ以テ中廢ス是歲復ダ之ヲ興ス就中蠶桑ヲ以テ物產民利ノ第一トシ重臣益戸九郎兵衛等心ナ此ニ留メ領民ニ桑苗ヲ頒チ費用ヲ與ヘテ大ニ之ヲ開カントス而シテ國用猶窮乏ナ告ケ衆議殆ド復止メントス治憲執政ニ諭シテ曰ハク凡ツ事速ニ成就セント欲セハ却テ成就セサルモノナリ小ナ積テ大ナ爲シ其ノ事ヲ永續スルヲ以テ眞ノ成就ト爲スヘ

シ當今財用乏シキナ以テ素ヨリ莫大ノ資糧ヲ與フル能ハスト雖ヘトモ民力ヲ窮極スル上ナレハ多少ニ拘ハラス上ヨリ貸與セサレハ國產興起ノ道廢スヘシ我尙節儉ヲ行ヒ臺所仕切料四百兩ノ内五六十兩ヲ減シ之ヲ年々支出シテ蠶業ノ資ニ充ツヘシ五六十兩ハ僅少ナリト雖ヘトモ數十年ノ久キナ積マハ必ス國益ヲ生スル蓋シ鮮少ナラサルヘント乃ナ郡村ニ令シテ桑苗ヲ栽培セシメ年々苗木ヲ買收シ四民ノ請ニ應シテ之ヲ下付ス又居城ノ内庭及ヒ餐霞館ニ於テ蠶ヲ養ヒ以テ蠶業ノ重ンスヘキヲ示シ伊達福島等ヨリ養蠶ニ精キ者數人ヲ召聘シテ國中ニ教ヘシメ其ノ養方栽桑方等ヲ集録シテ一卷トナシ養蠶手引ト名ツケ之ヲ刊行シテ國中ニ頒ツ米澤ノ蠶業是ヨリ興レリ文政五年三月薨ス治憲英明精ニ政治ニ關マシ嘗テ細井徳民ヲ聘シテ之ヲ用ヰ弊政ヲ革メ校舎ヲ興ス尤モ心ヲ殖產ニ用ヰ能ク士民ヲ安養シ晩年封内大ニ治マリ聲四鄰ニ聞ユ
蓬山公偉 繕題楚篇 緯